

れる。

10号墳

一辺17.5mの方墳で平行四辺形状にゆがんでおり、幅1.7～2mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は南辺中央の5×8mの土壇内に構築された単室の横穴式石室で、軟砂岩の切石を用い、長さ約3m、幅約1.5mをはかる。石室床面にて貝の出土が見られ、天井石上から須恵器長頸瓶が、墳丘中心部から直刀が出土。7世紀中葉頃であろうか。

27号墳（伝伊都許利命墳墓）

印旛沼東岸の八代台地上に位置する。一辺約35mの方墳。内部施設は2つあり、1つは南に開口する切石を用いた単室の横穴式石室で、玄室長は約3.8mをはかる。1つは西裾に構築された箱式石棺で、片岩を用いており長さ約2mをはかる。既に開口しており出土遺物はないが、7世紀代に属しよう。現存。横穴式石室と箱式石棺を合わせ有する点が注目される。

32号墳

一辺18m弱の方墳で、幅約4m標準の周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は墳丘中央部に設けられた木棺直葬遺構で、推定長3.7m、幅0.7mをはかる。刀子1、白玉31が出土。6世紀代と報告されており、前半に属すると推測される。33号墳に近接する周堀部分がゆがんでいるため、33号墳の次の築造になるものと考えてよい。

33号墳

一辺16～17mの方墳で、幅2～3mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は、墳丘中央部に設けられた長さ3.2m、幅0.8mの木棺直葬遺構で、白玉46が出土。6世紀初頭に属すと推定される。

34号墳

径18m強の円墳で、現存幅1.5mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は南からやや東に開口する軟砂岩切石を用いた単室の横穴式石室で、長さ3.3m、幅1mをはかる。玄室内から刀子1、人骨が、羨道部から刀子1、須恵器片が、前庭部から直刀1、刀子1、鉄鏃16、須恵器長頸瓶、長頸壺、平瓶、土師器碗が出土したとされるが、須恵器は長頸瓶のかわりに短頸壺の挿図あり。7世紀前半に属すと推測される。

35号墳

径7m程の円墳かと推定。幅1.5mの周堀がめぐる。内部施設は軟砂岩の切石を用いた石室らしい。

36号墳

径11mの円墳で、幅4～5mの周堀をめぐらすが、西半部は特に幅0.8mの溝を重複して掘っている。外部施設はなし。内部施設は墳頂下に設けられた2つの木棺直葬遺構で、1つは長さ2.3m、幅0.8m、1つは長さ2.1m、幅0.7mをはかる。各々から直刀1が、また、重複した溝から、石製模造品、白玉、鉄斧、須恵器、土師器片が出土したと報じている。6世紀代に属

すると思われる。

37号墳

径20mの円墳で、幅1.8mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は南裾部に軟砂岩を用いて構築された箱式石棺で、内法長1.9m、幅0.8mをはかる。石棺内から直刀1、刀子1、鉄鏃11、骨が、周堀から須恵器1、土師器甕1が出土。7世紀前半に属すると推測される。

40号墳

径約15mの円墳かと推定。幅1.7mの周堀が存在する。内部施設は軟砂岩の切石を用いた単室の横穴式石室と推定。長さ2m、幅1mをはかる。石室から鉄鏃2、切子玉1の出土を報じている。7世紀に入ると推測される。

41号墳

径10m弱の円墳で、幅2m程の周堀が一周する。

42号墳

一辺9m弱の方墳で、幅1.8mの周堀が一周する。

43号墳

径8mの円墳で、幅2～3mの周堀が一周する。

44号墳

一辺16mの方墳で、幅1.6mの周堀が一周する。内部施設は南辺に設けられた単室の横穴式石室で、軟砂岩の切石を用いており、長さ2.8m、幅0.8mをはかる。7世紀代に属すると思われる。

45号墳

径約11mの円墳で、幅2mの周堀がめぐる。周堀の切り合いから天王船塚44号墳より古い。

46号墳

径24mの円墳で、幅1.8mの周堀が一周し、一部に2重にめぐる可能性がある。内部施設は南裾部で旧地表に掘られた木棺直葬施設で、長さ3.7m、幅0.55mをはかる。これから刀子1、鉄鏃5が検出されたほか、周堀からは土師器杯2が出土している。7世紀と報告しているが、6世紀に遡るものであろう。

48号墳

昭和40年、茂木雅博により大山古墳として報告された古墳である。一辺11～13mの方墳で、幅2～2.5mの周堀が一周する。内部施設は旧地表から掘り込まれた2.5×3mの土壇内に構築された箱式石棺で、内法長1.8m、幅0.9mをはかる。棺外から尾錠1、鉄鏃50が、周堀から土師器椀1が出土している。

49号墳

一辺23mの方墳で、幅2.5mの周堀がめぐる。内部施設は片岩と砂岩片の出土から、石棺か

石室の存在が推定される。周堀から土師器甕、須恵器甕片が出土。7世紀代と推測される。

50号墳

一辺19.5mの方墳で、幅2.5mの周堀が一周する。内部施設は南辺中央部に構築された単室の横穴式石室で、軟砂岩の切石を用いており、長さ2.5m、幅1.2mをはかる。石室内から須恵器平瓶1が、前庭部および周堀から馬具の一部が出土しており、また、勾玉1、管玉1の挿図がある。7世紀前半に属すると思われる。

以上、昭和46年、千葉県北総開発公社文化財調査事務所調査。成田ニュータウン建設のため湮滅。

八代台古墳群 成田市八代 (260)

天王・船塚古墳群より北、印旛沼に面する台地縁辺部に所在する。25基からなる。

7号墳

径25mの円墳で、幅3.5～5mの周堀がめぐる。

8A号墳

一辺9.5～11mの方墳で、幅1.5mの周堀が一周する。

8B号墳

方墳で、幅1.5mの周堀がめぐる。

20号墳

北、南辺15m、東、西辺10mの長方形墳で、幅1.2mの周堀が一周する。南辺寄りに掘られた2.8×1.6mの土壌内に片岩を用いて箱式石棺を構築している。7世紀代に属するであろう。

21号墳

径10mの円墳で、幅2m弱の周堀がめぐる。

22号墳

径11.5mの円墳で、幅1.5mの周堀がめぐる。

 昭和46年、千葉県北総開発公社文化財調査事務所調査。成田ニュータウン建設に伴い湮滅。資料は房総風土記の丘資料館保管。

赤坂、瓢塚古墳群第13号墳 成田市赤坂 (222)

根木名川流域の台地上に位置し、瓢塚古墳群に属する。一辺18mの方墳で、幅3.5～4mの周堀がめぐる。内部施設は、墳頂部で粘土塊を検出していることから木棺直葬遺構と推測される。墳丘下に和泉期の住居址を検出しており、古墳は6世紀代に属すと推測される。消滅。

昭和48年、成田市教育委員会(藤下昌信)調査。墳丘下出土遺物は成田市教育委員会保管。

浅間台古墳 成田市野毛平浅間台 (87)

香取川流域北岸の台地に位置し、他に7基の古墳が所在する。径6mの円墳と報告されているが、完掘すれば更に大きいと推測される。内部施設は粘土棺と報告されているが、砂岩切石を用いた石棺または石室と推測される。残存部計測値は長さ2.9mをはかる。頭椎大刀1、直刀1、刀子または鉄鏃が10数本出土。内部施設に伴うか不明であるが、土師器、土錘、石製模造品、開元通宝が検出されている。7世紀代に属するものであろうか。現状不明。

昭和34年、成田高校郷土史研究部（山田巖）調査。遺物は成田高校資料室保管。

上福田古墳（上福田岩屋古墳・上福田古墳群第7号墳） 成田市上福田（22）

八代台地のうち根木名川流域に面する台地上に位置する。一辺32mの方墳で、内部施設は南東に開口する貝殻混入の切石を用いた単室の横穴式石室。全長4.4m、玄室幅2.7m、玄室長2mをはかる。古くからの開口のため出土遺物はなし。竜角寺岩屋古墳との関連から7世紀後半と報じているが、疑問視してよい。いわゆるT字形と呼ばれる石室形態が注目される。

大正11年、小松真一、昭和50年、成田市教育委員会（工藤英行）調査。現存。

長田1号墳 成田市長田土上台（323）

香取川流域北岸の台地上に位置し、他に3基の古墳が所在する。墳形は不明。内部施設は旧地表下に掘られた3×2.2mの土壇内に構築された箱式石棺で、壁に砂岩の切石を、蓋に片岩を用いる。石棺の内法は長さ1.7m、幅1.5～1.7mをはかる。棺内から直刀3、刀子1、鉄鏃12と人骨を検出した。7世紀代に属すと推測される。人骨は7体以上と推定され、熟成年男子2、熟成年女子2、少年2は確認されている。

昭和52年、小川和博、工藤英行調査。石棺は残存。遺物は成田市教育委員会保管。

荒海古墳群第15号墳 成田市磯部字狭間（245）

根木名川下流域の台地上にある全長27m、後円部径15m、前方部幅12.5mの前方後円墳で、円筒埴輪のほか人物の形象埴輪が存在した。土砂採取による調査前削平のため、内部施設、副葬品は不明。西暦6世紀後半かと推測される。

昭和49年、荒海古墳群発掘調査団（小川和博、工藤英行）調査。遺物は成田市教育委員会保管。

〔41. 下総町〕

木挽崎古墳群（第1次調査） 香取郡下総町名木（277）

利根川水系の支流にのぞむ舌状台地上に所在。墳丘長26.5mの前方後円墳1基、径18.5m、14mの円墳2基を調査。すべて埴輪列をもち、内部施設は木棺直葬。円筒埴輪、剣、直刀、鉄鏃、管玉、白玉、ガラス玉、水晶製切子玉が出土。砂利採取に伴い湮滅。

昭和50年、渋谷興平調査。遺物は下総町教育委員会保管。

木挽崎古墳群（第2次調査） 香取郡下総町名木（332）

円墳2基が調査された。古墳の詳細な報告はされていない。埴輪列を有し、内部施設は木棺直葬。円筒埴輪、形象埴輪、直刀、管玉、白玉、ガラス玉、切子玉が出土。

昭和50・51年、越川敏夫調査。他は第1次調査と同じ。

大日山古墳 香取郡下総町字高（176）

利根川に面する標高30m程の台地上に所在。北側へ舌状に突出した台地端部に古墳4基があり、調査時には前方後円墳以外の3基は湮滅していた。墳丘長約54m、後円部径約33m、同高さ4mの前方後円墳。周堀はめぐらない。墳丘裾部は地山整形され、盛土は4mであるが外観上の古墳の高さは5.5m程となる。前方部は削平が著しく詳細は不明。内部施設は後円部墳頂下の木炭櫛。長さ約5.5～6m、幅1.1mをはかり、長軸は墳丘の主軸と同方向。木炭櫛内より、剣、鉄斧、刀子、管玉、ガラス小玉、人骨が出土。4世紀末～5世紀初頭と推察される。

昭和45年、早稲田大学（市毛勲）調査。採土工事により湮滅。遺物は房総風土記の丘資料館保管。

武田古墳群 香取郡神崎町武田（198）

利根川に面し東北から南西にのびる台地平坦面東北端に所在する。標高は約30m。

1号墳

径16m、高さ2mの円墳。墳丘東側の墳頂部よりやや下った位置に円筒埴輪列がめぐり、内部施設は不明。

2号墳

一辺13.2m、高さ2mの方墳。墳頂直下より経筒が出土したが、墳丘の構築状態より古墳と考えられる。経筒埋納時に墳丘が整形された可能性が考えられる。内部施設は未検出。

3号墳

径20m、高さ2.5mの円墳。墳丘西側裾部に円筒埴輪列がめぐり、内部施設は未検出。

昭和47年、栗本佳弘調査。土砂採掘により湮滅。

[42. 神崎町]

舟塚原古墳 香取郡神崎町新（181・209）

利根川の沖積地より約3.5m奥まった台地上に所在する。台地の北側はなだらかな傾斜面となり、この斜面に小円墳とまじって本墳が存在する。全長4.5m、後円部径27.5m、同高さ4.2m、前方部幅35m、同高さ4mの前方後円墳。前方部はほぼ西面する。周堀は幅約2.3m、深さ約1mで「長方形」を呈し、一周する。裾部で埴輪が出土し、出土状況から円筒埴輪を墳丘全体にめぐらし、その間隔は極めて疎であったと推測される。人物、家形埴輪は墳丘南側のみ

で検出された。内部施設は未検出。旧表土層面より土師器杯、高杯が故意に破碎された状況で出土、盛土中に土城状を呈す遺構があり、土師器杯、甕、白玉、紡錘車が出土、墳丘南側裾部より、須恵器杯、土師器杯が出土。6世紀中葉以降と推察される。

昭和46年、早稲田大学（市毛勲）調査。現存。

小松古墳 香取郡神崎町小松（23）

利根川の南側台地の北端部に所在する。墳丘長約109m、後円部径約32.7m、同高さ約5.2m、前方部を北面する前方後円墳。内部施設のみ調査。後円部墳頂下の箱式石棺。石棺長軸はほぼ東西を示し墳丘主軸と直交する。内容長約2.4m、高さ約0.75mをはかる。石枕、立花、直刀、ガラス小玉が出土。

大正13年、調査。

〔43. 大栄町〕

地藏原1号墳 香取郡大栄町久井崎（51）

大須賀川沿岸台地上に所在。付近には小円墳が確認される。径約15m、高さ約1mの円墳。墳丘南側裾部で石棺を検出。箱式石棺で、長軸はほぼ東西を示す。長さ1.8m、幅0.6m、高さ0.8m。床面、側壁は軟質砂岩、蓋石は緑泥片岩が用いられ、小口は各1枚、側壁は持ち送りの截石積み、蓋石は扁平な板石5枚からなる。直刀、刀子、鉄鏃、耳環、人骨5体出土。

昭和27年、早稲田大学（大川清）調査。耕作により湮滅。

〔44. 佐原市〕

片野古墳群 佐原市片野（201）

利根川の南岸台地の奥部に所在する。片野古墳群は4群に分かれるとされ、第1群は前方後円墳2、円墳8、第2群は前方後円墳3、円墳3、第3群は前方後円墳4、円墳11、第4群は前方後円墳1、円墳4からなり、総計36基をかぞえる。

1号墳

第2群に所属。墳丘、周堀が未調査の為、詳細は不明。前方後円墳と報告。内部施設はすでに露呈していた。墳丘南側裾部と思われる個所に位置する。軟砂岩の板石による箱式石棺で、内法長1.76～1.81m、幅0.58m、側壁高0.43～0.6m、長軸方向N-23°-Eをはかる。床面は切石を全面に敷く。

4号墳

第2群中の前方後円墳。全長23.6m、後円部径14.5m、前方部幅13.5m、高さ2.5mをはかる。墳丘は主軸をN-10°-E、前方部をほぼ北に向ける。幅3～3.7mの周堀が一周する。内部施設は、くびれ部中央に旧表土層を掘り込んだ土城内に存する箱式石棺。乱掘されていた

が、雲母片岩を用い、長軸はN-40°-W、1.25×0.75mの規模と推定された。管玉、小玉が出土。周堀内覆土中からは須恵器長頸壺が出土。

8号墳

第2群中の円墳。径18.5~20.5m、高さ約2mをはかる。周堀は認められない。内部施設は墳丘南側裾部に旧表土層を掘り込んだ土壌内の箱式石棺。長さ1.86~2m、幅0.8~0.9m、高さ0.9~0.95mをはかる。石材は雲母片岩の板石で、底石は5枚。棺内より人骨2体が検出され、検出状況より2体合葬と推察される。直刀、耳環、勾玉、切子玉、そろばん玉、管玉、棗玉、丸玉、ガラス小玉、赤色顔料が出土。石棺掘り方中より須恵器甕が出土。7世紀前半ないし7世紀中葉に推定される。

9号墳

第3群中の円墳。径約10.5m、高さ1mをはかる。周堀は認められない。内部施設は墳丘南側裾部に、旧表土層を掘り込んだ土壌内の箱式石棺。蓋石は遺存しない。内法長1.85m、幅0.75~0.84m、側壁高0.79~0.8mをはかり、長軸はN-40°-E。石壁面に荒い削痕が認められる。床面には角のとれた雲母片岩の小礫が敷かれる。棺内より刀子、ガラス小玉、棗玉、人骨が出土。7世紀後半と推定される。

10号墳

第3群中の前方後円墳。墳丘長約24.8m、後円部径約18m、同高さ約2m、くびれ部幅約14m、前方部幅約10m、同高さ約0.7mをはかる。周堀は一周する。内部施設は後円部墳頂部に構築される。現墳頂下約0.6mから掘り込まれる。雲母片岩の板石を組み合わせた箱式石棺で、N-80°-Eを示す。内法長約1.9m、幅0.5m、高さ0.48m、蓋石が遺存する。底石は3枚。棺内より直刀、刀子、鉄鏃、ガラス小玉が出土。7世紀初頭から7世紀前半と推定される。

11号墳

第4群中の前方後円墳。墳丘長32m、後円部径21m、同高さ3m、前方部幅20.8m、同高さ2.2mをはかる。外観は二段築成の墳丘を呈する。周堀は幅4.2~5.7m、深さ0.5~0.7mで、前方部東側に幅3mのブリッジがあり一周しない。後円部東側裾部からくびれ部、前方部にかけて埴輪列がめぐる。円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪(馬、人物)がある。内部施設は後円部墳頂下にある。墳丘中途まで盛土が行なわれ、そこを掘り込み面として構築された土壌。ほぼ東西に向き、長辺約3.9m、短辺約1.3m、深さ1.1mをはかり、断面U字形を呈す。炭化材が一部検出され、木棺の存在が示唆される。土壌内より直刀、刀子、鉄鏃が出土。6世紀後半と推定される。

12号墳

第4群中の円墳。周堀と墳丘との間にテラスがあり、周堀外径18.5~23m、テラス平坦部内径11~12m、墳丘高2.2mをはかる。周堀は2~3m、深さ0.3~0.5mで一周する。内部施設は未検出。

13号墳

第4群中の円墳。周堀と墳丘との間にテラスがあり、テラスは幅0.9～1.9m。周堀の外径17.5m、墳丘高約2mをはかる。周堀は幅約2m、深さ約0.6mで一周する。内部施設は未検出。

21号墳

第3群中の円墳。径約11mをはかる。周堀は認められない。内部施設は未検出。

22号墳

第3群中の円墳。外径約30.6m、内径約25.8m、墳丘高1.8mをはかる。周堀は幅約3.5m、深さ0.7～0.9mをはかる。内部施設は未検出。

23号墳

第3群中の前方後円墳。墳丘長33.7m、後円部径20.4m、同高さ3.1m、くびれ部幅13m、前方部幅21.7m、同高さ2.6m、主軸N—78°—Eをはかる。外観上二段築成の墳丘を呈する。周堀は幅5.5～8.3m、深さ0.4～0.6m。後円部北側からくびれ部及び前方部に埴輪列がめぐる。裾部に配列されるほか、後円部には墳頂部付近にも認められる。墳頂部付近より円筒埴輪、基壇部分より家形、人物、円筒埴輪が検出された。内部施設は土壙で、後円部墳頂下約3mで検出された。旧表土層より約0.7m程盛土が行なわれた段階で、土壙を掘りこむ。木棺直葬と推定される。土壙底部より2.5m程上部で、直刀、鉄鏃が出土。棺外副葬品と考えられる。6世紀末～7世紀初頭と推察される。

昭和46年、東国古文化研究所（尾崎喜左雄）調査。東京電力新佐原変電所建設に伴い湮滅。

堀之内古墳群 佐原市堀之内（277）

利根川とその沖積地を北側眼下に望む舌状台地平坦部に古墳7基が所在。古墳の詳細は未報告。7基とも円墳で、内部施設は箱式石棺1、他は木棺直葬と考えられる土壙であった。1基から石枕、立花が出土。昭和49年、渋谷興平調査。宅地造成に伴い湮滅。

鵜崎天神台古墳 佐原市鵜崎（277）

大戸川にのぞむ台地東側先端部に所在。径30mをはかる円墳で、周堀は一周する。墳頂下で3つの粘土槨が並列した状態で検出された。1号棺より鉄剣、石製模造品（刀子、斧）、2号棺より直刀、刀子、白玉、石製模造品（刀子、斧）が出土。5世紀中葉と推定される。

昭和48年、渋谷興平調査。砂利採掘に伴い湮滅。遺物は伊能忠敬記念館保管。

大戸川古墳 佐原市大戸川（318）

利根川に流入する大須賀川下流の沿岸、河岸段丘上に所在する。採土工事によって偶然に発見された。前方後円墳と推測されるが判然としない。画文帯鏡、赤彩された石枕、戟、桂甲小

札、直刀、鉄鏃、馬鐙、鏡板、杏葉、円筒埴輪が出土。6世紀初頭と推察される。

墳丘の一部を残し湮滅。遺物は房総風土記の丘資料館保管。

白幡古墳 佐原市大戸 (27)

大戸神社東南方向約1m、標高約40mの台地平坦面に所在する。20余基の古墳が確認された。径約14mの円墳。周堀は未調査。箱式石棺をもつ。構築位置等不明。石棺長軸はほぼ東西を示し、内法長約2m、幅約0.7m、高さ約0.64mをはかる。緑泥片岩の扁平な板石を使用。床面は同質の板石が敷かれる。棺内より人骨、直刀、刀子、鉄鏃、耳環、丸玉、棗玉、小玉、ガラス小玉、勾玉が出土。

神道山古墳 佐原市香取 (184)

香取神社北方約1km程の台地平坦面に所在する。前方後円墳1基、円墳11基が確認され、前方後円墳1基の調査が行なわれた。墳丘長約47.3m、後円部径約27.3m、同高さ約4.4m、前方部幅約25.5m、同高さ約4.4mをはかり、前方部を西面する。

[45. 小見川町]

阿玉台北A-1号墳 香取郡小見川町五郷内 (267)

下総台地東北部に位置し、黒部川にのぞむ台地上に所在する。遺跡東側部分をA地点、西側をB地点とし、AB両地点間には微低地が存在する。A-1号墳(A地点001号墳)は不整な方墳で、一辺8.1~10.4m、周溝外縁の一辺10.3~12.6mをはかる。封土は遺存しない。南辺中央に横穴式石室が開口する。主軸はN-3°-W、石室は損乱が著しく掘り方のみ遺存する。掘り方長5m、幅2.4~1.8m。須恵器長頸壺片、勾玉、ガラス玉、鉄鏃片、鉸具が出土。

昭和49年、千葉県都市公社文化財調査事務所(矢戸三男他)調査。調査後湮滅。出土遺物は房総風土記の丘資料館保管。

阿玉台北A-2号墳

一辺7.5~8.5mをはかる幾分長方形を呈する方墳。幅1~1.6m、深さ0.5~0.7mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に横穴式石室が開口する。主軸はN-25°-E。攪乱が著しく、玄門寄りの側壁下段のみ残存する。板状の砂岩が使用されている。羨道部の状況より両袖式、半地下式と推察される。玄室より人骨、歯、周堀覆土中より須恵器長頸壺が出土。

阿玉台北A-1号墳に同じ。

阿玉台北A-3号墳

前方部の短い前方後円墳で、主軸外縁長13m、後円部外縁径約10m、前方部外縁径約7mと

報告されている。周堀は後円部からくびれ部まで認められ、幅0.5~1.5、深さ0.25~0.5mをはかる。前方部前面には周堀がめぐらない。くびれ部中央でロームを掘り込んで構築された箱式石棺を検出。主軸N-69°-E。内法長1.52×0.62m、高さ0.5mをはかる。床面には、小砂岩塊が全面に敷かれる。人骨、耳環が出土。

阿玉台1号墳に同じ。

阿玉台北A-4号墳

一辺8~9mの不整形の方墳。幅1~1.2mの、深さ0.25~0.4mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に開口する横穴式石室が伴うが、攪乱が著しく、詳細は不明。掘り方の規模は長さ約4m、幅1.5mで、ロームを掘り込んで構築される。鉸具、責金具、耳環、須恵器片が出土。

阿玉台北A-1号墳に同じ。

阿玉台北A-5号墳

一辺8.8~9.6mの長方形気味の方墳。幅1m、深さ0.2~0.4mの周堀が一周する。封土は遺存しない。両辺中央に横穴式石室が開口する。主軸はN-34°-E。攪乱が著しく基底部の石材が遺存するのみ。玄室長1.8m、幅1.05m、羨道部幅0.6mをはかる。直刀、勾玉、切子玉、甕玉、小玉、ガラス玉が出土。

阿玉台北A-1号墳に同じ。

阿玉台北A-6号墳

一辺10~10.4mの方墳。幅1m、深さ0.3~0.5mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に開口する横穴式石室を伴う。盗掘をうけていたが石室はかなり良好な状態で遺存。主軸はN-24°-Wの砂岩の切石と砂岩塊によって構成される。玄室は長さ2m、奥壁幅0.9m、玄門幅0.8m、床面より天井まで高さ1.1mをはかる、羨道は長さ約1.3m、幅約0.7mをはかる。玄室から直刀、鏢、責金具、羨道から直刀が出土。他に須恵器長頸壺が各室内より出土。

阿玉台北A-1号墳に同じ。

阿玉台北A-7号墳

前方部をほぼ東面する前方後方墳。墳丘長25.5m、後方部一辺16m、前方部幅7mをはかる。幅2~3mの周堀がめぐると、重複遺構のため全体のプランは不明。封土は遺存せず、内部施設も未検出。周堀内より遺存度の良い五領式土器が出土しており、この時期の築造と推測される。

阿玉台北A-1号墳に同じ。

阿玉台北B-1号墳

一辺9.2~11.2mをはかる方墳。幅1.5~2m、深さ0.4~0.6mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に開口する横穴式石室を伴う。攪乱が著しく、基底部が残るのみ。石室は砂岩切り石により構築される。主軸はN-13°-E。玄室は長さ約2m、奥壁幅1.38m、玄門幅1.2m。羨道部は攪乱が著しく不明。玄室内より人骨、直刀、刀子、ガラス玉、周堀覆土中より須恵器が出土。周堀底に長さ2.7m、幅0.7mの細長い土壙が検出され、直刀1、管玉10が出土。追葬用施設と推測される。

阿玉台北A-1号墳に同じ。

阿玉台北B-2号墳

径約20mをはかる円墳で、周囲との比高0.4mほどの墳丘が認められた。周堀は幅4~6m、深さ0.7~0.9mで一周する。内部施設は未検出。

阿玉台北A-1号墳に同じ。

阿玉台北B-3号墳

一辺10~12mをはかる方墳。幅約0.8m、深さ0.25~0.4mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に開口する横穴式石室を伴う。主軸はN-32°-E。石室は攪乱によりほとんどその痕跡を残さない。石材の抜きとり痕からみて、玄室長2m、幅1m、掘り方内より須恵器長頸壺が出土。

阿玉台北A-1号墳に同じ。

阿玉台北B-4号墳

南側が調査区外に存在する為、調査区内のみ調査された。一辺約8mをはかる方墳と考えられる。幅0.7~0.8m、深さ0.15~0.25mの周堀がめぐる。封土は遺存しない。調査区内において内部施設は未検出。

阿玉台北A-1号墳に同じ。

城山1号墳 香取郡小見川町城山(124・125・146)

利根川にそそぐ黒部川にのぞむ標高約45.5mの台地上に城山古墳群が所在する。墳丘長68m、後円部径約30m、くびれ部幅約25m、前方部幅約35mをはかり、前方部が、後円部に比べ約0.5m程高い。主軸はN-6°-Eを示し、前方部が北面する。周堀は部分的に認められた。墳丘中段に、埴輪列が一周する。円筒埴輪と形象埴輪が認められる。円筒埴輪は墳丘全体にめぐることが、形象埴輪は、前方部西側からくびれ部、後円部一部にのみ配列される。配列は、北から、男子・馬・馬・武装男子・武装男子・正装男子・両手を挙げる男子・冠帽の男子・家形の順。内

部施設は、後円部南側裾部に開口する。横穴式石室で、左袖が0.4m張り出す左片袖形式である。玄室は長さ4.5m、奥壁幅1.7m、玄門幅1.35m、高さ1.45m、羨道部は長さ2m、幅9m、高さ1mをはかる。石材は凝灰岩と常陸石といわれる水成岩。羨門部は凝灰岩の板石1枚で閉塞される。石室床面は拳大の河原石が敷かれ、玄室中央西寄り、木棺が確認された。木棺内より三角縁三神五獣鏡1、耳環7（銀4・金銅3）、刀子10、金銅鈴11、銀珠30、トンボ玉5、小玉、金銅透彫金具（唐草文・天冠の一部）が出土した。鏡は、「吾作明竟甚大好、上有神守及竜虎、身有文章口銜巨、古有聖人東王父西王母、渴飲玉塗、飢食棗、寿如金石」と吾作銘が認められ、椿井大塚山古墳出土鏡と同範である。玄室内から、環頭大刀5、円頭大刀1、頭椎大刀1、直刀11、鉄鏃、衝角付冑、桂甲、腰当、鞍、壺鐙、轡、雲珠、針、懸金具が出土。また前庭部には、凝灰岩切り石を用いた石敷が認められ、故意に破砕された状況で、土師器高杯、須恵器台付長頸埴、蓋付高杯、高杯、提瓶、杯、杯蓋、甕が出土した。鏡等、豊富な遺物を出土した古墳として特筆すべきもので、東国古代史上に占める位置、意義は大きい。6世紀後半と推察される。

昭和38年、立正大学（丸子亘）調査。学校建設に伴い湮滅。出土遺物は小見川町教育委員会保管。正式報告は近刊。

城山5号墳（134）

墳丘長50m、後円部径約30m、くびれ部幅約20m、前方部前幅約30mをはかり、後円部より前方部がやや高い。幅約3mの周堀が一周する。墳丘中段に円筒埴輪・形象埴輪を樹立。円筒埴輪は、墳丘を一周するが、形象埴輪は、前方部西側のみに認められ、城山1号墳と類似する。形象埴輪の配列は、人物、馬、人物、人物、馬、人物、人物、人物の順。内部施設は未検出。後円部南側くびれ部付近で、埴輪と同レベルで、須恵器杯、杯蓋が、前方部北側稜端で埴輪と同レベルで、土師器手捏ね土器、埴、杯、有孔円板、白玉が、後円部北側で埴輪と同レベルで、小札、銅釧が出土した。6世紀中葉と推察される。

昭和40年、立正大学（丸子亘）調査。

城山6号墳（232・295）

調査前から横穴式石室が開口しており、墳丘等の攪乱が著しく認められた。墳丘長42m、後円部径18m、前方部幅20m、墳丘高3mをはかる前方後円墳。幅2.8m、深さ0.2mの周堀が一部確認された。内部施設は、奥壁中央を後円部中心点に置き、東側くびれ部中段に開口する横穴式石室。玄室は隅丸方形の両袖式。全長3.3m、玄室長2.4m、奥壁から0.7m玄門寄りで最大幅2.4m、玄門部幅1.5m。羨道は長さ0.7m、幅1.7m。玄室は高さ1.8m、天井部は四周より持ち送られてきた壁がドーム形を呈する。長方形切り石の壁内面を湾曲させ、さらに持ち送った時の傾斜に合わせてえぐり整形する。傾斜角平均63°。石室内より、鉄鏃、鉄釘、刀子が出

土。

昭和39年、早稲田大学（市毛勲）調査。耕作により湮滅。

城山7号墳（134）

攪乱が著しく遺存状態は悪い。規模、周堀の存否に関しては報告されていない。内部施設は、組合式箱式石棺で、ローム層を掘り込んで構築される。石棺は、内法で長さ1.5～1.4m、幅0.6m、高さ0.4mをはかる。長軸はほぼ東西を示す。床面には板石が敷かれる。棺内より、人骨、須恵器片、鉄釘が出土。

昭和40年、中村慎二調査。耕作により湮滅。

城山古墳群1号石棺（232）

同古墳群中に露呈した石棺5基の調査である。1号石棺は底石のみ残存し、地山に掘り込まれた土壇内に、石棺が構築されていたものと思われる。底石5枚で全長1.95m、幅0.95mをはかる。長軸はN-34°-Eを示す。人骨2体出土。

昭和39年、早稲田大学（市毛勲）調査。学校建設に伴い湮滅。

城山古墳群2号石棺

2号石棺は、地山に掘り込まれた土壇内に構築された箱式石棺。内法長1.6m、幅0.8m、深さ0.65m。蓋石は移動しており、旧状は不明。4枚の板石からなっていたものと思われる。両側壁各1枚、小口部各1枚の計6枚、底石は5枚の板石が用いられる。長軸はN-43°-E。棺内より人骨2体が出土。

城山古墳群1号石棺に同じ。

城山古墳群3号石棺

箱式石棺で内法長1.65m、幅0.55m、深さ0.5mをはかる。蓋石4枚、両側壁各4枚、小口部各1枚、底石4枚、総計18枚の板石で構成される。長軸は、N-68°-E。両側壁に沿って人骨2体が検出された。2体の中央、頭部付近で朱が検出され、遺骸の頭胸部に朱が施される通例から類推して、3体埋葬されていたものと推察される。

城山古墳群1号石棺に同じ。

城山古墳群4号石棺

地山を掘り込んで構築された箱式石棺。全長1.8m、幅1m、深さ1mをはかる。長軸はN-12°-E。人骨3体が並行して検出された。また直刀が出土した。

城山古墳群1号石棺に同じ。

城山古墳群 5号石棺

地山を掘り込んで構築された箱式石棺、内法長1.55m、幅0.85mをはかる。長軸はN-30°-E。人骨が検出され、大腿骨と脛骨の末端部に朱が施されているのを確認。

城山古墳群 1号石棺に同じ。

阿玉台北遺跡 香取郡小見川町五郷内 (267)

A001号址

東西9.1m、南北8.8mのほぼ方形。溝幅0.8~1m、深さ0.2~0.5m。

A002号址

南西、北溝の一部を欠く。東西溝長6.8m、南北5~6.5mの方形。東側のコーナー部分は多少浅くなっており、ブリッジ状を呈す。

A004号址

北側、東側未調査。一辺約9mの方形と推定される。南側溝は切れており、中央部がブリッジ状を呈す。溝中から多くの古式土師器、鉄滓及び韃の羽口が出土した。

A008号址

北側約半分は未調査。南溝長7.5m。溝幅2~3m。

A012号址

外縁径東西8.3m、南北8.1m。内縁径東西6.1m、南北6.1mのほぼ正円形。内部施設及びそれともなう出土遺物はなし。溝中より、古墳時代後期の土器が出土した。

A023A号址

内径約16m。幅2~3mの溝がめぐる。深さ0.45~0.55m。内部施設、出土遺物はなし。

A028号址

溝の一部のみ調査。円形と推定。溝幅1.9~2m。

A045号址

外縁径14.8m、内縁径12.6mほどの円形。深さ0.3~0.4m。周溝内に2か所の土壇があるが、性格は不明。

B003号址

円形を呈すと報告されているが、方形の可能性もある。ほとんどの部分が調査区外のため詳細は不明。溝は幅1.4~1.9m。

阿玉台北古墳群と同一台地上に所在し、方同じ機会に調査された。

[47. 東庄町]

婆里古墳 香取郡東庄町羽計 (199・209)

利根川に面する台地東端部に所在する。羽計古墳群中の1基。墳丘はすでに削平され、墳丘

の高さは不明。全長約20m、後円部径約15m、くびれ部幅約10m、前方部幅約14m、主軸N—82°—Eをはかる。周堀は幅1.3～2m、深さ約0.3mをはかり一周する。内部施設は、前方部のくびれ部寄り、墳丘の主軸線上に構築される。旧表土層より掘り込まれており、内法長約1.75m、幅0.52mの箱式石棺。長軸は、墳丘主軸と同方向。石材は、絹雲母片岩。男性人骨1体、女性人骨1体が検出され、女性人骨顔面には点状に赤色料が認められた。頭部を後円部側に向ける。ガラス小玉が出土。古墳周辺より円筒埴輪片、形象埴輪片が出土し、本墳に関係する遺物と考えられる。

昭和46年、杉山晋作調査。宅地造成に伴い湮滅。

寺台古墳 香取郡東庄町平山 (68)

利根川の沖積平野にのぞむ標高約50mの台地平坦面に所在。墳丘はすでに削平され消滅しており、内部施設のみの調査が行なわれた。箱式石棺で地山を掘り込んで構築される。長軸はN—67°—Wを示し、内法長2m、幅0.73m、高さ0.7mをはかる。黒雲母片岩の板石を用い、床面には、石棺石材と同質の細石片が全面に敷かれ、棺内より人骨3体、耳環、金銅製飾薄板が出土。

昭和26年、早稲田大学（金子浩昌）調査。耕作により湮滅。

扶喰古墳 香取郡東庄町羽計 (199)

立地は、婆里古墳参照。墳丘はすでに削平されており、墳丘の高さは不明。径2.6mの円墳で、幅2m、深さ1～1.5mの周堀がめぐる。内部施設は土壇で、長さ2.5m、幅2mの長円形。墳丘南側部分に位置し、長軸はほぼ南北を示す。鉸具、轡、鉄鏃、歯が出土。周堀中より故意に破損された観を呈す状態で須恵器杯、甕、土師器杯、高杯、甕、支脚、鉄が出土し、これらの示す時期は真間期から国分期初頭。内部施設と、周堀出土土器の両者間の時間的隔り等の問題が提起された。

昭和46年、坂井利明調査。宅地造成により湮滅。

〔48. 銚子市〕

野尻古墳群（第1次調査） 銚子市野尻町 (332)

利根川の北岸台地上、標高50mの位置に所在。円墳2基が調査され、2次調査後詳細に報告される予定。1号墳は石室の石材1枚のみ検出された。2号墳は、内部施設は石室、周堀が認められた。石室内より人骨2体、直刀、鉄鏃が出土。

昭和51年、小松繁調査。学校建設に伴い湮滅。遺物は市立銚子高校保管。

柴崎台古墳 銚子市柴崎3丁目 (196)

利根川に面する標高40～50mの台地平坦部に所在。墳丘はすでに削平され消滅していた。周堀は一部確認され、幅1.1m、深さ0.55m、L字状を呈する。全掘していない為形態は不詳であるが、少なくとも円墳ではない。内部施設は南側に一部確認された周堀に隣接する。地山を掘り込んで構築された箱式石棺。攪乱による板石の移動が認められた。長軸はほぼ東西を示し、長さ1.65m、幅0.6mをはかる。蓋石は移動されていた。棺内より直刀、周堀中より須恵器大甕、長頸壺が出土。7世紀末～8世紀初頭と推察される。

昭和45年、銚子市教育委員会調査。耕作により湮滅。遺物は市立銚子高校保管。

〔52. 千潟町〕

長熊古墳 香取群千潟町鎬木 (94)

旧椿海の北岸台地平坦部に、本古墳を含めた古墳群が存在する。墳丘はすでに削平され消滅していた。周堀に関しては未報告。内部施設は、地山を掘り込んで構築された箱式石棺。内法長2m、幅0.75～0.8m、長軸はほぼ東西を示す。側壁3枚、小口各1枚、蓋石1枚、床石3枚の扁平な板石で構築される。人骨3体、耳環、不明鉄製品片が出土。

昭和31年、慶応大学（清水潤三）調査。耕作により湮滅。

〔53. 八日市場市〕

関向古墳 八日市場市飯塚字関向 (252)

大平洋岸の沖積地にのぞむ台地の東端部に所在する。墳丘はほとんど遺存せず。墳形、規模、周堀の存否は不明。横穴式石室遺存。主軸N-12°-Eを示す。玄室、羨道、墓道に区分される。全長5.7m、玄室は長さ約3m、幅約2m、高さ1.7mをはかる。羨道は、長さ2.5～2.7m、幅1.1～1.4mと、羨門から玄門に向うに従い広くなる。飯岡石と呼ばれる硬質砂岩の切石を使用。奥壁、玄室側壁、羨道側壁とも、腰石に大形の切石をたて、その上にやや小形の切石を小口積みにする。玄室右側壁から奥壁に沿って、石棺が造り付けられる。石室と同じ石を用いた組合せ式石棺で、長さ2m、幅0.7m、深さ0.35mをはかる。北側小口石として奥壁を利用するが、西側長側石には玄室右側壁を利用せず、すぐ脇に板石が2枚施される。蓋石は未検出だが、西側長側石の存在より、何らかの被覆施設の存在が示唆される。石棺床面には河原石を敷いていたと推定される。石棺内の出土遺物は皆無。玄室内より、勾玉、管玉、ガラス小玉、九曜文杏葉、轡、刀子、刀装具、歯、羨道内より、環頭大刀（双龍銜珠）、頭椎大刀、直刀、耳環、銅鏡蓋、鉄鏃が出土。6世紀後半～7世紀初頭と推察される。

昭和49年、安藤鴻基調査。古墳は湮滅。石室は芝山はにわ博物館に移築。遺物も同館保管。

内山古墳 八日市場市内山字観音 (294)

栗山川支流、借当川をのぞむ台地上に所在。前方後円墳らしいが、古墳の詳細に関しては未

報告。墳丘は調査前に削平。軟砂岩の切り石積み石棺を検出。人骨、直刀、鉄鏃が出土。古墳時代後期と推定される。

昭和48年、立正大学（丸子亘）調査。

神崎古墳 八日市場市神崎

台地上の畑地より箱式石棺のみ検出。墳形不明。石棺内より直刀、鉄鏃、勾玉、切子玉、聚玉、管玉が出土。特に直刀は科学分析により「逆甲伏造り」に近い鍛造技術によったものと推定され、注目されている。箱式石棺の詳細は不明。

調査年、調査者不明。湮滅。遺物は八日市場市立公民館保管。

塚原古墳群 八日市場市入山崎（91・92・93）

九十九里浜にそそぐ栗山川支流借当川にのぞむ台地上に所在。塚原古墳群は前方後円墳1、小円墳40からなる。多くは耕作等により墳丘が削平されている。前方後円墳1基、円墳4基の調査が行なわれた。

1号墳

1号墳は前方後円墳で、墳丘の削平が著しい。墳丘長35m、後円部径15m、同高さ3.2m、前方部は削平の為旧状を遺存しない。周堀は未調査。後円部墳頂下5mで、東西1.5m、南北3.5mの範囲で粘土塊が検出され、盗掘を受けていることが判明。粘土槨に類する施設があったものと思われる。粘土部分より滑石製扁平勾玉と刀子が出土。粘土残存部下層より、手づくね土器、土師器片が出土。また、旧表土層面において手づくね土器が出土。粘土残存部下層及び、旧表土層面よりの出土状況から、2回の祭祀が墳丘築造の過程で行なわれたと推定される。5世紀末～6世紀初頭と推察される。

4号墳

径10m、高さ1mの円墳。周堀は未調査。内部施設の位置、形態に関しては報告されていないが、その存在が、副葬品の出土位置から推定されたと報告されており、木棺直葬施設の存在が推測される。直刀、刀子、銀環、銅釧、管玉、ガラス小玉が出土。

昭和35年、立正大学（丸子亘）調査。後湮滅。

〔54. 光町〕

小川台古墳群 匝瑳郡光町小川台（251）

栗山川本流と高谷川の合流地点から、栗山川本流をやや遡った東岸台地上に所在する。標高35～40mをはかる。前方後円墳、円墳12、方墳1、計18基で構成され、5基が調査された。

1号墳

径28～29m、高さ約2mの円墳。周堀は古墳北側では認められず、南側部分のみ約1/2程墳丘

をめぐる。幅3～4.3m、深さ0.3～0.4mをはかる。内部施設は2か所検出され、ともに土壇。第1、第2とも墳頂下0.9～0.95mで確認された。第1は長さ4.8m、幅1.48m、深さ0.3mをはかり、長軸はほぼ東西を示す。第2は長さ4m、幅0.8m、深さ0.15mをはかり、長軸はほぼ東西を示す。第1と第2は、約4mの間隔をとって並行する。第1からは剣、鉄銚、刀子、鉄鏃、有孔円板、白玉、第2からは剣、鉄鏃が出土。第1と第2の中間から剣、鉄斧、鉄鏃、白玉が出土。他に周堀底面より土師器、盃、墳頂部より土師器壺が出土。5世紀代と報告されているが、6世紀初頭頃と推察される。

2号墳

攪乱が著しい。径約21mの円墳で、幅約2.6m、深さ0.8mの周堀が一周する。内部施設は未検出。ただ砂質粘土様の土砂が耕作土中に混入しており、内部施設の一部であれば、耕作により消滅したものと推察される。

3号墳

攪乱が著しい。墳丘長34.5m、後円部径23.5m、前方部幅21m、前方部を南西面する前方後円墳。幅2～3m、深さ約0.35mの周堀が一周する。内部施設は未検出。

4号墳

攪乱が著しい。一辺約13.8mの方墳で、幅1.5～2.3mの周堀がめぐる。内部施設は墳丘南側に位置し、石材が攪乱の為散在していたが、掘り方が周堀南辺に開口する横穴式石室と推察される。掘り方は周堀から奥壁まで約4m、幅1.5m。周堀内に石材が散在。掘り方内から直刀、須恵器片、開口部付近の周堀中より直刀、倒卵形鏝、刀装具、鉄鏃、須恵器高台付長頸壺、杯、甕が出土。7世紀末～8世紀初頭と推察される。

5号墳

墳丘長約33.4m、後円部径約22m、同高さ2.6m、前方部幅約21m、同高さ約2.55mの前方後円墳で、長軸はほぼ東西を示す。周堀は一部で二重にめぐる。前方部前端の一方のコーナー部分に、ブリッジがある。北側墳丘中段の前方部から後円部間には形象埴輪列が検出された。形象埴輪は人物埴輪（馬子、武人、女子、男子）、動物埴輪（馬、鶏首、水鳥、鹿）、家形埴輪が出土した。形象埴輪列下段には、円筒埴輪、朝顔形埴輪の列が、墳丘裾部付近に配列されていたと考えられる。埴輪は、原位置を保っているものが少ないが、形象埴輪の配列順序は、注目されよう。後円部墳頂下約1.2mで土壇を検出。土壇は長さ約3.8～4m、幅0.8～1m、深さ約0.5mをはかり、長軸は東西を示す。直刀、刀子、鉄鏃、鏝、鏝、勾玉、丸玉、ガラス小玉が出土。北側周堀内より土師器杯が出土。5世紀末～6世紀初頭と報告されているが、6世紀中葉頃と推察される。

昭和49年、芝山はにわ博物館（浜名徳永）調査。農業構造改善工事により湮滅。遺物は同博物館保管。

宝米5号墳 匠嗟郡光町宝米(142)

栗山川下流右岸の、標高20~30mの台地上に所在し、計9基を確認。径約17m、高さ約3mの円墳。墳丘南側裾部旧表土面下に横穴式石室が検出された。凝灰岩の切り石を用いた単室の石室で、全長3.1m、玄室長1.9m、奥壁幅1.13m、羨道長0.7m、羨道部幅0.67m、主軸はN-23°-Wを示す。床面は砂岩碎石が全面に敷かれ、玄室床面は羨道床面より約0.2m程低い。玄門閉塞石が遺存。出土遺物は皆無。

昭和41年、杉山晋作が緊急調査。後湮滅。

宝米6号墳

墳丘はすでに削平され湮滅していた。凝灰質砂岩を用いた横穴式石室があり、単室無袖式。全長3m、玄室長2m、奥壁幅1.19m、羨道長0.66m、幅1.04m、主軸はN-16°-Wを示す。玄門閉塞石が遺存。遺物は皆無。

宝米5号墳に同じ。

[55. 多古町]

多古台古墳 香取郡多古町多古台(286)

栗山川と多古橋川の合流する地点の、標高約40mの台地に所在する。墳丘は後世の変改が著しい。径19.5m、高さ3mの円墳で、墳丘裾部において地山整形が認められる。周堀は認められない。内部施設は旧表土面から掘り込まれた土壇で、長さ3.95m、幅0.7m、深さ0.15m、長軸はほぼ南北方向を示す。遺物の出土状況から頭位は北向きと推察される。剣、直刀、刀子、鉄鏃、石製模造品(鏡、双孔円板、鎌、剣、刀子、斧頭)、鉄斧、針、釣針、白玉、須恵器埴、土錘、丹が出土。5世紀後半と推察される。

昭和51年、日本文化財研究所(柿沼修平)調査。宅地造成により湮滅。

坂並白貝古墳群 香取郡多古町坂並(243・324)

栗山川東岸台地上に所在する。坂並白貝古墳群は前方後円墳を含む計69基からなる。

17号墳

径12m、高さ1.2mの円墳で、幅1.5~2.8m、深さ0.55~0.9mの周堀がめぐる。内部施設は未検出。

18号墳

墳丘は後円部約1/4のみ遺存。墳丘長30m、後円部径約21m、くびれ部幅約12m、前方部幅12.4mの前方後円墳。幅3.3~5.2m、深さ0.5~0.9mの周堀が一周する。主軸は、N-17°-E。内部施設は4か所検出された。第1は後円部西側裾部に位置する。地山を掘り込んで構築された箱式石棺。内法の長さ1.9m、幅0.53m、床高さ0.6mをはかり、長軸はN-2°-Eを示す。床面は、ローム層。第2は後円部東側くびれ部に位置する。半地下式の箱式石棺。内法の

長さ1.9m、幅0.57mをはかり、長軸はN-36°-Eを示す。床面はローム層。第3は後円部東側ややくびれ部に寄った位置にある。半地下式の箱式石棺。内法の長さ0.95m、幅0.25m、高さ0.25mをはかる。床面に拳大の軟砂岩が敷かれる。長軸はN-44°-Eを示す。第4は後円部東側に位置し、床面のみ遺存。内法の長さ1.85m、幅1mをはかり、長軸はN-18°-Eを示す。床面は雲母片岩が敷かれる。第1、第2は軟質砂岩、第3は軟質砂岩及び雲母片岩、第4は雲母片岩を使用。出土遺物は、第1から直刀、剣、刀子、鉄鏃、金銅張装身具、鉄製装身具、人骨2体、第2から直刀、鉄鏃、人骨3体、第3からガラス小玉、歯、第4から耳環、人骨が出土。

20号墳

径19.5mの円墳で、幅1.7~4.2m、深さ0.4~0.75mの周堀がめぐる。内部施設は南側裾部に位置する。旧表土層より掘り込まれた土壇。2段に構築され、上段長さ3.2m、幅1.6m、深さ0.55m、下段は上段墳底を掘り込み、長さ2.8m、幅0.8m、深さ0.15mをはかる。周囲に厚さ約0.2mの粘土帯が施される。下段土壇の規模が木棺の規模であろう。長軸はほぼ東西を示す。下段土壇内より直刀、刀子、鉄鏃が出土。

21号墳

調査前に墳丘の半分が削平されていた。径17.5mの円墳で、幅2.8~3.8m、深さ0.3~0.65mの周堀がめぐる。内部施設は、旧表土上0.3m程積まれた墳丘盛土面より掘り込まれた土壇。長さ2m、幅0.6mをはかり、長軸はほぼ東西を示す。土壇の両端に粘土が施され、木棺小口部にあてられたものと推定される。

66号墳

墳丘は約1/2のみ遺存。径15~12mをはかる、やや長円形の円墳。幅1.5~2mの周堀がめぐる。地山を掘り込んで構築される地下式の箱式石棺を内蔵。石棺は約1/2のみの残存で、詳細な規模は不明。石材は雲母片岩の板石で、床面は、粘土面上に雲母片岩破片が敷かれる。人骨2体、直刀が出土。

昭和50年、多古町教育委員会調査。66号墳のみ昭和49年調査。後湮滅。

駒木台古墳群 香取郡多古町字駒木台 (294)

栗山川を望む標高35~40mの平坦な台地上に、円墳5基、方墳1基が所在。古墳の詳細は未報告。軟質砂岩の切り石組の石棺を内部施設とする古墳5基（方墳を含む）があり、人骨、直刀、鉄鏃、管玉、勾玉、ガラス玉、刀子が出土したとされる。墳丘下より、鬼高期の住居址を検出。

昭和47年、立正大学（丸子亘）調査。学校建設により消滅。遺物は、多古町教育委員会保管。

正徳院古墳 香取郡多古町染井 (102)

染井古墳群10号墳とも呼称される。方墳で、一辺約30m、高さ約7mをはかり、各稜は、東、西、南、北を指す。幅3mの周堀が一周する。内部施設は未検出。

昭和33年、明治大学（後藤守一）調査。

[57. 横芝町]

殿塚古墳 山武郡横芝町中台（68）

木戸川に面する台地上にある。墳丘長88m、後円部、前方部幅ともに58mを測る前方後円墳で、長方形の2重周堀がめぐる。埴輪は墳頂部、墳丘中段、墳丘下段、内堤に樹立されており、円筒埴輪のほか器財、人物、動物、家等の形象埴輪が検出された。内部施設は後円部中段に構築された長さ3m以上の横穴式石室で、全面に赤色料が塗布され、頭椎大刀1、直刀5、刀子1、鉄鏃、銅鏡3、鉸具2、金銅鈴8、金環6、勾玉1、ガラス丸玉9、ガラス小玉、棗玉5が出土した。7世紀初頭の築造と推測される。種々の形象埴輪が列を形成しているのが確認された著名な古墳。

昭和31年、早稲田大学考古学研究室（滝口宏）調査。墳丘は指定保存され、遺物は芝山はにわ博物館および早稲田大学考古学研究室保管。

姫塚古墳 山武郡横芝町外記（68）

木戸川に面する台地上にあり、殿塚古墳と並ぶ。墳丘長58mの前方後円墳で、墳丘中段に埴輪列が樹立されていた。円筒埴輪のほかに、人物、動物等の形象埴輪が検出された。内部施設は、前方部南側に軟砂岩を用いて構築された長さ5.7mの横穴式石室で、方頭大刀1、直刀、刀子、鉄鏃、鉄釘、馬具（雲珠、轡、杏葉）、金銅製球形飾、金銅製飾金具、金環6、勾玉4、切子玉2、棗玉3、ガラス小玉100、須恵器2が出土した。西暦600年前後の築造と推測される。

昭和31年、早稲田大学考古学研究室（滝口宏）調査。墳丘は保存され、遺物は芝山はにわ博物館、早稲田大学考古学研究室保管。

取立古墳 山武郡横芝町

前方後円墳で、埴輪が樹立し、円筒埴輪のほかに、人物、家等の形象埴輪が認められた。また直刀、鉄鏃も出土した。

大総小学校保管。両総用水工事にて破壊。

[58. 芝山町]

山田1号墳 山武郡芝山町山田（105）

高谷川と木戸川の上流に挟まれた台地上にある。径30m余の円墳で、外部施設はない。内部

施設は西南裾に軟砂岩を用いて構築された長さ約2mの箱式石棺で、耳環2、ガラス小玉、直刀5、鉄鏃6、須恵器片が出土した。7世紀前半の築造かと推測される。

山田2号墳

径25m程の円墳で、外部施設はない。内部施設は西南裾に軟砂岩を用いて構築された長さ2mの箱式石棺で、直刀1、刀子2、鉄鏃、耳環2、ガラス小玉、土製小玉等が出土した。7世紀前半の築造と推測される。

山田3号墳

径20m弱の円墳とみられ、外部施設、内部施設とも検出できなかった。

山田4号墳

径20m以上の円墳で外部施設はなし。内部施設は墳丘中に構築された長さ2m程の箱式石棺で砂岩を用いていた。中から直刀3、銀象嵌を有する円頭大刀柄頭2、鉄鏃、鉄地銀銅張耳環2が出土した。6世紀後半の築造かと推測される。

昭和37年、早稲田大学考古学研究会（馬目順一他）調査。遺物は早稲田大学考古学研究室保管。

殿部田1号墳 山武郡芝山町殿部田

高谷川に面する台地上にあり、墳丘長31mの前方後円墳で、埴輪列を有していた。円筒埴輪のほか、人物、動物、家形等の形象埴輪が検出された。内部施設は不明。6世紀後半の築造と認められる。遺物は芝山はにわ博物館保管。

木戸前1号墳（高田第1号墳） 山武郡芝山町高田（135）

木戸川流域の台地上にある墳丘長40mの前方後円墳で、2段に埴輪が樹立されていた。円筒埴輪のほか人物、動物、家、器財等の形象埴輪が検出されている。内部施設は、後円部頂に軟砂岩を用いて構築された長さ2mの箱式石棺で、耳環、ガラス小玉、直刀、刀子、鉄鏃が出土した。6世紀後半の築造と推測される。墳丘は削平。

昭和40年、芝山はにわ博物館（坂井利明）調査。遺物は芝山はにわ博物館保管。

高田古墳 山武郡芝山町高田字御林

木戸川流域の台地上にある前方後円墳で、南裾から片岩を用いた長さ2mの箱式石棺が発見された。直刀2、鉄鏃、聚玉10、耳環4、土器2、勾玉8、金銅環1、管玉1、緒締玉1が出土している。木戸前1号墳に近接するものか。遺物所在不明。

宝馬にわとり塚古墳（宝馬6号墳） 山武郡芝山町高田（94）

木戸川に面する台地上にあり、墳丘長40mの前方後円墳で、人物、動物、家等の形象埴輪を

樹立していた。内部施設はくびれ部に構築された箱式石棺で、赤色料が全面に塗布され、耳環4、銀製刀子1、雲珠1、髻1、ガラス小玉89、直刀、鉄鏃が出土した。西暦600年前後の築造と推測される。

昭和32年、芝山はにわ博物館（玉口時雄）調査。遺物は芝山はにわ博物館保管。

[59. 松尾町]

朝日ノ岡古墳 山武郡松尾町蕪木朝日ノ岡（73・74）

九十九里に面した台地上に立地。墳丘長76m、後円部径48m、前方部幅40mの前方後円墳で、3列の埴輪列をめぐらし、円筒埴輪と人物、動物等の形象埴輪が配置されていた。内部施設は、玄室長4.1mの横穴式石室で、管玉1、須恵器片、土師器片を検出した。6世紀後半頃の築造と推測される。焼粘土を使用しているとされるが不明。

昭和27年、日本大学考古学会（軽部慈恩）調査。墳丘は保存され、遺物は日本大学保管。

蕪木第5号墳（名城5号墳） 山武郡松尾町八田字名代（55・57・73・106）

九十九里平野に面する台地上にある墳丘長46mの前方後円墳で外部施設はなし。内部施設は長さ約7mの複室の横穴式石室で、須恵器3、直刀12、刀子3、金銅製耳環4、金銅製巾着形容器1、金銅製刀子鞘1、ガラス小玉46、馬具1（雲珠、辻金具等）、鉄鋌（鉄釘？）等が出土した。西暦600年前後の築造と推測され、特に金銅製品に特異なるものが存在する点に注目される。また、朱も検出されている。

昭和28年、日本大学考古学会（軽部慈恩）調査。遺物は東京国立博物館蔵。

諏訪塚古墳 山武郡松尾町大堤（76）

大堤権現塚古墳が中心となる大堤古墳群中の大円墳で、金銅製刀子鞘、金銅鈴が出土している。

日本大学考古学会調査。遺物は日本大学保管。

[60. 成東町]

不動塚古墳 山武郡成東町板附（47・62・65）

成東川流域に面する台地上にあり、墳丘長63m、後円部径、前方部幅ともに30mの前方後円墳で、盾形の周堀がめぐり、外堤も存在する。外部施設はなく、内部施設は横穴式石室で4.8mを測り、ガラス小玉、鉄鏃、鉄釘が出土した。7世紀前半の築造と推測される。

遺物は日本大学保管。線刻画の存在が指摘されたが詳細不明。

西ノ台古墳 山武郡成東町板附字西ノ台（62・80）

成東川流域に面する台地上にあり、墳丘長90mの前方後円墳で、盾形の周堀を一部には2重にめぐらす。埴輪は裾に2列、壇上部に2列、墳頂部に2列の計6列が配置されていたと報告され、円筒埴輪のほか、人物、動物等の形象埴輪も認められる。また、2重周堀間の堤上にも円筒埴輪が樹立されていたという。内部施設は長さ6.6mの横穴式石室で、土師器片が検出されている。7世紀初頭かと推測される。

昭和29年、日本大学考古学会（軽部慈恩）調査。遺物は日本大学保管。

板附1号墳 山武郡成東町板附（80）

西ノ台古墳に隣接する径約20mの円墳とみられ、外部施設、内部施設とも検出せず。周堀の一部で円筒埴輪片を検出しているが西ノ台古墳の埴輪と考えられる。土砂採取のため破壊。

板附2号墳

板附古墳群のなかの西ノ台古墳に隣接する。径約20mの円墳とみられ、外部施設はなし。内部施設は墳頂部に設けられた幅1.2m、長さ2.8mの土壙で、鉄斧1、鉄剣1、刀子1が出土した。6世紀前半に属するのであろうか。なお、周堀の一部から埴輪が検出されているが、西ノ台古墳の埴輪と考えられる。土砂採取のため破壊。遺物は成東町歴史民俗資料館保管。

板附所在の一円墳（板附4号墳） 山武郡成東町板附字西ノ台

西ノ台古墳の前方部周堀にかかっている円墳で、内部施設は検出されなかった。墳頂部から、直刀片、銅釧、勾玉等が出土したとされる。古墳の位置図は「日本考古学年報、7」141頁の西ノ台古墳墳丘実測図にある。

昭和29年、日本大学考古学会（軽部慈恩）調査。遺物は日本大学保管。

経僧塚古墳 山武郡成東町野堀（174）

境川流域の台地上にある麻生新田古墳群に属する墳丘径45mの円墳で、2重周堀をめぐらし外径78mを測る。埴輪は内堤、墳丘中段、墳頂部の3段に見られ、円筒埴輪のほか、人物、動物等の形象埴輪が出土した。内部施設は南に長さ6.3mの横穴式石室が、南西に長さ1.85mの箱式石棺が検出された。石室から棗玉、小玉、直刀、刀子、馬具が、石棺から金銅製鈴、金銅製圭頭大刀、直刀6、刀子2、鉄鏃、馬具、金銅製耳環2、鉄地銀張耳環2、小玉、胡籥等が出土した。6世紀後半の築造と推測される。墳丘規模、内部施設の多様性、遺物の種類等が注目される。

昭和45年、芝山はにわ博物館（市毛勲）調査。遺物は芝山はにわ博物館保管。墳丘は保存。

〔61. 山武町〕

中津田古墳 山武郡山武町板中新田（297）

木戸川流域西岸の台地上にあり、他に3基の古墳が所在した。殿塚、姫塚古墳の対岸に位置

する。径23mの円墳で、幅3mの溝がめぐる。内部施設は旧地表下に掘られた3.3×2.1mの土壙内に構築された箱式石棺で、壁に砂岩切石、蓋に片岩を用いており、長さ1.8m、幅0.6mをはかる。直刀3、鉄鏃18および人骨4体分が出土し、赤色料も検出した。人骨は成人以上で、女1、男3と鑑定されている。7世紀後半から8世紀前半の築造と報告しているが、7世紀前半に遡るであろう。

昭和51年、山武考古学研究会（平岡和夫）調査。遺物は山武町教育委員会保管。

埴谷1号墳 山武郡山武町埴谷（75）

埴川流域の台地上にあり、前方後円墳3基のほか、円墳6基が所在する。墳丘長36m、後円部径25m、前方部幅22mの前方後円墳で、幅3.5～5mの周堀がめぐり、盾形の周堀かとも思われる。内部施設は後円部に構築された複室の横穴式石室で、長さ5m、幅0.5～0.7mをはかり、狭長な羽子板平面形を呈する。石室内から刀子1、鉄鏃3、須恵器脚付盃1のほか2点が、後円部頂から直刀1、鉄鏃1、土師器片1が出土。外部施設は、前方部および墳丘西側裾に埴輪列が検出され、円筒埴輪の他、武人、馬、家の形象埴輪が認められた。6世紀末葉から7世紀初頭の築造と推測される。

昭和30年頃、東金高校考古学クラブ（川戸彰）調査。遺物は東金女子高等学校保管。

矢部の一円墳 山武郡山武町矢部

円墳で、約2.5mの軟砂岩使用の横穴式石室を半地下式に構築している。

昭和26年、日本大学考古学会調査。

〔62. 東金市〕

家之子古墳群 東金市家之子（132）

九十九里平野に面する台地突端から1km程奥へはいった位置に所在する。前方後円墳5、方墳5、円墳64の計74基からなり、南西から北東へ細長く、1.5km程の範囲に分布する。

24号墳

東西11m、南北16m、高さ2.7m程の墳丘が遺存。幅4～5mの周堀が、内縁径23m程の円形にめぐる。南東に開口する横穴式石室を伴う。単室、玄室は両袖式。砂岩切石を用いる。玄室長2.1m、幅1.1m、高さ1.6m、羨道長約2m、幅1m。盗掘にあい、羨道の破壊が著しい。羨道、羨門外で鉄鏃19を採集。

62号墳

古く盗掘にあい石棺は露出、墳丘も変容をうけていた。幅2m程の周堀を1か所で確認したが、全体のプランは不明。おそらく円墳と思われる。石棺は西裾寄りにあり、主軸をほぼ南北にとる。砂岩切石を用いる。内法長、1.96m、幅0.5m、高さ0.76m。盗掘時に直刀1出土。

66号墳

墳丘は変容の度がひどいが、周堀を3か所で検出、本来は径約26m程の円墳と推定。ほぼ真南に開口する横穴式石室を伴う。単室、玄室は両袖式。砂岩の切石を用いる。玄室長約2m、幅0.9m、羨道長約1.4m、幅0.55～0.6m。盗掘にあい、鉄鏃約20が出土したのみ。

75号墳

東西20m、南北15m、高さ3mの、やや長方形の方墳。幅2～2.5mの周堀がめぐる。墳丘南裾に横穴式石室が開口。単室、玄室は両袖式。砂岩の切石を用いる。玄室は天井石も落下せず残り良好な遺存度を示す。玄室長2.2m、幅1.2m、高さ1.6m、羨道長1.03m、幅0.53m。天井石は4枚。玄室床面にも切石を敷く。

以上4基は昭和42年、丸子亘、下津谷達男、川戸彰調査。ゴルフコース造成に伴い湮滅。他の古墳はコースにとり入れて保存。

51号墳

径約16mの円墳。全長5.5mの横穴式石室を伴う。玄室長1.9m。羨門外から鉄鏃6mが出土。

昭和36年、耕作により石室の一部が露出したため川戸彰調査。

[66. 一宮町]

待山1号墳 長生郡一宮町待山(162・200)

一宮川下流右岸の沖積微高地に所在する。水田面よりの比高2m～3mをはかり、周辺に6基の古墳がある。墳丘の大部分が削平を受け遺存度は悪い。墳丘高は、2.8mを現存する。北側残存部調査の結果、径23m前後の円墳または帆立貝式古墳と判明。円筒埴輪列が、墳丘北西裾部で検出された。埴輪は原位置を保っていると思われ、埴輪の間隔は0.25～0.30mをはかる。周堀は一部で確認されたが調査が不十分で一周するかどうか不明。幅は1.6m。内部施設は検出されなかった。

昭和40年、上智大学史学会調査。宅地造成に伴い消滅。

[67. 睦沢村]

浅間山1号墳 長生郡睦沢村下之郷字根崎(253)

一宮川の支流瑞沢川にのぞむ標高30mの台地上に所在する。径約26m、高さ3.5mをはかる円墳。周堀は認められない。墳頂下約0.7mで、二基の主体部が検出された。ともに粘土敷の土壙で、墳丘盛土中途より切り込まれ構築される。第1主体部は、全長3.8～3.9m、幅0.8m、深さ0.2mをはかり、長軸はN-40°-Eを示す。第2主体部は、第1主体部に隣接して検出され、長さ1.45m、幅0.85m、深さ0.16mをはかり、長軸はN-30°-Eを示す。第1主体部より変形獣形鏡、剣、直刀、鉄鏃、三輪玉、有孔円板が出土。第1主体部棺外遺物として、剣、

鉄鏃、胡篋、鉸具、環状鉄製品があった。第2主体部からは剣が出土。墳丘盛土中より、直刀が出土。5世紀末から6世紀初頭と推察される。

昭和48年、宅地造成に先立ち寺村光晴調査。後湮滅。

〔68. 長南町〕

油殿古墳群 長生郡長南町豊原（250）

一宮川支流の埴生川にのぞむ標高40mをはかる独立丘陵上に所在する。前方後円墳2、墳円2の計4基があり、4基とも墳丘測量、墳丘周辺部のみに限った調査が行なわれた。

1号墳

1号墳は全長93m、前方部幅26mの前方後円墳で、幅6.8m、深さ約0.4mの周堀が認められた。後円部北側からくびれ部にかけて、底部穿孔された土師器の大形壺（五領式）が出土した。

2号墳

墳丘の詳細な規模は確認出来なかったが、墳丘測量数値では、墳丘長30m、後円部径20m、前方部幅10m、墳丘高2.3mの前方後円墳である。周堀は認められない。

3号墳

径10m、高さ1mをはかる円墳と推察される。周堀は認められない。

4号墳

径10m、高さ1mをはかる円墳と推察される。周堀は認められなかった。

昭和50年、早稲田大学（滝口宏）調査。昭和49年県史跡に指定。

能満寺古墳 長生郡長南町芝原（39）

九十九里に流出する一宮川支流の長楽寺川北岸の舌状台地突端部に所在する。標高60mをはかり、周囲には数基の円墳が所在する。全長73.5m、後円部径50m、前方部幅20mをはかる前方後円墳。主軸はN-80°-Wを示し、ほぼ東西に向き、前方部が西面する。周堀は未確認。内部施設は、後円部墳頂下1.5mで検出された。木炭槨で長さ7.5m、幅2mをはかり、舟形に近い形態を呈す。槨の長軸は、墳丘主軸とほぼ同一方向を示す。土層断面より槨の切り込み面は、墳丘盛土最上面と推察される。木炭槨内より、鏡2（一面は獣形鏡、一面は判別不可能）、大刀1、剣2、ガラス丸玉2、ガラス小玉8、鉞1、銅鏃7、鉄斧1、朱、土師器片が出土。また、木炭槨上部層より土師器高杯が故意に破砕された状況で出土した。4世紀末から5世紀初頭と推察される。

昭和22年、明治大学（大塚初重）調査。昭和50年、県史跡に指定。出土遺物は明治大学考古学研究室保管。

〔71. 大多喜町〕

横山古墳群 夷隅郡大多喜町下大多喜 (51)

夷隅川にのぞむ標高約20mの台地に所在する。本古墳群より南東方向約1mに打岡台古墳群が存在する。

1号墳

明治20年代、小学校建設に伴い消滅し、詳細は不明。直刀、鏡板、杏葉が採集され、鏡板・杏葉は、現在早稲田大学考古学研究室が保管。

2号墳

墳丘が約 $\frac{1}{2}$ 削平されていた。墳丘形態の報告なし。内部施設は未検出。

昭和28年、早稲田大学(滝口宏)調査。後湮滅。

大宮氏旧宅裏山古墳 夷隅郡大多喜町下大多喜 (51)

夷隅川の上流、大多喜町の北東方向にひろがる台地上に位置する円墳。昭和13年頃所有者が発掘。半円方形帯神獸鏡、勾玉、鉄鏃、馬具が出土。鏡は直径15.2cm、鏡面は半径で反り2mm、紐の周囲に22個の珠文帯を配す。内区には8個の環状乳を置き、交互に神獸を配する。銘帯は珠文地、半円、方格は各12個あり、半円中央に1個の螺旋文をおき、放射状に4区をつくり、T字形を4線及び直線に入れる。方格内には4字宛の銘文が認められるが、磨滅が著しく判読できない。白銅製、県指定有形文化財。最近、さきたま古墳群中稻荷山古墳の銘文入り鉄剣と伴出した鏡の同范鏡として注目された。古墳は現存する。推定規模径15m、高さ2.5m。内部施設の構造は不明。

打岡台古墳群 夷隅郡大多喜町下大多喜 (51・106)

大多喜町の東方、夷隅川にのぞむ台地上に所在する。台地平坦部は広く、標高約30m、南へゆるやかに傾斜する。南端は夷隅川の侵蝕により深い谷となる。台地上に5基の古墳が確認され、4基が調査された。

1号墳

径10~15mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設とは報告されていないが墳頂下0.4mで直刀が出土しており、木棺直葬施設があったと推定される。

2号墳

径約10m、高さ約2.8mの円墳と報告。周堀は未調査。内部主体は未検出。

3号墳

径約14m、高さ約2.6mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設として報告されていないが、墳頂下0.5mで鉄製品断片が出土しており、木棺直葬施設があったと推定される。

4号墳

径約15m、高さ約3mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設は未検出。
昭和28年、早稲田大学（滝口宏）調査。

高谷古墳群 夷隅郡大多喜町高谷（63）

大多喜町の北東、夷隅川にのぞむ標高約60mの舌状台地上に所在。現存3基であるが、開墾等により4～5基消滅したという。

1号墳

径約13.5m、高さ約2.75mの円墳。周堀は未調査。内部施設は未検出。

2号墳

径14～16m、高さ約2.1mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設は未検出。

3号墳

径約19m、高さ3.6mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設としては報告されていないが、墳丘中央やや南寄り、墳頂下0.36mで、直刀、剣が0.4mの間隔で並列して出土したので、木棺直葬施設の存在が推定される。

昭和29年、渡辺包夫調査。

台古墳 夷隅郡大多喜町下大多喜（51）

夷隅川の上流、大多喜町の北東にひろがる標高60m程の台地上に所在する。墳丘長33.8m、後円部径16m、前方部幅8m、同高さ約1.5mをはかる前方後円墳。周堀に関しては報告がない。内部施設として明瞭に検出されなかったが、後円部墳頂下約0.4mで、厚さ約10cmの粘土層が認められ、直刀が出土している。規模、形態に関しては報告されていない。北側くびれ部から前方部にかけて、須恵器片、土師器片が出土。

昭和27年、早稲田大学（滝口宏）調査。

2 (横穴)

[2. 館山市]

南條横穴群 館山市南條

3群36基確認。1群1基、2群18基、3群17基。付近に数基の横穴が開口しており、群、基数は増加するものと報告されている。横穴の概略は、玄室、羨道が明確に区別されず、奥壁面中央部分、床面よりやや高い位置に、壁面を穿って小穴が施される。小穴は、長さ約1.2~1.9m、幅約1.8m前後、床面よりの高さ約0.7~1m程の規模。このような横穴形態は安房地方特有の形態である。

昭和3年、踏査。

東長田横穴群 館山市東長田

17基確認。横穴形態は、南條横穴群とはほぼ同様の横穴と報告されている。

昭和3年、踏査。

[12. 富津市]

絹根方横穴群 富津市大貫町根方(72・138)

岩瀬川に開析された北側台地南斜面に所在する。岩瀬川流域一帯は、鹿島、谷堀、池田、立畑、堀口の横穴群が存在する。この台地の斜面には、2か所に横穴群が認められ、西側に位置するものを絹横穴群、東側に位置するものを絹根方横穴群と区分している。絹根方横穴群は1群10基、上下2段で構成され、下段4基(1~4号)、上段6基(5~10号)。

1号

全長5.2m、玄室長2.05m、幅2.21m、羨道長3.15m、幅1.23~1.5m、主軸N-43°-W。玄室は両袖式、羨道床面より1.35m高い棺台が施される。棺台に刳り抜き棺等の施設は認められない。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.4mをはかる。羨道左側壁面に、「許世」「大同元年」の銘が陰刻される。書体は六朝風とされる。右側壁面には「大同□年」「古世」と陰刻される。両文字とも「コセ」と読み、偽銘でなければ、房総の巨勢氏との関係が考えられる。

6号

全長7.95m、玄室長3.2m、幅3.04m、羨道長4.75m、幅1.15~1.5m。主軸方向は未報告。玄室は両袖式。羨道床面より1.4m高い棺台が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井

までの高さ1.76mをはかる。

9号

全長5m、玄室長1.85m、幅2.15m、羨道長2.85m、幅1.3~1.35m、主軸N-46°-W。玄室は両袖式、羨道床面より1.35m高い棺台が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.25mをはかる。

10号

全長5.43m、玄室長2.05m、幅2.26m、羨道長3.38m、幅1.15~1.4m、主軸N-56°-W。玄室は両袖式、羨道床面よりの高さ1.3mの棺台が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで高さ1.4mをはかる。羨道右側壁、ほぼ中央に、「木」字の陰刻がある。

昭和37年、平野元三郎、滝口宏調査。現存。昭和41年県指定史跡。

大満横穴群 富津市岩坂字大満 (344)

湊川下流北岸の台地斜面に所在する。4群からなり、第1群2基、第2群19基、第3群30基、第4群7基をかぞえる。付近には湊岩崎(1群8基)、湊山崎(1群30基)、岩坂白塚(3群21基)、岩坂水神谷(2群8基)、加藤入山(1群13基)、砂坂(5群46基)、高山(1群30基)、湊正方(2群30基)の各横穴群が所在する。

第1群1号

全長5.85m、玄室長3.6m、幅3.45m、羨道長2.25m、幅1~1.2m、主軸N-10°-W。玄室は両袖式。羨道底面よりの高さ1m、幅1.07mの棺台が、コの字状に施される。奥壁、左側壁側の2か所に刳り抜き棺が施され、奥壁側は長さ0.6m、幅1.85m、深さ0.45m、左側壁側は長さ2m、幅0.65m、深さ0.4mをはかる。羨道には、羨門より0.3m入った両壁面に、0.05×0.2m、奥行0.05mの上下に細長い方形の仕口穴が各3か所ずつ認められる。左右とも、対応していることにより木製の閉塞施設を設置するための仕口穴と報告されている。玄室奥壁、羨道両壁面に線刻画が認められる。奥壁中央部に船体が描かれる。船体は半月状を呈し、船体上に格子状の垣立が、船体中央に櫓の下半が表現される。船体の全長は約0.6m。羨道左壁にも船体が描かれる。図柄は舳を右に向け一枚の帆に風を受けて帆走する帆船で、船体全長0.46m、櫓先端から船底まで0.54m。船体は舳と櫓が高くあがった半円形を呈す。舳の右方には波と思われる表現が認められる。羨道右壁にも帆船が描かれる。左壁の帆船に比し、小形で抽象的。舳を高くあげたゴンドラ状の船体中央に櫓を立てる。船体全長0.44m、櫓先端より船底まで0.32m。この左隣に、多数の曲線を組みあわせた幅0.2m、高さ0.21mの、網を表現したと推察される線刻がある。天井はドーム形、棺台床面より天井まで2.35mをはかる。玄室内より直刀、鉄鏃、鉄製釣針、須恵器(杯蓋)、土師器(杯)が出土。

第1群2号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長5.8m、玄室長3.3m、幅3.5m、羨道長2.5m、幅1

～1.5m。ほぼ真南に開口する。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ1mの棺台が施される。玄門部左右壁に幅0.5m、深さ0.1mの掘り込みが認められ、玄門閉塞施設に関連するものと報告されている。棺台床面に貝殻破片が認められた（貝はツメタ貝、ハマグリ、ベンケイ貝、バカ貝、ホタテ貝、マガキ、オキシジミ、アカ貝、イタボ貝）。玄室天井はほぼ中央に、船の線刻画が認められる。櫓の上半部を欠く船形で、全長0.66m、櫓上端より船底まで0.29m。船体は半月形を呈し、舳が櫓にくらべ著しく高く上る。船体上部には格子状に柵状のものが描かれる。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.65mをはかる。玄室内より人骨、鉄鏃、土師器（杯）が出土。なお前庭部は昭和47年の再調査で確認された。

以上2基は昭和27年、学習院高等科史学部（酒詰仲男）調査。現存。

第3群1号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長8.5m、玄室長3.4m、幅3.7～3.9m、羨道長3.1m、幅1.8～2.4m、前庭長2m、主軸N-41°-W。玄室は両袖式、羨道床面より高い位置に棺台が施されるが、攪乱されている。天井中央に円形の浅い掘り込みがあり、ここから四隅に、幅広の、のみによる整形痕が残る。一見方形寄棟のつくりに見えるが、全体としてドーム形を呈す。羨道床面より天井まで2.5m。前庭部は羨門より左右へ、台地岩盤をほぼ垂直にカットし、梯形状を呈す。羨道床面と同レベルよりはじまり、ゆるやかに傾斜する。第3群2号横穴を切って構築される。羨道より、土師器片（糸切り底）が検出されたのみ。

第3群3号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長8.8m、玄室長4m、幅4m、羨道長3m、幅1.8m、前庭長1.8m、主軸N-7°-W。玄室は右片袖式。羨道床面よりの高さ1.1mの棺台が施される。棺台奥壁、右側壁に沿い造り出しの削り抜き棺がある。奥壁側は長さ0.6m、幅1.95m、深さ0.55m、右側壁側は長さ1.65m、幅0.55m、深さ0.64m。両棺とも壁反対側には棺側壁が施されず、両端部にはめ込みの受けが施される。天井中央に一辺0.55m、深さ約0.05mの方形の掘り込みが施され、方形四隅から玄室コーナへ幅0.15mの浅い溝がつづく。宝形四柱造りの家形天井。棺台床面より天井まで2.2mをはかる。天井の一部は赤彩され、部分によってはかなり鮮やかに認められる。

第3群3号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。玄室長8.7m、玄室長3.2m、幅3.7～4m、羨道長4.6m、幅1～1.68m、前庭長0.9m、幅2.5m、主軸N-46°-E、玄室は両袖式、羨道床面よりの高さ0.7mをはかる棺台が施される。棺台は攪乱が著しい。奥壁コーナから右側壁に沿い浅い溝で長方形に区画された棺状部分が僅かに残る。羨道右側壁中央に五輪塔、左側壁中央部には馬と考えられる線刻が残る。羨門は、垂直にカットした岩盤面をさらに前庭部側より一段掘り窪め、額縁状の羨門を形成する。宝形の天井を模し、ドーム形を呈す。棺台床面より天井まで、2.15mをはかる。羨道より須恵器（長頸瓶）出土。

第3群4号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長5.75m、玄室長2.45m、幅3.23m、羨道長3.3m、幅1.36m、主軸N-54°-W。玄室は両袖式。玄室床面よりの高さ0.46m、幅約1mをはかる棺台がコの字状に施される。棺床には貝ブロック（ハマグリ、アサリ、ベンケイ貝、ホタテ貝）が遺存。壁面には削痕が認められる。天井は、ドーム形、棺台床面より天井まで1.3mをはかる。羨道より土師器（杯）出土。

以上4基は、昭和48年、富津市教育委員会（椋山林継）調査。現存。

第3群7号

全長3.55m、玄室長2.32m、幅2.1m、羨道長1.23m、幅0.8~1.05m、主軸N-70°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ約0.8mをはかる棺台が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで高さ1.42mをはかる。羨道より須恵器（長頸瓶）出土。

第3群19号

全長3.37m、玄室長2.22m、幅1.7m、羨道長1.15m、幅0.78~0.82m、主軸N-105°-W。玄室は左片袖式。左側壁に沿って幅約0.9m、高さ0.53mの棺台が施される。棺台中央に長さ1.7m、幅0.44m、深さ0.4mの削り抜き棺が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.9mをはかる。玄室より耳環、羨道より須恵器（杯蓋）、土師器（椀）が出土。

第3群24号

全長4.02m、玄室長1.82m、幅2.16m、羨道長2.2m、幅1.12m、主軸N-75°-W。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ約1mの棺台が施される。棺台床面には貝殻が敷かれる。貝は、幅約0.4mの帯状を呈し、奥壁に沿った帯を起点とし、左側壁沿いに1帯、玄室中央部に1帯、右側壁沿いに1帯と計4帯がEの字状を呈す。ツメタ貝、バイ、イタボガキ、ハイ貝、イボニシ、アカニシ、ハマグリ、サルボウ、ベンケイ貝が認められる。貝上面より人骨4体分が検出され、Eの字状を呈す貝帯のそれぞれの上のせて伸展葬されたものと考えられる。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.1mをはかる。

以上3基は昭和27年、県立天羽高校（神尾明正）調査。現存。

岩瀬横穴群 富津市大貫町岩瀬（106）

東京湾にのぞむ台地の中腹に所在。3基が確認、調査されたが、横穴自体の形状、規模についての報告はない。1号横穴では人骨2体分、直刀、刀子、鉾、鉄鏃、金銅製倒卵形透鏢、金銅製心葉形杏葉、銜、金銅製雲珠、須恵器、土師器が出土。2号横穴は出土遺物皆無。3号横穴では人骨、直刀、刀子、鉄鏃が出土。

昭和28年、武田宗久調査。遺物は富津市大貫小学校保管。

神宿横穴群 富津市宝竜寺字神宿

八染川上流、鬼須山山系の中腹に所在。横穴8基の調査が行なわれたが、詳細な報告は未刊。棺台、刳り抜き棺が施され、うち7基には貝殻が敷いてあったという。それぞれから、人骨、鉄鏃、鋸、鉄斧、鈍、耳環、勾玉、切子玉、丸玉、須恵器（杯、瓶）、土師器（杯、壺）が出土。

昭和52年、土取り工事に伴い、野中徹調査。後湮滅。資料は県立天羽高校保管。

西山横穴群 富津市更和字西山

湊川右岸丘陵の中腹に所在。横穴30基の調査が行なわれ、詳細な報告はされていない。人骨、直刀、鉄鏃、釘、管玉、勾玉、須恵器（杯、長頸壺）、土師器（杯、壺）が出土。各横穴は山腹に3段に配置されている。

昭和51年、宅地造成に伴い野中徹調査。後湮滅。資料は県立天羽高校保管。

池田横穴群1号横穴 富津市大貫町池田（71）

岩瀬川中流北岸台地の南斜面に所在。全長5m、玄室長4.7m、幅3～3.2m、羨道長3m、幅1.5m、主軸N-50°-W。玄室平面プランは羽子板状を呈し、羨道面と同レベルで奥壁まで達する。奥壁に沿い、長さ1m、幅2m、深さ0.2mの刳り抜き棺が施される。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで、高さ1.9mをはかる。玄室内より人骨が出土。

昭和31年、坂詰秀一調査。現存。

谷堀横穴群2号横穴 富津市大貫町谷堀（71）

岩瀬川中流北岸台地の南斜面に所在。全長5.8m、玄室長5m、幅1.35～2.8m、羨道長0.8m、幅1.8m、主軸N-30°-E。玄室は両袖式、羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。玄門左右前壁に、長方形の掘り込みが左右対称に施される。掘り込みは0.21×0.3mの大きさ、天井はアーチ形、玄室床面より天井まで高さ1.8mをはかる。玄室内より人骨が出土。

昭和31年、坂詰秀一調査。現存。

鹿島横穴群 富津市大貫町鹿島（71）

岩瀬川中流北岸台地の南斜面に所在。R群、L群の2群で構成される。L群は総数70基以上と推測される。

L5号

全長2.8m、玄室長2.5m、幅0.85～1.8m、羨道長0.3m、幅0.85mの主軸N-10°-E。玄室は両袖式、羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。玄室床面には貝殻が敷かれる。オオノ貝、ハマグリ、アカ貝を確認。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで高さ1.6mをはかる。

R1号

全長3.5m、玄室長2.7m、幅2.8m、羨道長0.8m。玄室は両袖式、天井は、アーチ形を呈す。

昭和31年、坂詰秀一調査。現存。

加藤横穴群 富津市加藤字入山 (186)

湊川上流北岸台地の南斜面に所在する。遺跡直下の水田部標高43~50mをはかり、横穴群は水田面よりの比高15~33mに位置する。5群46基で構成され第1群9基、第2群7基、第3群18基、第4群10基、第5群2基に分けられる。1、5群が横一列に配置される他は、上下2段に配置される。

3号

第1群に属す。林道工事により羨道から玄門にかけ削平され、玄室部分のみの調査。玄室現存長4.5m、幅2.98m、主軸N-97°-E。玄室の形態、棺台の高さ等詳細は不明。玄室床面には、長さ2.24m、幅0.44mの掘り込みが認められ、割り抜き棺が施されていたと考えられる。奥壁際、左側壁寄り0.78mのところ、奥行0.32mの段が施される。この段と玄室床面の状態から、玄室の拡張が行なわれたと推察される。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで高さ2.2mをはかる。玄室内より須恵器（高杯）、土師器が出土。

18号

第5群に属す。全長6.53m、玄室長2m、幅3.96m、羨道長3.6m、幅1.2m、主軸N-70°-W。玄室は両袖式、羨道床面より高さ0.6mをはかる棺台が施される。左右側壁に沿い割り抜き棺が施され、左棺は長さ1.9m、幅0.83m、深さ約0.2m。棺床面には河原石が敷かれる。右棺は長さ1.94m、幅0.9m、深さ約0.2m、左棺と同じく河原石が敷かれる。玄室各壁下に溝がまわる。棺台床面より貝（桜貝）が認められ、割り抜き棺を除く部分に貝が敷かれていたものと考えられる。天井はアーチ形、棺台床面より天井までの高さ2mをはかる。羨道より鉄製品、土師器が出土。

昭和46年、高橋在久、渡辺智信調査。調査は群の計測を主体とし、発掘されたのは数基で、3号、18号のみ報告された。現存。

〔13. 君津市〕

花里山横穴群 君津市大和田 (209)

小櫃川上流の西岸丘陵中腹に4基所在し、同じ台地の平坦部には古墳群が存在する。横穴個々の詳細は未報告。出土遺物の名称数量のみ知られるが、遺物の帰属はわからない。直刀2、鉄釘1、刀子1、柄1、須恵器（平瓶、蓋付短頸壺、長頸壺、広口大形壺、椀、杯蓋）、土師器（蓋付短頸壺、椀、甕、小形甕）があるという。

昭和46年、野中徹調査。区画整理事業に伴い湮滅。

〔16. 市原市〕

西国吉横穴群 市原市愛宕山（209・340）

養老川中流に流入する支流が形成する支谷先端部東斜面に所在する。11基で構成される。上下2段に配列され、上段は標高35mのライン3基、下段は標高25mのラインに8基認められる。11基中8基の調査が行なわれた。

1号

羨道はすでに消滅し、玄室のみ残存。現存長4.3m、幅2.5m、主軸N-26°-W。平面プランは羽子板状を呈し、上、下2段の棺台が施される。上段棺台の右側には、長さ1.65m、幅0.5m、深さ0.25mの長方形の刳り抜き棺が施される。棺床には一面に貝殻が敷き詰められ、その上に頭を玄門に向けた人骨が検出された。また棺台床面より人骨が認められた。上段棺台下0.25mに下段棺台が施される。下段棺台左側壁下で須恵器長頸瓶出土。天井は、アーチ形、上段棺台床面より天井まで2.1mをはかる。側壁には、縦方向の削り痕を認める。削り痕は幅0.17m前後と一定している。

2号

玄室の一部、上段棺台のみ残存。現存長2.5m、幅3.1m、主軸N-19°-W。平面プランは羽子板状と推察される。上段棺台左側壁側に、長さ1.8m、幅0.7m、深さ0.2mの刳り抜き棺が施される。棺床より須恵器臍口縁部が出土。上段棺台右奥壁コーナー部に河原石が遺存しており、棺台全体に敷き詰められていたものと推察される。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで高さ1.85mをはかる。

3号

玄室の一部を残存する。現存長2.9m、幅3.2m、主軸N-2°-W。玄室部に上下二段の棺台が施される。上段棺台は長さ2m。下段棺台は一部分を残存するのみ。上段棺台に沿って幅0.08mの浅い溝がめぐる。天井はアーチ形。上段棺台床面より天井まで2mをはかる。

4号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長8.3m、玄室3.84m、幅1.56m、主軸N-20°-W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上下2段の棺台が施され、上段棺台は幅2.3m、長さ1.5mをはかる。下段棺台は上段棺台より0.5mの段差をもつ。幅2.2~1.75m、長さ2.25m。右側壁寄りに長さ1.55m、幅0.45m、深さ0.05mの刳り抜き棺が施される。棺台は羨道部底面より1.65m高いか、前庭部はゆるやかな傾斜を示す。天井はアーチ形。上段棺台床面より天井まで1.5m。天井、壁面には削り痕が全面に残る。ガラス、霰玉、鉄鏃、刀子、土師器（杯、高杯）が出土。すべて棺台寄りに集中して出土した。

5号

現存長6.9m、玄室長3.7m、幅1.7~2.8m、羨道長3.2m、幅1.2~1.6m、主軸N-36°-

W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上下2段の棺台が施され、上段棺台は、幅2.8m、長さ2m。左側壁下に長さ1.85m、幅0.6m、深さ0.09mの削り抜き棺が施される。また中央奥壁寄りに0.83~0.5m、深さ0.13mの方形の切り込みが認められる。この中に数個の河原石が検出された。下段棺台は上段より0.35m低い。長さ1.85m、幅1.7~2.2m、羨道底面よりの高さ1.9m。天井はアーチ形、上段棺台より天井まで2.1m。天井及び壁面に削り痕が著しい。須恵器（台付長頸瓶、杯蓋、大甕、甕、広口壺、甕）が出土。すべて羨道よりの出土。出土層位は上下2層に分かれるという。

6号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長7.05m、玄室長2.34m、幅1.2~3.03m、羨道長4.26m、幅0.9~1.14m、前庭部長0.45m、主軸N-35°-W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。羨道床面より1.68m高い棺台が施される。長さ2.34m、幅1.9~3.03m。奥壁下及び左側壁下の2か所に削り抜き棺が施される。前者は、長さ1.7m、幅0.7m、深さ0.1m、後者は長さ1.75m、幅0.68m、深さ0.1mをはかる。羨道は途中で段を作り、約0.12m下がる。前庭部は攪乱が著しい。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで2.32mをはかる。天井及び側壁面には削り痕が残る。鉄鏃出土。

7号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長12m、玄室長5.35m、幅2.3~3.55m、羨道長5.15m、幅1.1~2.65m、前庭長1.55m、幅1m、主軸N-35°-W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上中下3段の棺台が施される。上段棺台は長さ1.3m、幅3.25~3.55mをはかり、ほぼ中央に長さ2.2m、幅0.95m、深さ0.35mの削り抜き棺が施される。中段棺台は上段より0.5mの段差をもって施される。長さ2.4m、幅2.63~3.25mをはかる。左側壁寄りに長さ1.7m、幅0.65m、深さ0.3mの削り抜き棺が施される。下段棺台は中段より0.38mの段差をもって施される。長さ1.2m、幅2.6m、羨道底面よりの高さ2mをはかる。天井はアーチ形、上段棺台床面より天井まで1.8m。天井及び壁面に削り痕が残る。鉄鏃、須恵器（甕、長頸壺、杯蓋）、土師器（高杯）が羨道より出土。

8号

全長8.96m、玄室長4.46m、幅2.85~3.85m、羨道長4.5、幅1.6~2.9m、主軸N-49°-W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上下2段の棺台が施される。上段棺台はやや半円状を呈し、長さ1.3m、幅3.54mをはかる。下段棺台は上段より約0.5mの段差をもって施される。長さ3.16、幅2.85~3.85m、羨道床面よりの高さ2.15mをはかる。左側壁寄りに長さ1.83m、幅0.75m、深さ0.25mの削り抜き棺が施される。天井はアーチ形、上段棺台床面より天井まで1.72m。

昭和46年、県道木更津線改良工事に伴い杉山晋作他調査。後湮滅。

池和田横穴群 市原市鶴舞町 (27)

養老川中流北岸台地の斜面に所在する。玄室平面プランは両袖式、天井は家形を呈す横穴2基が報告されている。

昭和3年の踏査記録による。

大和田横穴群 市原市鶴舞町 (27)

養老川中流東岸台地の斜面に所在する。3基確認されている。玄室平面プランは羽子板状を呈し、低い棺台が施される。棺台には施設は認められない。2基の天井はアーチ形を呈す。また3基中のいずれかの玄室奥壁に、6人の人物像が陰刻されている。

昭和3年の踏査記録による。

浅間台横穴群 市原市鶴舞町 (52)

養老川下流域、河川に沿って延びる標高60.9mの台地斜面に所在する。横穴群は、6基で構成され、養老川に面して開口する。

1号

道路により羨道は一部破壊。現存長12m、玄室長6.23m、幅4.17m、羨道長5.57m、幅1.45m、主軸方位は未報告。羨道底面よりの高さ2.1mの棺台が施される。奥壁に沿って、造り付け石棺があり、長さ0.8m、幅2.25m、高さ0.6m、棺側壁の厚さ0.35~0.45mをはかる。棺の正面に径0.07m程の小穴が7か所認められる。左側壁に沿って刳り抜き棺が施され、長さ1.65m、幅0.65m、深さ0.42mをはかる。天井形態等は未報告。

2号

未調査。

3号

全長13m。各部の規模、主軸方位は未報告。玄室は羽子板状を呈す。上、中、下、3段の棺台が施される。下段棺台は左側壁に沿い、長さ3.46m、幅0.93m、羨道部底面より1.75mをはかり、長さ1.8m、幅0.42m、深さ0.2mの刳り抜き棺が施される。中段棺台は羨道部底面より高さ1.67mをはかり、棺台中央部に幅広の溝があり、溝により左右に二分される。左右とも側壁に沿って刳り抜き棺が施される。左側壁側は長さ1.9m、幅0.4m、深さ0.4m、右側壁側は、長さ1.9m、幅0.4m、深さ0.23mをはかる。上段棺台は、中段棺台床面より高さ0.85mをはかり、棺台には何の施設も認められない。天井はアーチ形。玄室より人骨が、羨道より刀子、釘、須恵器片、土師器片が出土。

4号

全長11.43m、各部の規模、主軸方位等は未報告。玄室は羽子板状を呈す。羨道底面よりの高さ1.9mをはかる棺台が施される。棺台中央部に、主軸と平行する長さ1.97m、幅0.8m、深

さ0.24mの刳り抜き棺が施される。天井はアーチ形。玄室内より人骨が出土。

5号

全長1.06m、各部の規模、主軸方位等未報告。玄室は羽子板状を呈す。羨道部底面よりの高さ1.8mの棺台が施される。棺台には左側壁に沿って、長さ1.4m、幅0.46m、深さ0.37mの刳り抜き棺が施される。天井はアーチ形。

6号

全長7m、各部の規模、主軸方位等は未報告。玄室平面形態、天井形態も未報告。羨道底面よりの高さ1.83mの棺台が施され、左右側壁に沿って刳り抜き棺を設ける。左の棺は長さ1.8m、幅0.6m、深さ0.48m、右の棺は長さ2m、幅0.8m、深さ0.5mをはかる。玄室内より鉄鏃、ガラス玉、人骨、羨道より人骨、鏝、須恵器（横瓶）、土師器（甕、椀）が出土。

昭和27年、小山剛調査。

外部田横穴群 市原市外部田（27）

養老川中流西岸の台地（標高約87m）斜面中腹に所在する。南斜面に位置し、上下2段で構成される（確認総数に関しては報告されていない。）

1号

全長約4.83m。各部の規模、主軸方位は未報告。玄室は両袖式で棺台が施される。棺台には刳り抜き棺等の施設はない。天井は家形を呈す。奥壁、左右壁面に人物、馬が陰刻により描かれている。

2号

全長、各部の規模、主軸方位等未報告。玄室は両袖式で棺台が施される。天井は家形を呈す。

3号

全長、各部の規模、主軸方位等未報告。一つの玄室に二つの羨道がつくという特異な構造をとる。玄門から羨道の途中までは一本だが、羨道のほぼ中央で左右に分かれ、各羨門にいたる。左右羨門より羨道中央までの間は、岩盤によって独立しており、羨道中央で一本となる。これは後世の加工ではなく、横穴構築時からのものと報告されている。玄室棺台は長方形を呈し、奥壁には接しているが、左右壁とは離れている。天井は家形を呈す。

3基とも昭和4年、内藤政光、石田茂作、矢島恭介調査。現存。

岩横穴群 市原市岩（301）

養老川の南岸にある丘陵の北西方向にのびる台地端部、三角錐状を呈す台地の南斜面、東斜面、西斜面（標高82～91m）に所在する。南斜面に6基、東斜面に3基、西斜面に1基、計10基で構成される。

1号

西側斜面に位置する。全長6.92m、玄室は長さ1.2m、幅2.95m、羨道長5.72m、幅1.84m。主軸S-83°-E。玄室の平面プランは羽子板状を呈す。羨道底面より高さ1.48m、奥壁より羨道方向への長さ0.72mの棺台が施される。棺台奥壁寄りに長さ2.11m、幅0.52m、深さ0.22mの刳り抜き棺が施される。天井はドーム形、崩落が著しい。羨道底面より天井まで約2.1mをはかる。刀子、須恵器（短頸壺、台付長頸壺、椀、甕）、土師器（椀）が、すべて羨道から出土した。

2号

南斜面に位置し、玄室、羨道、前庭に区切られる。全長4.86m、玄室長2.04m、幅2.74m、羨道は長さ2.12m、幅1.2m。主軸N-19°-E。玄室は両袖式、羨道底面より1.62m高い棺台が施される。前庭部底面は、ゆるかに傾斜し台地斜面に達する。羨道より須恵器片（形状不詳）、前庭部より土師器片（形状不詳）が出土。

3号

南斜面に位置し、玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長7.76m、玄室長4.46m、幅3.20m、羨道長3.3m、幅1.37~0.92m。主軸N-31°-E。玄室は両袖式。奥壁から左側壁にかけて、玄室底面より1.1~1.3m高い棺台がL字状に施される。奥壁、左側壁棺台に刳り抜き棺が施される。奥壁側のものは、長さ1.8m、幅0.66m、深さ0.16m、左側壁側のものは長さ1.72m、幅0.5m、深さ0.16mをはかる。羨道部外は0.62m程低くなり前庭部にいたる。天井はドーム形、天井は崩落が著しく高さは不明。玄室より人骨、直刀、刀子、管玉、棗玉、丸玉、白玉、ガラス玉、直刀、刀子、耳環、鉄環、鉄鏃、須恵器（甕、杯）、土師器（壺）、緑釉陶器片、羨道より、鉄鏃、勾玉、須恵器（杯）、前庭部より土師器（杯、高杯、甕）が出土。

4号

南斜面に位置し、玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長4.67m、玄室長1.91m、幅2.23m、羨道長2.76m、幅1.08m。主軸N-6°-E。玄室は両袖式。羨道床面より1.06m高い棺台が施される。棺台玄門寄りに一部攪乱で破損しているが、長さ1.7m、幅0.78m、深さ0.36mの刳り抜き棺がある。羨道は、ほぼ中央で羨門側へ0.18m下がる段を有し2段となる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.6mをはかる。玄室より鉄鏃、羨道より土師器（高杯）、前庭部より須恵器（高杯、甕）が出土。

5号

南斜面に位置し、玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長5.58m、玄室長3.06m、幅3.48~2.28m、羨道長2.52m、幅1.2~1.4m。主軸N-37°-E。玄室は右片袖式。右側壁から奥壁に沿って玄室底面より1.2m高い棺台がL字状に施される。右側壁寄り、奥壁寄りの2か所に刳り抜き棺が施され、右側壁のものは長さ1.68m、幅0.42~0.5m、深さ0.24~0.3m、奥壁側は長さ1.96m、幅0.49m、深さ0.42~0.27mをはかる。天井はドーム形、天井は崩落が著しく

高さは不明。出土遺物はない。

6号

南側斜面に位置する。全長8.07m、玄室長3.07m、幅2.74m、羨道長5m、幅0.9~1.2m。主軸N-52°-E。玄室は右片袖式、右側壁に沿い長さ2.92m、幅1.14m、玄室底面よりの高さ1.07mの棺台が施される。棺台中央に長さ1.85m、幅0.48m、深さ約0.25mの刳り抜き棺が施される。羨道は途中に0.24mの段を有し、玄室側が一段高くなる。天井はドーム形、玄室底面より天井まで2.14mをはかる。天井及び側壁面には、縦方向の削り痕が残る。前庭部は明確に検出されなかった。土師器（杯）が羨道より出土。

7号

南斜面に位置し、全長6.7m、玄室長3.3m、幅3.78m、羨道長3.4m、幅0.91~1.04m。主軸N-62°-E。玄室は両袖式、羨道底面は同レベルで幅0.9mの溝が奥壁まで達している。溝の両側に左右棺台が施される。左棺台は長さ3.3m、幅1.3m、玄室底面よりの高さ0.8mをはかる。棺台中央に長さ1.88m、幅0.58m、深さ0.21mの刳り抜き棺が施される。右棺台は長さ3.3m、幅1.3m、玄室底面よりの高さ0.84mをはかり、攪乱が認められる。羨道は途中で0.14mの段を有し、玄室側が一段高くなる。天井はドーム形、玄室底面より天井まで2.04mをはかる。

8号

東斜面に位置する。炭焼窯として二次的に使用されたため、遺存度が極めて悪い。玄室、羨道、前庭部からなる。全長6.49m、玄室長1.81m、幅3.54m、羨道長3.18m、幅1.06~1.52m、前庭長1.5~3.54m、主軸N-74°-W。玄室は両袖式、羨道底面よりの高さ1.74mの棺台が施される。棺台床面は攪乱により付属施設は検出できない。奥壁には、棟持柱を表現した角形の造り出しが左右に認められる。現存長は左側で奥壁から0.26m、側壁から0.31m、高さ0.79m、右側で奥壁から0.2m、側壁から0.29m、高さ0.9m。羨道は途中で、0.24mの段を有し、玄室側が一段高くなる。前庭部はゆるやかな傾斜を呈す。天井は崩落により、形状、高さとも不明。羨道部より刀子、須恵器（壺、長頸壺、甕、杯）、土師器（埴、杯）、前庭部より須恵器（杯、甕）が出土。

9号

東斜面に位置し、玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長6.66m、玄室長2.88m、幅3.68m、羨道長3.78m、幅1.29~2.02m、主軸N-74°-W。玄室は両袖式、羨道底面よりの高さ1.62mの棺台が施される。奥壁側、左側壁側、右側壁側の3か所に刳り抜き棺がコの字状に施される。奥壁側のものは長さ1.72m、幅0.69m、深さ0.14m、左側壁側のものは長さ1.86m、幅0.79m、深さ0.15m、右側壁側のものは長さ2.59m、幅0.67m、深さ0.1mをはかる。前庭部はやや傾斜しており、右側部分のみ調査され、長さ1.79mをはかったが幅は確認されなかった。天井は崩落により形状、高さとも不明。須恵器（長頸瓶、甕）がともに羨道で出土。

10号

東斜面に位置し、全長6.4m、玄室長1.7m、幅1.68m、羨道長4.7m、幅1.5m、主軸N-35°-E。玄室はわずかに左壁が張り出した左片袖式。何ら施設は認められない。天井はアーチ形、玄室床面より天井までをはかる。二次的な使用が考えられる。

昭和49年、よみうりランドゴルフ場造成に伴い野中徹調査。後湮滅。

米沢横穴群 市原市米沢 (204)

養老川の支流により樹枝状に開析された北岸台地南斜面(標高約40~60m)に所在する。横穴は斜面に3段に分けて構築され、上段2基、中段3基、下段3基、計8基を確認。調査は、下段3基を対称として測量を中心として実施。なお横穴群が所在する台地平坦部で、円墳4基が確認されている。

1号

全体に攪乱が著しく、玄室のみ残存。現存長2.7m。南に開口する。構築時の玄室形態、規模等まったく不明。天井はアーチ形で、幅0.17m程の削り痕が残る。棺台が施されていた痕跡が認められる。

2号

全長約7.2m、玄室長3.9m、幅2.6~3.4m、羨道長3.3m、幅2.3~3.4m、南に開口する。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上下2段の棺台が施され、上段棺台は長さ1.78m、幅3.4m、下段棺台は上段より0.36m程の段差をもって施される。長さ2.12m、幅3.3m、羨道床面よりの高さ2.14mをはかる。両棺台とも床面は平坦。天井はアーチ形、上段棺台床面より天井まで2.14mをはかる。天井、壁面には幅約0.14mの削り痕が残る。

3号

全長約5.8m、玄室長3.14m、幅3.14~3.57m、羨道長2.64m、幅1.28m、南に開口する。玄室は両袖式。羨道床面と同レベルで、玄門から奥壁へ長さ1.85m、幅1.28mの溝が掘られる。溝底面よりの高さ約2.15mの棺台が、コの字状に施される。棺台床面は平坦。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで約1.79mをはかる。天井、壁面には、削り痕が残る。

昭和44年、市原高校郷土史クラブ(二宮栄学)調査。現存。

[17. 千葉市]

小食土横穴群 千葉市小食土町字南谷、乙払込

樹枝状に開析され、太平洋に向けて突出する舌状台地中腹斜面(標高26~28m)に所在する。南谷横穴群7基、乙払込横穴群4基の2群11基が確認されている。

昭和49年、踏査。現存。

[35. 酒々井町]

新堀横穴群 1号横穴 印旛郡酒々井町新堀 (46)

印旛沼方向へ延びる台地西南側に、舌状に若干張り出した標高30m程の台地西側斜面に所在する。上下2段に分かれ、上段3基、下段4基計7基で構成される。1号横穴のみ報告がある。羨道の一部は崩落により消滅。現存長3.8m、玄室長3.5m、幅1.12~2.85m、羨道長0.3m、幅1.02m、主軸N-76°-W。玄室はやや胴の張る羽子板状を呈す。羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。玄室床面中央より玄門方向へ、主軸線上に幅0.1m、深さ0.11mの溝が施される(羨道床面は攪乱が著しく溝がつづいていたか否か不明)。各壁下に幅0.09m、深さ0.06mの溝がめぐる。天井はアーチ形を呈し崩落が著しい。玄室内より勾玉、直刀、鉄鏃、銅鏡、須恵器(平瓶)、人骨3~4体が出土。

昭和22年、小出義治調査。現存。

[41. 下総町]

西大須賀横穴群 香取郡下総町滑川 (7)

利根川に沿い、西南から東北へのびる台地斜面に所在する。1群45基が確認され、これは、下総地域における横穴群中最大規模と言える。玄室、羨道からなり、玄室は両袖式、羨道床面より0.15~0.2m高い棺台が施され、棺台中央には羨道床面と同レベルで幅約0.3mの溝が、主軸線上に認められるものがある。溝により棺台は左右に分かれる。天井は、アーチ形、ドーム形の種が多く存在し主流を占める。この形態は、利根川流域に普遍的に認められ、主流をなす。なおいずれの横穴より出土したのか明確でないが、直刀、刀子、勾玉、須恵器が出土遺物として報告されている。

明治27年、下村三四吉、八木契三郎踏査。明治37年、和田千吉により再踏査。その後はまったく未調査。

[43. 大栄町]

片野横穴群 香取郡大栄町所 (201)

大戸川の支流奥地の台地斜面裾部(標高約25m)に5基の横穴が所在する。5基の横穴は横一列に配列される。

1号

全長3.1m、玄室長2m、幅2.4m、羨道長0.6m、幅0.7m、主軸N-4°-W。玄室は両袖式。玄室中央に幅0.3mの溝が認められる。溝の左右両側に棺台が施される。棺台溝側端部には幅0.15m、高さ0.05mの有縁が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1mをはかる。

2号

全長2.3、玄室長1.7m、幅1.8m、羨道長0.6m、幅0.5m、主軸N-10°-W。玄室は両袖式。無棺台。天井はドーム形、玄室床面から天井まで0.8mをはかる。

3号

全長2.2、玄室長1.7m、幅1.8、羨道長0.5m、幅0.65m、主軸N-10°-W。玄室は両袖式。無棺台。天井はドーム形、玄室床面より天井まで0.9mをはかる。全体に粗雑な構築。

4号

全長2.4m、玄室長1.8m、幅1.55m、羨道長0.6m、幅0.85m、主軸N-55°-W。玄室は両袖式。玄室中央に羨道床面と同レベルで、幅0.3~0.5mの溝が奥壁手前0.2mまで掘られる。溝の両側に高さ0.15m程の棺台が施される。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで0.75mをはかる。小形で粗雑なつくり。

5号

全長2.7m、玄室長2.2m、幅0.75m、羨道長0.5m、幅1.55m、主軸N-19°-E。玄室は両袖式。無棺台。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで0.7mをはかる。

昭和46年、矢戸三男、大村祐踏査。現存。

〔44. 佐原市〕

野中横穴群 佐原市岩ヶ崎字野中台 (178・179)

佐原市街より西方約1km、下総台地の最北端、利根川にわずかに突き出した標高35mの舌状台地の丘陵南斜面に所在。9基で構成される。

1号

全長2.7m、玄室長2.1km、幅1.5m、羨道長0.6m、幅0.6m、主軸N-1°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.2m程の棺台が施され、棺台中央には、羨道床面と同レベルで幅0.25mの溝が玄室奥壁まで達する。棺台内側には高さ0.04m、幅0.08mの有縁が施される。奥壁、両側壁沿いに幅0.02~0.03mの溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.15mをはかる。玄室内より土師器片2片出土。

2号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4m、玄室長2.1m、幅1.6~1.9m、羨道長1.2m、幅0.9m、入口長0.7m、幅1.3m、主軸N-26°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.26m程の棺台が施される。棺台中央部、玄門から奥壁に高さ0.04m、幅0.13mの有縁が施される。右棺台周囲には溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.15mをはかる。

3号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.77m、玄室長2.39m、幅1.02m、羨道長0.9m、幅0.8m、入口長1.48m、幅1.3m、主軸N-12°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ

0.17m程の棺台が施される。棺台の周囲壁下には幅0.06m、深さ0.15mの浅い溝がめぐる。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.03mをはかる。玄室内堆積土上部より人骨片及び燈明皿が出土したが、横穴築造時の遺物ではなく、2次的、3次的な横穴利用時のものと思われる。

4号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.15m、玄室長1.84m、幅2~2.2m、羨道長0.5m、幅0.4m、入口長1.91m、幅0.7m、主軸N-21°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.2mの棺台が施され、棺台中央には羨道床面と同レベルで幅0.2mの溝が奥壁手前0.25mまで掘られる。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.57mをはかる。入口部床面に長さ0.72m、幅0.18m、深さ0.06mの溝が認められた。羨門部溝内より金銅製品断片出土。

5号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.18m、玄室長2.07m、幅2.05~2.77m、羨道長0.8m、幅0.8m、入口長1.31m、幅1.2m、主軸N-20°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.28m程の棺台が施され、コの字状を呈す。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.33mをはかる。

6号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.4m、玄室長2.05m、幅1.86m、羨道長0.45m、幅0.74m、入口長1.9m、幅1m、主軸N-10°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.28m程の棺台が施され、棺台中央部には羨道床面と同レベルで幅0.25mの溝が玄室奥壁まで達する。棺台内側には高さ0.05m、幅0.06mの有縁が施される。棺台の周囲壁下には幅0.03mの浅い溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.41mをはかる。入口部に、高さ0.06m、幅0.27mの段、段に隣接して開口部側に長さ0.75m、幅0.2m、深さ0.09mの溝が施される。

7号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長2.5m、玄室長1.93m、幅1.65~1.94m、羨道長0.3m、幅0.7m、入口長0.27m、幅1m、主軸N-1°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.19m程の棺台が施される。棺台中央部には、羨道床面と同レベルで幅0.22mの溝が奥壁手前0.42mまで掘られる。棺台の内側に高さ0.04m、幅0.08mの有縁が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.3mをはかる。

8号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.1m、玄室長2.5m、幅1.7~2m、羨道長0.75m、幅0.6m、入口長0.85m、幅1.2m、主軸N-11°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.13m程の棺台が施され、コの字状を呈す。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.29mをはかる。入口部に長さ0.96m、幅0.2m、深さ0.09mの長方形の溝が施される。

9号

： 玄室、羨道、入口部、前庭部に区切られる。全長3.35m、玄室長1.65m、幅1.54~1.7m、羨道長0.5m、幅0.9m、入口長1.2m、幅0.9m、主軸N-2°-E。玄室は左片袖式。羨道床面よりの高さ0.14m程の棺台が施され、羨道床面と同レベルで幅0.18mの溝が奥壁まで掘られる。棺台の内側には、高さ0.06m、幅0.15~0.19m程の砂岩切り石をブロック状に組み合わせるようして有縁が施される。左棺台は拡張痕が認められる。天井はドーム形、棺台床面より天井までをはかる。入口部に長さ1.12m、幅0.16m、深さ0.08mの溝が施される。全体に粗雑な構築である。前庭部は、入口部床面より急傾斜で0.4m下ったレベルで認められた。前庭部床面より土師器（埴）が出土。

昭和45年、岩立喜一調査。国道51号線佐原バイパス工事に伴い湮滅。

〔47. 東庄町〕

夏目横穴群 香取郡東庄町夏目（201）

利根川に背を向けた下総台地の裏側で、飯岡、海上地域より5~6m入る最も奥まった地域に位置する。台地南斜面中腹部（標高約35m）に所在する。4基で構成され、横穴はほぼ同レベルで、横一列に配される。1号横穴は全長4.26m、玄室長2.92m、幅2.6m、羨道長1.34m、幅0.57m、主軸N-32°-W。玄室は両袖式。玄門から0.7m程奥まったところで、玄室床面より0.15m高い棺台が施される。天井はドーム形、天井壁面には家形を模倣した浮彫が施される。棺台床面より天井まで1.83mをはかる。2~4号の3基は、崩落及び土砂の堆積が著しく詳細は不明。

昭和46年、豊田佳伸、越川敏夫踏査。現存。

〔48. 銚子市〕

小舟木横穴群 1号横穴 銚子市小舟木町（328）

国鉄成田線椎柴駅より西方約1.2km、利根川に面する台地の小支谷東側斜面裾部（標高18m）に所在する。2基で構成され、1基のみ調査。1号、2号とも、玄室形態はほぼ同一。規模は若干2号が大きい。現存長3.3m、玄室長2.08m、幅2.78~3.29m、羨道長1.22m、幅0.58m、主軸N-26°-W。玄室は両袖式。玄室中央には羨道床面と同レベルで幅0.3~0.5mの溝が奥壁まで達する。溝の両側に棺台が施される。左棺台は溝底面より0.2m高く、溝側端部に幅0.09m、高さ0.05~0.06mの造り付け有縁が施される。右棺台は溝底面より0.12m高く、溝側端部に幅0.09m、高さ0.06mの造り付け有縁が施される。左右とも有縁中央にV字溝が掘られる。棺台床面には転石がまばらな状態で敷かれる。左棺台には、頭部を玄門側に向ける2体分（成人1、小児1）が、ともに伸展葬されていた。羨門部に、転石と粘土を用いた閉塞施設が認められた。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.45mをはかる。玄室内より直刀、刀子、鉄鏃、鹿角製品が出土。

昭和47年、渋谷興平調査。現存。

赤塚横穴群 銚子市赤塚町 (167)

銚子市の西方約6km、利根川の河岸段丘を形成する台地東斜面裾部（標高約20m）に所在する。2基で構成される。

1号

全長2.64m、玄室長1.92m、幅2.05m、羨道長0.72m、幅0.68m、主軸は東西を示す。玄室は両袖式。羨道床面より0.25m程高い棺台が施される。棺台中央部に羨道床面と同レベルで、幅0.6mの溝が奥壁まで達する。左右棺台溝側端に幅0.05m、高さ0.05m程の粘土を貼り付けた有縁が施される。羨門に灰白色泥岩2枚を用いた閉塞石が認められた。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.25mをはかる。天井、壁面には、荒い削り痕を認める。玄室内より人骨12体、直刀、刀子、鉄鏃が出土。

2号

全長3m、玄室長2m、幅2.5m、羨道長1m、幅0.8m、主軸は東西を示す。玄室は両袖式。羨道床面より0.2m程高い棺台が施される。棺台中央には、羨道床面と同レベルで幅約0.6mの溝が奥壁まで達する。左右棺台の溝側端には有縁が施される。棺台床面には蛤が敷かれる。周壁に沿って幅0.08m、深さ0.15mの溝がめぐる。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで0.85mをはかる。天井、壁面には削り痕が残る。玄室内より耳環、人骨2体出土。

昭和44年、大木衛調査。現存。遺物は銚子市青少年文化会館保管。

西小川町横穴群 銚子市西小川町 (219)

下総台地の東端部にあたる台地上の東突出部東側斜面裾部（標高約20m）に所在。昭和30年代の砂取り工事により4基発見された。現存するのは、1号、2号の2基のみ。当時、4基中のいずれからの出土か不明だが、人骨2体分、須恵器（器形、時期不詳）等が検出された。

1号

全長約3.3m、玄室長2.09m、幅2.16~2.29m、羨道長1.21m、幅0.48m、主軸N-63°-W、玄室は両袖式。玄室中央に羨道床面と同レベルで幅0.2m程の溝が奥壁まで達する。溝の両側に棺台が施され、溝底面より左棺台は0.15m、右棺台は0.22m高い。左棺台中央に直径0.2m、深さ0.06mのピットがあった。左右棺台溝側に高さ0.05m、幅0.13mの有縁が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.3mをはかる。

2号

全長3.2m、玄室長2.5m、幅1.82~2.36m、羨道長0.7m、幅0.45m、主軸N-71°-W。玄室は両袖式。玄室中央に、羨道床面と同レベルで幅0.22~0.36mの溝が奥壁まで掘られる。溝の両側に棺台が施され、左右棺台溝底面より0.4m高い。左右棺台溝側に高さ0.12m、幅0.17

の有縁が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.77mをはかる。

昭和44年、銚子市教育委員会調査。開口したまま現存。

長塚町横穴群 1号横穴 銚子市長塚町 (219)

利根川に並行する台地で、僅かに北側に突出した部分東斜面裾部（標高約15m）に2基所在する。台地眼下には利根川の沖積地が広がる。全長3.4m、玄室長2.4m、幅3.05～3.42m、羨道長1m、幅0.64m、主軸N-63°-W。玄室は両袖式。玄室中央には上下2段の溝が奥壁まで掘られている。上部溝は幅0.64m、下部溝は幅0.15m、上部溝よりの深さ0.08mをはかる。溝両側に棺台が施され、上部溝底面より0.3mほど高い。左右側壁下には幅0.15m、深さ0.04m程の溝がめぐる。この溝は棺台中央を横断し、有縁に孔を穿ち、玄室中央に掘られた溝と連結する。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.31mをはかる。

昭和44年、銚子市教育委員会調査。2基中、1基のみの調査。2基ともに現存。

[46. 飯岡町]

平松岡横穴 海上郡飯岡町平松 (302)

太平洋に面する台地南斜面（標高26m）に1基所在。半島へ続く。全長2.8m、玄室長0.85～0.9m、幅2m、羨道長1.9m、幅0.75～0.95m、主軸N-38°-E。玄室平面プランは長円形を呈し、主軸の方が短い。羨道床面よりの高さ0.7mの棺台が施される。棺台壁周囲には、幅0.05～0.06m、深さ0.03～0.04mの溝がめぐる。天井は不整形なドーム形、棺台床面より天井まで0.75mをはかる。棺台床面上で人骨2体検出。なお飯岡町上永井地区における横穴分布踏査が行なわれており、22基の横穴の所在が確認されている。報告によれば、天井形態が寄棟平入的ドーム形のものが多い。

昭和51年、佐藤克己調査。調査後再閉塞し、保存。

[53. 八日市場市]

吉田横穴群 八日市場市吉田字小下原 (294)

太平洋岸に流入する栗山川と栗山川支流借当川合流地域付近の台地斜面に所在する。9基調査。詳細は未報告。ドーム形1基、アーチ形8基、直刀、須恵器が出土。古墳時代後期と推定される。

昭和47年、桜井茂隆調査。砂利採取に伴い湮滅。資料は八日市場市立公民館保管。

米倉横穴 八日市場市米倉

九十九里平野に面する台地斜面に所在する。詳細な報告はされていない。調査者の言によれば、石棺内より直刀、水晶製切子玉、須恵器長頸壺が出土したという。

桜井茂隆調査。砂利採取に伴い湮滅。資料は八日市場市立公民館保管。

馬洗横穴群 八日市場市馬洗 (201)

立地の詳細は不明。2基で構成される。

1号

土砂の堆積が著しく詳細は不明。

2号

全長3.48m、玄室長2.53m、幅1.93m、羨道長0.95m、幅0.9m、主軸N-76°-W。玄室は両袖式。奥壁及び両側壁下に棺台がコの字状に施される。奥の棺台は玄室床面よりの高さ1.16m、長さ1.93m、幅0.9m、左右棺台は、玄室床面よりの高さ0.91m、長さ1.22m、幅1.15mをはかる。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで2.1mをはかる。

昭和46年、池上悟踏査。現存。

丸山横穴 八日市場市大寺 (201)

九十九里平野に面する一見独立丘陵を呈す標高44.6mの台地南東斜面に所在する。水田よりの比高約5m。全長3.9m、玄室長3.4m、幅1.9m、羨道長0.5m、幅0.83m、主軸N-51°-E。玄室は左片袖式。奥壁と左側壁下の2か所に棺台が施される。奥の棺台は玄室床面よりの高さ1.18m、長さ1.9m、幅1.05m、棺台左右に幅0.06m、深さ0.03mの溝が施される。左の棺台は玄室床面よりの高さ0.82m、長さ1.72m、幅0.56m、玄門側、右側壁側に高さ0.09m、幅0.12mの有縁が施される。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで2.2mをはかる。

昭和46年、池上悟踏査。現存。

[55. 多古町]

高津原横穴群 香取郡多古町高津原字愛宕 (243)

栗山川の支谷が西に貫入した奥まった位置に所在する。支谷に南面する台地斜面(標高21m~22m)に位置する。3基で構成される。

1号

玄室部のみ残存する。現存長2.68m、幅1~2m、主軸は南北方向。玄室は羽子板状を呈すると推察される。上下2段の棺台が施され、上段棺台と下段棺台の段差は0.1m。天井はドーム形、上段棺台より天井まで2.4mをはかる。

2号

現存長5.22m、玄室長2.74m、幅1.75~1.8m、羨道長1.9m、幅1m、主軸N-13°-W。玄室は羽子板状を呈す。上下2段の棺台が施され、上段棺台は、長さ0.9m、幅1.85m、下段棺台側端には高さ0.1m、幅0.1mの有縁を施す。棺床には厚さ0.01~0.02mのロームの貼り床

が認められた。有縁にも、表面にうすくロームによる整形が認められた。下段棺台は、上段より約0.4m低い。長さ1.3m、幅1.96m、玄門側端に高さ0.1m、幅0.07mの有縁が施される。下段棺台から羨道まで0.75mをはかる。羨門で砂岩切石を用いた閉塞石を1個検出。閉塞石は最下段のみ残存し、当初は、砂岩切石が数段積まれたものと推察される。天井はドーム形、上段棺台より天井まで0.68mをはかる。上台棺台より人骨、ガラス玉が出土。

3号

調査時においてすでに消滅。横穴内より出土した須恵器（平瓶、フラスコ形長頸瓶）が報告されている。

昭和48年、村田一男調査。林地崩壊防止事業により湮滅。

63. 〔大網白里町〕

宮谷横穴群 山武郡大網白里町宮谷

九十九里平野に面する台地の西斜面に所在する。大坊山に4基、米伝山に2基確認。大坊山の横穴の一基は、玄室は両袖式、コの字状に棺台が施され、奥壁、左右側壁に沿って刳り抜き棺が3か所認められる。別の一基は玄室平面プランは両袖式、コの字状に棺台が施され、左右側壁に沿って刳り抜き棺が2か所認められる。また玄室平面プラン両袖式、棺台が施され、棺台中央部、主軸に直交する形で刳り抜き棺が1か所認められる横穴1基が報告されている。

昭和3年、踏査。現存。

〔64. 茂原市〕

渋谷横穴群 茂原市北塚字提前渋谷，字白幡（277）

一宮川の支流が南側を流れ、東には九十九里平野を望む台地中腹斜面、9基の調査が行なわれた。横穴の詳細は未報告。横一列に配置され、全般的に高い棺台が施される。人物、鳥、舟等の線刻画が施されるものがある。土師器、人骨1体が出土。

昭和49年、海保四郎調査。砂利採取に伴い湮滅。

押日横穴群 茂原市押日西之谷（277）

一宮川支流の長谷川北岸台地斜面に所在。11基の調査が行なわれた。詳細は未報告。

昭和49年、高橋三男調査。団地造成に伴い湮滅。

押日横穴群 茂原市押日（35）

一宮川支流長谷川によって開析された台地で、長谷川北岸に所在する。台地南斜面に4群確認され、4群中、最も上流、国府関寄の1群を除いた3群の調査報告。調査された横穴の具体的なデータは不明。報告者の分類により、各類の特徴を記すが、各類の基数、配置等は不明。

1類

平面形において、主軸の長さが横軸とほぼ一致し、高い棺台が施される。棺台には、深い刳り抜き棺が1か所施される。玄室平面プランは、両袖式、左右片袖式が認められる。

2類

玄室平面プランは両袖式。棺台は、羨道床面と同レベルの溝が奥壁まで達し、左、右に分かれる。棺台は羨道床面よりかなりの高さを有す。左右棺台には、それぞれ1か所ずつ刳り抜き棺が施される。

3類

玄室平面プランは両袖式、右片袖式で、主軸の長さと同幅が3：2の比率を示す。奥壁から右側壁に沿ってL字状に棺台が施される。棺台には、奥壁側は主軸と直交し、右側壁側は主軸に平行して刳り抜き棺が施される。棺台が施されない玄室床面部分（この場合左側壁側）は、羨道床面と同レベルとなる。

4類

第1類、第3類とやや類似する。第3類とその構造を等しくするものだが、奥壁沿いの棺台を欠き、右側壁沿いの棺台のみが施される。棺台には刳り抜き棺が1か所施されるが、第1類より玄室、刳り抜き棺とも大きく、棺台が低い。主軸と同幅は1：1か、若干主軸が長い傾向を示す。

5類

主軸と同幅が2：3の横に長い玄室で、平面プランは両袖式。羨道床面よりかなり高い棺台が施される。棺台は長方形を呈するものと、コの字状を呈するものがある。棺台に、左右壁に沿って浅い刳り抜き棺が2か所施される。左右側壁沿いの刳り抜き棺にくわえ、主軸と直交する形で奥壁に沿って浅い刳り抜き棺が施され2棺を有す横穴もある。第5類が押日横穴群中に最も多く認められる。

6類

玄室床面は、羨道床面と同レベルで奥壁まで達し、玄室内部には何ら施設が認められない。玄室平面プランは限定されない。また棺台が施されていても、棺台床面に何ら施設を有さない横穴も第6類に属す。

7類

押日横穴群中一例のみ。第6類と同様、玄室床面は羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。玄室床面には、主軸と直交する形で刳り抜き棺が施される。

昭和10年、三木文雄調査。現存。

〔65. 長柄町〕

源六谷横穴群 長生郡長柄町字徳増源六谷 (79・338)

一宮川本流により開析された北岸台地南斜面（標高約30m）に所在する。横一列に8基が配される。

1号

玄室長、主軸方向は未報告。羨道長34m。玄室は両袖式。羨道床面より1.58m高い棺台が施される。棺台床面は攪乱を受けるが、削り抜き棺が2か所施されていた痕跡が認められる。天井は家形を呈し、切妻平入り形で、棺台床面より棟まで1.8mをはかる。羨道左右壁面に、3か所に直径0.15m、奥行き0.08m程の小穴がある。竹または丸太を用いた閉塞施設と推測されている。

2号

玄室長、主軸方向は未報告。羨道長3.68m、幅1.71~1.91m。玄室は両袖式。羨道床面より1.65m高い棺台が施され、両側壁下に側壁と平行して有縁の削り抜き棺が施される。天井は家形を呈し、切妻平入り形で、棺台床面より棟まで2.07mをはかる。天井、各壁面には幅0.15m程の削り痕が認められる。

3号

全長、主軸方向等は未報告。玄室は両袖式。羨道床面より2.05m高い棺台が施される。棺床面は攪乱が著しい。削り抜き棺が1か所施されていた痕跡を認めるが規模は不明。玄室右側壁から4号横穴左側壁に、高さ0.53m、幅0.61m、長さ1.36mのトンネルが掘られ、これは両側から掘り込まれている。このトンネルは本横穴群構築期に造られたものと報告されている。玄門部に閉塞施設の一部とみられる穴があった。天井は家形を呈し、切妻平入り形。棺台床面より棟まで1.8mをはかる。

4号

全長、主軸方向等未報告。玄室は両袖式。羨道床面と同レベルで、幅1.36mの溝が玄門より奥壁に向ってのびる。棺台は各壁に沿いコの字状に施され、溝底面より1.75mをはかる。両側壁下に有縁の削り抜き棺が施される。羨門部壁面に8か所穴が認められ、閉塞施設の一部と報告されている。天井は家形を呈す。羨道右壁下に地下式壙が掘り込まれており、地下式壙の壁面削り痕は横穴壁面削り痕にくらべ非常に粗い。土壙よりガラス玉が出土。横穴構築と同時に掘り込まれたものと報告されている。

5号

全長、主軸方向等未報告。玄室は両袖式。羨道床面と同レベルで、玄門より奥壁に向かって溝が入り込む。棺台はコの字状に施され、溝底面より1.55mをはかる。右側壁から奥壁、奥壁から左側壁、左側壁に沿い3か所削り抜き棺が施される。右棺は長さ2.27m、幅0.63m、奥の棺は長さ0.6m、幅1.87m、左棺は長さ1.81m、幅0.58mをはかり、深さは各棺とも平均0.2m。削り抜き棺はコの字状に施され3方に縁をもつ。羨門壁面に閉塞施設に関わるとされる穴6個があった。天井は平形。

6号

玄室長2.66m、幅3.66m、羨道長1.76m。玄室は両袖式。奥壁下に幅2m、羨道床面より1.59m高い棺台が施される。右側壁より7号横穴左側壁へ、長さ0.94m、幅0.5m、高さ0.68mのトンネルが掘られる。トンネルは横穴構築時に造られたものと報告されている。奥壁、右側壁面に線刻画があり、奥壁は2か所で、一は弓を持つ4人の人物像と顔像、他は人物顔像。右側壁は人物顔像。羨道右側壁に2列の穴があり、1列目は5穴、2列目は4穴。閉塞施設の一部と報告されている。天井は平形。棺台床面より天井まで2.2mをはかる。

7号

全長、主軸方向等未報告。玄室は両袖式。羨道床面と同レベルで玄室中央まで溝がのび、溝底面より1.64m高い棺台が施される。棺台はコノ字状を呈す。奥壁及び右側壁に線刻画がある。奥壁は3人の人物像、右側壁は倒立した2人の人物像が描かれ、天井は平形。

8号

全長、主軸方向等未報告。玄室は両袖式。羨道床面より1.72m高い棺台が施される。右側壁に沿い深さ0.15mの削り抜き棺が施される。玄門の天井及び棺台床面に、幅0.04m、深さ0.05m、長さ0.4~0.5mの溝が各2か所施される。玄門よりの羨道左、右壁面に各3か所の穴が縦方向に配される。閉塞施設の一部と報告されている。天井は平形。

昭和32年、高橋三男調査。現存。

[66. 一宮町]

柚ノ木横穴群 長生郡一宮町柚ノ木(149)

瑞沢川流域南岸丘陵地帯に所在する。丘陵は東南の方向に支谷が樹枝状に入り込み、柚ノ木横穴群は丘陵東端南斜面(標高約30m)に所在する。丘陵の僅かな張り出しにより、A・B群に分かれる。A群5基、B群8基の2群13基で構成される。

A1号

全長5.6m、玄室長2.1m、幅3.1m、羨道長3.5m、幅1~1.7m、主軸N-60°-E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ1.4mの棺台が施される。棺台中央部には、長さ1m、幅2m、深さ0.15mの削り抜き棺が施され、棺床から玄門に向い溝が掘られる。奥壁から左側壁下に幅0.1~0.15m、深さ0.07m程の溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.35mをはかる。羨道より耳環、管玉、土師器(杯、壺)が出土。

A2号

全長3.5m、玄室長2m、幅2.7m、羨道長1.5m、幅0.65~1.7m、主軸N-65°-W。玄室は両袖式。奥壁より玄門側へ幅1.4m、羨道床面よりの高さ0.9mの棺台が施される。棺台中央部には長さ0.9m、幅2.1m、深さ0.15mの削り抜き棺が施される。壁下には浅い溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.2mをはかる。羨道より貝釧、須恵器(横瓶、壺)

が出土。

A 3号

全長8.8m、玄室長2.8m、幅2.4m、羨道長6m、幅0.8m、主軸N-75°-W。玄室は左片袖式。羨道床面よりの高さの棺台が施される。主軸に直交して2か所に刳り抜き棺が施される。奥の棺の長さ0.6m、幅1.8m、深さ0.14m、他は長さ0.55m、幅1.7m、深さ0.13m。羨道は極端に細長い。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.5mをはかる。

B 1号

全長6.1m、玄室長3.05m、幅3.6m、羨道長3.05m、幅0.95~2.1m、主軸N-55°-W。玄室は羽子板状を呈す。奥壁より玄門側へ幅2.5m、羨道床面よりの高さ1.15mの棺台が施される。左右側壁寄りに刳り抜き棺が施される。左棺は長さ2m、幅1.6m、深さ0.1m、右棺は長さ1.85m、幅1m、深さ0.09m。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.95mをはかる。羨道より須恵器（埴）が出土。

昭和39年、上智大学調査。現存。

〔68. 長南町〕

地引横穴群 長生郡長南町地引（175）

一宮川の支流植生川上流の南岸台地斜面（標高35~40m）に所在する。長さ80m程の間に6群29基の横穴が、A群6基、B群4基、C群6基、D群4基、E群8基、F群1基の構成で群在する。B群のみ上下2段になる他は横一列に配置される。

A 1号

玄室のみ遺存。現存長3.6m、幅3.5m、主軸N-33°-W。玄室形態、棺台の高さは不明。床面に幅0.12~0.13m、深さ0.05mの溝が掘られる。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.8mをはかる。玄室内より歯、直刀、鋸、刀子、鉄鏃、須恵器（短頸壺）が出土。

A 2号

全長4.75m、玄室長3m、幅2.35~3.1m、羨道長1.75m、幅1.35~1.85m。玄室平面形は羽子板状を呈す。羨道床面よりの高さ1.4mをはかる棺台が施される。棺台には奥壁、左側壁、右側壁に沿って3か所刳り抜き棺がコの字状に配される。奥の棺は長さ0.45m、幅1.6m、深さ0.1m、左棺は長さ1.6m、幅0.62m、深さ0.2m、右棺は長さ1.45m、幅0.5m、深さ0.15m。棺台各壁下には浅く細い溝がめぐる。天井はアーチ形、棺台床面より天井までの高さ1.8mをはかる。玄室より人骨、歯、鉄鏃、耳環、羨道より須恵器（長頸壺、横瓶、杯）、土師器（杯）が出土。

B 1号

上下段に配される横穴群中下段の横穴。全長4.6m、玄室長3.2m、幅2.5~3.25m、羨道長1.4m、幅0.95m、主軸N-22°-W。玄室は両袖式。棺台施設は認められず、各壁下周囲及び中

中央主軸沿いに溝が施され、それらが羨道へ続く。壁下溝は幅0.09～0.12m、深さ0.06～0.08m、中央溝は幅0.09～0.3m、深さ0.06～0.12mをはかり、中央溝は奥壁から羨門に向うに従い幅、深さとも増大する。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで1.5mをはかる。玄室内より鉄鏃、小玉、羨道より須恵器（杯）、土師器（杯）出土。

B 2号

全長5.7m、玄室長4m、幅3.6～4.6m、羨道長1.7m、幅1.2～1.45m、主軸N-20°-W。玄室は両袖式。無棺台で、玄室床面は羨道底面と同レベル。付属施設はない。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで1.7mをはかる。玄室内より人骨、歯、須恵器（短頸壺）、土師器高杯が出土。

昭和40年、上智大学調査。現存。

中ノ郷横穴群 長生郡長南町又富字中ノ郷（149）

一宮川本流の上流谷奥に所在する。谷の北側丘陵斜面に4群の横穴がある。谷奥より小平田横穴群（3基）、三本松横穴群（13基）、水ノ口横穴群（11基）、中ノ郷横穴群（11基）の4群38基をかぞえる。38基すべての玄室形態が、家形寄棟平入形態という斉一性を有す点注意される。中ノ郷横穴群は、A、B 2群により構成される。

A 1号

全長7.75m、玄室長3.75m、幅4.6m、羨道長3m、幅2.1～2.3m、主軸N-81°-W。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ1.7mの棺台が施される。左右両側壁下に刳り抜き棺が施される。左棺は長さ1.9m、幅0.75m、深さ0.82m、右棺は長さ2.1m、幅0.7m、深さ0.25m。玄門部床面には、奥壁と平行して幅0.4m、高さ0.1m程の段が施される。天井は家形寄棟形態を呈し、平入り構造で、廂状の彫り込みによって天井と側壁が明確に区別される。玄室内には、棟木、棟柱、桁、柱等の浮き彫りが施される。棺台床面より天井まで高さ2.5mをはかる。羨道より須恵器片（形態不詳）が若干出土。

A 2号

全長7.25m、玄室長3.25m、幅2.95～3.4m、羨道長4m、幅1.8m、主軸N-56°-W。玄室は両袖式。羨道より1.6m高い棺台が施される。両側壁下に刳り抜き棺が施され、左棺は長さ1.8m、幅0.75m、深さ0.25m、右棺は、長さ1.8m、幅0.8m、深さ0.3m。玄門付近に奥壁と平行して幅0.25m、高さ0.05mの段が床面に施される。天井は家形寄棟形態を呈し、平入構造。床面より天井まで1.8mをはかる。羨門より須恵器（広口壺）が出土。

昭和42年、上智大学調査。現存。

立鳥汲井谷横穴群 A 4号横穴 長南町立鳥字汲井谷（149）

一宮川本流河口より約20km程さかのぼった汲井谷に所在する。汲井谷は、長さ1km、幅100

mの谷で、横穴は谷の西側台地斜面（標高約60m）に9群31基ある。全長6.1m、玄室長3.6m、幅5.4m、羨道長2.5m、幅2～2.4m、主軸N-60°W。玄室は両袖式。羨道より約1.5m高い棺台が施される。天井は、家形を呈し、寄棟平入り形。各壁面と天井の境には0.1～0.12mの廂状の掘り込みがある。壁高は1.25m。天井には、棟木、垂木が浮彫される。棟木と垂木の組合せに特徴を有し、垂木端部が、棟木端部より0.1m程内側に入る合せ方を呈す。この棟木は、長さ3.1m、幅0.3m、左右の垂木幅0.19m。棺台床面より棟木部分まで2.1mをはかる。

昭和38～42年、上智大学分布調査。現存。

長富岩柵谷横穴群B3号横穴 長南町長富字岩柵谷（149）

一宮川本流の上流、西岸台地東斜面に所在する。3群33基で構成される。全長5.6m、玄室長2.9m、幅3.2m、羨道長2.7m、幅1.1～1.23m、主軸N-42°-W。玄室は両袖式。玄門から玄室ほぼ中央まで、羨道幅よりやや細い溝が掘られる。溝底面より1.6m高い棺台がコの字に施される。玄室奥壁、左右壁に沿いコの字状に刳り抜き棺が施される。3棺とも長さ2m、幅0.7m、深さ0.15～0.2mをはかる。天井はドーム形で、中央に径0.44m、深さ0.05mの円形掘り込みがあり、掘り込みを中心とし、放射状の削痕が装飾的に施される。天井と各壁の境に0.1m程の廂状の掘り込みが認められる。棺台床面より天井まで1.7mをはかる。

昭和38～42年、上智大学分布調査。現存。

棚毛馬場谷横穴群4号横穴 長南町棚毛字馬場谷（149）

一宮川本流の上流の北岸台地南斜面に所在する。棚毛横穴群は、15群59基で構成され、谷入口部に馬場谷横穴群が位置する。全長4.5m、玄室長4.4m、幅3.4～3.95m、羨道長0.5m、幅1.5m、主軸N-13°-W。玄室は両袖式。棺台は施されず、羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。天井はアーチ形、棟木に相当する陰刻が、主軸に平行して、玄門から奥壁まで天井中央に施される。この陰刻を中心として、左右壁に向って削痕が装飾的に施される。玄室床面より天井まで1.9mをはかる。羨道は極端に短い。

昭和38～42年、上智大学分布調査。現存。

長生郡一宮川流域の横穴（149）

東上総を流れる一宮川本・支流流域には、横穴の分布が濃密である。上智大学の踏査記録により、一宮川全体を本・支流合計7流域に大別し、横穴所在地、確認数・横穴形態を記す。

（1）長谷川流域

押日4群40基、長谷5群27基、国府関戸田谷1群7基、庄吉谷1群2基、原田1群5基、立堀1群3基、芦網1群5基、殿谷1群1基、岩出2群2基、力丸2群5基、米和久1群10基、計20群107基。玄室天井形態は、アーチ形が大勢を占め、家形は少ない傾向を示す。

(2) 一宮川流域

箕輪5群14基、榎本7群28基、徳育5群27基、本台1群6基、今泉4群18基、又富4群38基、棚毛15群59基、岩欄谷3群33基、新堀谷10群53基、桜谷4群11基、泉谷1群1基、針ヶ谷1群2基、金谷1群3基、汲井谷9群31基、刑部4群8基、計74群309基。家形が半数を占め164基、次いでアーチ形114基、ドーム形12基、不明19基となる。家形は、寄棟平入り形152基、切妻平入り形9基、宝形3基と寄棟平入り形が大半を占める。

(3) 長南川流域

須田1群2基、米満宮田1群24基、米満堰向1群13基、坊谷2群7基、千田三ヶ谷1群4基、千田吹羅1群4基、千田井山1群15基、千田外原1群1基、三途台2群5基、深沢1群2基、計12群77基。アーチ形が半数を占め38基、次いで家形26基、ドーム形2基、不明11基となる。家形は寄棟平入り形18基、切妻平入り形8基と、寄棟平入り形が約 $\frac{2}{3}$ を占めている。

(4) 鶴枝川流域

猿袋1群4基、三ヶ谷4群27基、立木2群3基、上永吉7群15基、法華谷2群13基、坂本5群13基、計21群75基。家形、アーチ形ともに21基、次いでドーム形14基、平形12基、不明7基となる。ほぼ平均して各形態が認められる。家形は、寄棟平入り形13基、切妻平入り形7基、宝形1基と寄棟平入り形が約 $\frac{2}{3}$ 程を占める。

(5) 埴生川流域

寺崎2群4基、北山田1群5基、白ヶ谷1群4基、大谷木1群5基、関戸1群5基、木ノ村1群1基、永井2群17基、豊原2群3基、久原1群4基、うり谷1群1基、八坂1群2基、妙詮寺1群6基、ひろげ谷1群4基、八板1群1基、地引6群29基、小沢1群16基、報恩寺1群9基、計25群116基。アーチ形37基、ドーム形21基、家形18基、平形11基、不明30基と、アーチ形が僅かに優勢。家形は、寄棟平入り形8基、宝形4基、切妻平入り形5基と寄棟平入りが多いが、かなり平均化され多様性を示す。

(6) 佐貫川流域

大作1群7基、鞠谷1群4基、森谷1群4基、福門寺1群2基、養老子谷1群3基、次郎ヶ谷1群1基、計6群21基。アーチ形が半数を占め11基、次いで家形5基、ドーム形4基、不明1基となる。家計はすべて寄棟平入り形。

(7) 瑞沢川流域

柚ノ木4群23基、小池4群13基、細田4群20基、今堰1群1基、奥谷3群6基、岩井3群6基、池田谷2群7基、下根方5群14基、東谷4群9基、次郎田谷3群13基、嶋田猿田谷2群6基、中谷2群10基、天ヶ谷2群9基、大谷10群19基、上の郷東谷3群6基、山田谷3群9基、飯沢1群1基、長楽寺1群2基、坏六1群3基、杉山1群12基、計59群189基。アーチ形50基。家形47基、ドーム形の3形態が平均化している。家形は、切妻平入り形32基、寄棟平入り形14基、宝形1基と切り妻平入り形が、大勢を占める。

昭和38～42年、上智大学踏査。なお、当然実数はこれを上まわるものと思われる。

Ⅳ 要素別古墳一覽

(番号は市町村を示す)

1 墳 形

〔前方後円墳〕

- 12 弁天山古墳。内裏塚古墳。九条塚古墳。三条塚古墳。稻荷山古墳。わらび塚。西原古墳。
- 13 八幡神社。
- 14 さかもり塚。丸山塚古墳。山伏作1号墳。鹿島塚14号墳。稻荷森古墳。下郡古墳。高柳銚子塚古墳。清川村古墳。手古塚古墳。金鈴塚古墳。大塚山古墳。
- 16 天神山古墳。持塚古墳群2号墳。荻作1号墳。瓢箪塚古墳。東間部多11号墳。山王山古墳。大厩1号墳。大厩4号墳。大厩東古墳群。東関山古墳。二子塚古墳。神門4号墳。山倉古墳群1号墳。姫宮古墳。吉野1号墳。吉野2号墳。原1号墳。
- 17 内野古墳群1号墳。狐塚古墳。仁戸名2号墳。戸張作8号墳。戸張作13号墳。舟塚古墳。中原3号墳。中原4号墳。中原5号墳。
- 18 鷺沼A号墳。鷺沼B号墳。
- 20 法皇塚古墳。弘法寺古墳。
- 22 東深井9号墳。
- 26 日立精機1号墳。日立精機2号墳。我孫子第4小学校古墳。高野山1号墳。高野山2号墳。高野山4号墳。水神山古墳。
- 27 北作2号墳
- 32 山崎ひょうたん塚古墳。大篠塚古墳。光勝寺境内古墳。姫宮古墳。
- 37 山王古墳。
- 40 天王船塚8号墳。荒海古墳群第15号墳。
- 41 大日山古墳群1号墳。
- 42 小松古墳。舟塚原古墳。
- 44 神道山古墳。大戸古墳。片野古墳群1号墳。片野古墳群4号墳。片野古墳群10号墳。片野古墳群11号墳。片野古墳群23号墳。
- 45 城山古墳群1号墳。城山古墳群5号墳。城山古墳群6号墳。
- 47 羽計古墳群婆里古墳。
- 53 塚原古墳群1号墳。内山古墳。

- 54 小川台古墳群3号墳。小川台古墳群5号墳。
- 55 坂並白貝古墳群18号墳。
- 57 取立古墳。姫塚古墳。殿塚古墳。
- 58 木戸前1号墳(高田第1号墳)。高田古墳。宝馬にわとり塚古墳(宝馬6号墳)。殿部田1号墳。
- 59 大堤権現塚古墳。蕪木第5号墳(名城5号墳)。朝日ノ岡古墳。
- 60 西ノ台古墳。不動塚古墳。
- 68 油殿古墳群1号墳。油殿古墳群2号墳。能満寺古墳。
- 71 台古墳。

〔前方後方墳〕

- 13 道祖神裏古墳。
- 16 諏訪台古墳群33号墳。六孫王原古墳。東間部多2号墳。東間部多11号墳。東間部多16号墳。新皇塚古墳。
- 32 飯合作1号墳。飯合作2号墳。
- 45 阿玉台北A-7号墳。

〔方墳〕 (方形周溝遺構を含む)

- 12 割見塚古墳。野々間古墳。
- 13 掘込古墳。
- 14 山伏作4号墳。山伏作5号墳。山伏作6号墳。山伏作A-1号墳。山伏作9号方形墳。
庚申塚方形墳群第1号方形墳。庚申塚方形墳群第2号方形墳。庚申塚方形墳群第3号方形墳。
大山台方形墳群7号方形墳。大山台方形墳群8号方形墳。大山台方形墳群10号方形墳。
大山台方形墳群11号方形墳。大山台方形墳群12号方形墳。大山台方形墳群16号方形墳群。
大山台方形墳群32号方形墳。大山台方形周溝墓群第51遺構。大山台方形周溝墓群第52遺構。
大山台方形周溝墓群第53遺構。大山台方形周溝墓群第54遺構。大山台方形周溝墓群第55遺構。
大山台方形周溝墓群第56遺構。大山台方形周溝墓群第57遺構。請西遺跡A-1号周溝。
請西遺跡B-1号周溝。請西遺跡B-2号周溝。
- 16 天神台遺跡第13号周溝。天神台遺跡第12号周溝。天神台遺跡第11号周溝。天神台遺跡第10号周溝。
天神台遺跡第9号周溝。天神台遺跡第8号周溝。天神台遺跡第7号周溝。天神台遺跡第6号周溝。
天神台遺跡第5号周溝。天神台遺跡第4号周溝。天神台遺跡第3号周溝。天神台遺跡第2号方形周溝。
天神台遺跡第1号方形周溝。諏訪台古墳群6号墳。台遺跡B地点2号墳。持塚古墳群4号墳。徳部台古墳。大厩9号墳。大厩8号墳。大厩7号墳。大厩6号墳。大厩5号墳。大厩3号墳。東間部多14号墳。東間部多12号墳。東間部多10号墳。

- 東間部多4号墳。東間部多8号墳。東間部多7号墳。東間部多6号墳。東間部多5号墳。
 東間部多4号墳。東間部多3号墳。牛久Ⅲ号墳。女坂第1号墳。武士遺跡Y—2号遺構。
 台遺跡5号方形周溝墓。南総中遺跡方形周溝墓M—24号。南総中遺跡方形周溝墓K—21
 号。南向原1号方形周溝墓。南向原2号方形周溝墓。大厩遺跡E—3号址。大厩遺跡E—
 4・5b号址。大厩遺跡E—12号址。菊間遺跡第1号周溝。菊間遺跡第2号周溝。菊間遺
 跡第4号周溝。菊間遺跡第1号溝状遺構。蛇谷遺跡方形周溝墓。台遺跡11号方形周溝墓。
 南総中遺跡方形周溝墓H—17号。南総中遺跡方形周溝墓I—17号。南総中遺跡方形周溝墓
 J—18号。南総中遺跡方形周溝墓H—20号。南総中遺跡方形周溝墓K—27号。南総中遺跡
 方形周溝墓O—24号。南総中遺跡方形周溝墓K—26号。南総中遺跡方形周溝墓G—22号。
 南総中遺跡方形周溝墓L—30号。南総中遺跡方形周溝墓J—28号。加茂遺跡C地点。
- 17 高品第2遺跡A地点第2号周溝。高品第2遺跡A地点第1号周溝。戸張作10号墳。県立コ
 ロニー内018号址。県立コロニー内017号址。県立コロニー内012号址。県立コロニー内011
 号址。県立コロニー内010号址。県立コロニー内009号址。県立コロニー内007号址。県立
 コロニー内008号址。県立コロニー内004号址。県立コロニー内003号址。県立コロニー内
 001号址。県立コロニー内002号址。石神4号墳。兼坂遺跡第6号周溝。兼坂遺跡第2号周
 溝。兼坂遺跡第6号周溝。高品第2遺跡A地点第7号周溝。高品第2遺跡A地点第6号周
 溝。高品第2遺跡A地点第5号周溝。高品第2遺跡A地点第3周溝。高品第2遺跡A地点
 第4号周溝。すすき山遺跡1号方形周溝墓。すすき山遺跡2号方形周溝墓。すすき山遺跡
 3号方形周溝墓。すすき山遺跡4号方形周溝墓。すすき山遺跡5号方形周溝墓。すすき山
 遺跡6号方形周溝墓。すすき山遺跡7号方形周溝墓。すすき山遺跡8号方形周溝墓。すす
 き山遺跡9号方形周溝墓。すすき山遺跡10号方形周溝墓。東五郎遺跡方形周溝墓。
- 19 夏見大塚遺跡周溝状遺構
- 20 太鼓塚古墳。
- 21 稔台富山遺跡。
- 22 東深井遺跡方形周溝墓。
- 23 堤台遺跡。
- 25 戸張城山遺跡。
- 29 復山谷遺跡016方形周溝墓。
- 30 小林2号墳。
- 31 村上古墳。
- 32 臼井南遺跡渡戸A地点。臼井南遺跡渡戸B地点1号方形周溝墓。臼井南遺跡渡戸B地点2
 号方形周溝墓。江原台遺跡1号方形周溝墓。江原台遺跡2号方形周溝墓。飯合作3号墳。
 飯合作4号墳。飯合作D01。飯合作D02。飯合作D03。飯合作D04。飯合作D05。飯合作
 D06。飯合作D07。飯合作D08。飯合作D09。飯合作D10。飯合作D11。飯合作D12。

飯合作D13。飯合作D14。飯合作D15。飯合作D16。飯合作D17。飯合作D18。飯合作D19。飯合作20。飯合作D21。飯合作D22。飯合作D23。生谷遺跡A地点第1号周溝。生谷遺跡A地点第2号周溝。生谷遺跡A地点第4号周溝。生谷遺跡第5号周溝。生谷遺跡第6号周溝。生谷遺跡第7号周溝。生谷遺跡第8号周溝。萱橋遺跡方形周溝墓1号址。萱橋遺跡方形周溝墓2号址。萱橋遺跡方形周溝墓3号址。生谷境堀遺跡第1号方形周溝状遺構。生谷境堀遺跡第2号方形周溝状遺構。飯重新畑遺跡第1号方形周溝状遺構。飯重新畑遺跡第2号方形周溝状遺構。西の台遺跡1号方形周溝墓。大崎台遺跡2号址。大崎台遺跡方形周溝墓1号址。生谷遺跡A地点第3号周溝。

33 千代田遺跡V区方形周溝遺構1号址。千代田遺跡V区方形周溝遺構2号址。千代田遺跡V区方形周溝遺構3号址。千代田遺跡区方形周溝遺構4号址。千代田遺跡V区方形周溝遺構5号址。千代田遺跡V区方形周溝遺構6号址。千代田遺跡区方形周溝遺構7号址。

36 松ノ木台2号墳。日吉倉遺跡3号方形周溝墓。日吉倉遺跡2号方形周溝墓。日吉倉遺跡1号方形周溝墓。

40 天王船塚27号墳（伝伊都許利命墳墓）。上福田古墳（上福田岩屋古墳・上福田古墳群第7号墳）。赤坂・瓢塚古墳群第13号墳。八代台20号墳。八代台8B号墳。八代台8A号墳。天王船塚50号墳。天王船塚49号墳。天王船塚32号墳。天王船塚10号墳。瓢塚48号墳。瓢塚47号墳。瓢塚46号墳。瓢塚45号墳。瓢塚44号墳。瓢塚42号墳。瓢塚41号墳。瓢塚40号墳。瓢塚39号墳。瓢塚38号墳。瓢塚36号墳。瓢塚27号墳。瓢塚16号墳。瓢塚12号墳。瓢塚9号墳。天王船塚48号墳。天王船塚42号墳。天王船塚44号墳。

42 武田古墳群2号墳。

45 阿玉台北遺跡A地点001号墳。阿玉台北遺跡A地点002号墳。阿玉台北遺跡A地点004号墳。阿玉台北遺跡A地点005号墳。阿玉台北遺跡A地点006号墳。阿玉台北遺跡B地点001号墳。阿玉台北遺跡B地点003号墳。阿玉台北遺跡B地点004号墳。阿玉台北遺跡A—001号址。阿玉台北遺跡A—002号址。阿玉台北遺跡A—003号址。阿玉台北遺跡A—004号址。阿玉台北遺跡B—008号址。

54 小川台古墳群4号墳。

55 正徳院古墳。

〔円墳〕（円形周溝遺構を含む）

12 一本松古墳。白姫塚。西谷古墳。八丁塚古墳。向原古墳。虫神古墳（きさき塚）。野々間古墳。丸塚古墳。

13 馬門古墳。下道古墳。南子安古墳。南子安所在の古墳。小安坂古墳。八重原6号墳。八重原7号墳。

14 庚申塚6号墳。山伏作7号墳。清見台A—3号墳。清見台A—4号墳。清見台A—5号

墳。清見台A—8号墳。清見台B—1号墳。清見台B—2号墳。清見台B—3号墳。清見台B—4号墳。道上谷1号墳。道上谷2号墳。道上谷3号墳。大山台1号墳。大山台4号墳。大山台5号墳。大山台6号墳。大山台14号墳。大山台15号墳。大山台21号墳。大山台27号墳。大山台24号墳。鹿島塚20号墳。清水谷古墳。照崎光塚古墳。鶴巻塚。下部田山古墳。

- 15 大竹12号墳。
- 16 塚の台2号墳。富士見塚古墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。諏訪台古墳群1号墳。諏訪台古墳群7号墳。南向原古墳群1号墳。南向原古墳群2号墳。南向原古墳群3号墳。南向原古墳群4号墳。南向原古墳群5号墳。南向原古墳群6号墳。南向原古墳群7号墳。南向原古墳群8号墳。神門A号墳。神門B号墳。郡本A号墳。郡本B号墳。郡本C号墳。郡本D号墳。稻荷台遺跡。堀の内中谷遺跡。大厩2号墳。木戸窪古墳。福増1号墳。福増2号墳。東間部多1号墳。東間部多13号墳。持塚古墳群2号墳。大厩1号墳。大厩2号墳。菊間天神山古墳。向原2号墳。大厩遺跡E—18号址。向原3号墳。向原4号墳。菊間遺跡第3号周溝。菊間遺跡第5号周溝。
- 17 中原1号墳。中原2号墳。聖人塚古墳。戸張作9号墳。戸張作11号墳。戸張作12号墳。平山古墳。仁戸名古墳群1号墳。仁戸名3号墳。兼坂遺跡第3号周溝。兼坂遺跡第4号周溝。石神2号墳。石神3号墳。石神5号墳。石神6号墳。荻生道遺跡。内野古墳群2号墳。舟塚古墳。武石遺跡第1号周溝。武石遺跡第2号周溝。
- 19 海神古墳。
- 20 真間山古墳。
- 21 栗山古墳。河原塚古墳。竹ヶ花古墳。
- 22 初石古墳群1号墳。初石古墳群2号墳。初石古墳群4号墳。新川村古墳群1号墳。新川村古墳群2号墳。新川村古墳群3号墳。東深井1号墳。東深井2号墳。東深井3号墳。東深井4号墳。東深井5号墳。東深井6号墳。東深井7号墳。東深井8号墳。東深井10号墳。東深井11号墳。東深井12号墳。東深井遺跡第1号周溝。
- 25 天神台古墳群2号墳。
- 26 中峠古墳群1号墳。白山1号墳。高野山3号墳。子の神10号墳。金塚古墳。子の神古墳。
- 27 北作1号墳。
- 30 下総鶴塚古墳。小林1号墳。小林3号墳。小林4号墳。
- 31 神野芝山2号墳。神野芝山4号墳。
- 32 石神第1地点1号墳。星谷津1号墳。石川1号塚。飯塚古墳群7号墳。
- 36 日吉倉遺跡2区1号円形周溝墓。日吉倉遺跡2区2号円形周溝墓。日吉倉遺跡4区円形周溝墓。烏山2号墳。
- 39 竜角寺92号墳(57号墳)。竜角寺111号墳。竜角寺112号墳。

- 40 瓢塚17号墳。瓢塚18号墳。瓢塚19号墳。瓢塚20号墳。瓢塚21号墳。瓢塚22号墳。瓢塚23号墳。瓢塚29号墳。瓢塚30A号墳。瓢塚30B号墳。瓢塚31号墳。瓢塚32号墳。瓢塚33号墳。瓢塚34号墳。瓢塚35A号墳。瓢塚35B号墳。瓢塚43号墳。天王船塚4号墳。天王船塚5号墳。天王船塚33号墳。天王船塚34号墳。天王船塚35号墳。天王船塚36号墳。天王船塚37号墳。天王船塚40号墳。天王船塚41号墳。天王船塚43号墳。天王船塚45号墳。天王船塚46号墳。瓢塚15号墳。八代台7号墳。八代台21号墳。八代台22号墳。浅間台古墳。
- 41 木挽崎古墳群。
- 42 武田古墳群1号墳。武田古墳群3号墳。
- 43 地藏原古墳群1号墳。
- 44 白幡古墳。鶴崎天神台古墳。片野古墳群8号墳。片野古墳群9号墳。片野古墳群12号墳。片野古墳群13号墳。片野古墳群21号墳。片野古墳群22号墳。
- 45 阿玉台北遺跡A—012号址。阿玉台北遺跡A—023号址。阿玉台北遺跡A—045号址。阿玉台北遺跡A—028号址。阿玉台北遺跡B—003号址。阿玉台北遺跡B地点002号墳。
- 47 羽計古墳群扶喰古墳。
- 53 塚原古墳群4号墳。
- 54 宝米古墳群5号墳。小川台古墳群1号墳。小川台古墳群2号墳。
- 55 坂並白貝古墳群17号墳。坂並白貝古墳群20号墳。坂並白貝古墳群21号墳。坂並白貝古墳群66号墳。多古台遺跡群No.4地点。
- 57 殿塚第7号墳。
- 58 小池第1号墳。山田1号墳。山田2号墳。山田3号墳。山田4号墳。
- 59 諏訪塚古墳。
- 60 板附1号墳。板附2号墳。板附所在の一円墳（板附4号墳）。経僧塚古墳。
- 61 埴谷3号墳。埴谷古墳群2号墳。中津田古墳。矢部の一円墳（1）。
- 66 待山古墳群1号墳。
- 68 油殿古墳群3号墳。油殿古墳群4号墳。
- 71 高谷古墳群1号墳。高谷古墳群1号墳。高谷古墳群2号墳。打岡台古墳群1号墳。打岡台古墳群2号墳。打岡台古墳群3号墳。打岡台古墳群4号墳。大宮氏旧宅裏山古墳。

〔横 穴〕

- 2 東長田横穴群。南條横穴群。
- 12 加藤横穴群3号横穴。絹根方横穴群18号横穴。絹根方横穴群1号横穴。絹根方横穴群6号横穴。絹根方横穴群9号横穴。絹根方横穴群10号横穴。岩瀬横穴群1号横穴。岩瀬横穴群2号横穴。岩瀬横穴群3号横穴。池田横穴群1号横穴。谷掘横穴群2号横穴。鹿島横穴群L5号横穴。鹿島横穴群R1号横穴。神宿横穴群。西山横穴群。大溝横穴群第3群1号横

- 穴。大満横穴群第3群2号横穴。大満横穴群第3群3号横穴。大満横穴群第3群4号横穴。
大満横穴群第1群1号横穴。大満横穴群第1群2号横穴。大満横穴群第3群7号横穴。大
満横穴群第3群19号横穴。大満横穴群第3群24号横穴。
- 13 花里山横穴群。
- 14 中尾横穴群西本谷A1号墳。中尾横穴群西本谷A5号横穴。高畑横穴群。金屋敷横穴群。
柘谷横穴群。東本谷横穴。西入横穴群。
- 16 西国吉横穴群1号横穴。西国吉横穴群2号横穴。西国吉横穴群3号横穴。西国吉横穴群4
号横穴。岩横穴群5号横穴。西国吉横穴群6号横穴。西国吉横穴群7号横穴。西国吉横穴
群8号横穴。西国吉横穴群1号横穴。岩横穴群2号横穴。岩横穴群3号横穴。岩横穴群4
号横穴。岩横穴群5号横穴。岩横穴群6号横穴。岩横穴群7号横穴。岩横穴群8号横穴。
岩横穴群9号横穴。岩横穴群10号横穴。米沢横穴群1号横穴。米沢横穴群2号横穴。米沢
横穴3群号横穴。外部田横穴群1号横穴。外部田横穴群2号横穴。外部田横穴群3号横穴。
浅間台横穴群1号横穴。浅間台横穴群2号横穴。浅間台横穴群3号横穴。浅間台横穴群4
号横穴。浅間台横穴群5号横穴。浅間台横穴群6号横穴。池和田横穴群。大和田横穴群。
- 17 小食土横穴群。
- 35 新堀横穴群1号横穴。
- 41 西大須賀横穴群。
- 43 片野横穴群1号横穴。片野横穴群2号横穴。片野横穴群3号横穴。片野横穴群4号横穴。
片野横穴群5号横穴。
- 44 野中横穴群第1号横穴。野中横穴群第2号横穴。野中横穴群第3号横穴。野中横穴群第4
号横穴。野中横穴群第5号横穴。野中横穴群第6号横穴。野中横穴群第7号横穴。野中横
穴群第8号横穴。野中横穴群第9号横穴。
- 47 夏目横穴群1号横穴。夏目横穴群2号横穴・3号横穴・4号横穴。
- 48 赤塚横穴群1号横穴。赤塚横穴群2号横穴。小舟木横穴群1号横穴。西小川町横穴群1号
横穴。西小川町横穴群2号横穴。長塚町横穴群1号横穴。
- 49 平松岡横穴。
- 53 米倉横穴。吉田横穴群。馬洗横穴群1号横穴。馬洗横穴群2号横穴。丸山横穴。
- 55 高津原横穴群1号横穴。高津原横穴群2号横穴。高津原横穴群3号横穴。
- 63 宮谷横穴群。
- 64 洪谷横穴群。押日横穴群第1類横穴。押日横穴群第2類横穴。押日横穴群第3類横穴。押
日横穴群第4類横穴。押日横穴群第5類横穴。押日横穴群第6類横穴。押日横穴群第7類
横穴。
- 65 源六谷横穴群1号横穴。源六谷横穴群2号横穴。源六谷横穴群3号横穴。源六谷横穴群4
号横穴。源六谷横穴群5号横穴。源六谷6号横穴。源六谷横穴群7号横穴。源六谷横穴群

8号横穴。

66 柚ノ木横穴群A 1号横穴。柚ノ木横穴群A 2号横穴。柚ノ木横穴群A 3号横穴。柚ノ木横穴群B 1号横穴。

68 立鳥汲井谷横穴群A 4号横穴。長富岩柵横穴群B 3号横穴。棚毛馬場谷横穴群 4号横穴。地引横穴群A 1号横穴。地引横穴群A 2号横穴。地引横穴群B 1号横穴。地引横穴群B 2号横穴。中ノ郷横穴群A 1号横穴。中ノ郷横穴群A 2号横穴。

長生郡一宮川流域の横穴 1 長谷川流域。長生郡一宮川流域の横穴 2 一宮川 本流域。長生郡一宮川流域の横穴 3 長南川流域。長生郡一宮川流域の横穴 4 鴨枝川流域。長生郡一宮川流域の横穴 5 埴生川流域。長生郡一宮川流域の横穴 6 佐貫川流域。長生郡一宮川流域の横穴 7 瑞沢川流域。

2 内部施設

〔横穴式石室〕

- 12 割見塚古墳。西谷古墳。西原古墳。わらび塚。白姫塚。八丁塚古墳。向原古墳。虫神古墳(きさき塚)。野々間古墳。丸塚古墳。
- 14 瑠璃光塚古墳。丸山塚古墳。清川村古墳。塚の越古墳。山伏作5号墳。金鈴塚古墳。
- 16 持塚古墳群2号墳。福増2号墳。福増1号墳。郡本C号墳。南向原古墳群2号墳。塚の台2号墳。六孫王原古墳。カロト塚古墳。牛久3号墳。徳部台古墳。向原4号墳。
- 17 舟塚古墳。県立コロニー内004号址(方墳)。舟塚古墳。
- 20 法皇塚古墳。
- 22 東深井2号墳。東深井3号墳。
- 26 中峠古墳群2号墳。中峠古墳群3号墳。白山2号墳。我孫子第4小学校古墳。日立精機2号墳。日立精機1号墳。中峠古墳群1号墳。白山1号墳。高野山3号墳。
- 27 天神塚古墳。船戸古墳群1号墳。船戸古墳群2号墳。
- 30 上宿古墳。
- 31 村上古墳。
- 36 松ノ木台2号墳。
- 39 竜角寺92号墳(57号墳)。
- 40 天王船塚40号墳。天王船塚35号墳。天王船塚34号墳。天王船塚4号墳。天王船塚27号墳(伝伊都許利命墳墓)。上福田古墳(上福田岩屋古墳・上福田古墳群第7号墳)。天王船塚50号墳。天王船塚49号墳。天王船塚10号墳。瓢塚44号墳。瓢塚42号墳。瓢塚41号墳。瓢塚39号墳。瓢塚38号墳。瓢塚36号墳。瓢塚27号墳。天王船塚44号墳。
- 45 城山古墳群6号墳。城山古墳群1号墳。阿玉台北遺跡A地点001号墳。阿玉台北遺跡A地点002号墳。阿玉台北遺跡A地点004号墳。阿玉台北遺跡A地点005号墳。阿玉台北遺跡A地点005号墳。阿玉台北遺跡B地点001号墳。阿玉台北遺跡B地点003号墳。
- 48 野尻古墳群(第1次調査)。
- 53 関向古墳。
- 54 小川台古墳群4号墳。宝米古墳群5号墳。
- 57 殿塚第7号墳。姫塚古墳。殿塚古墳。
- 58 小池第1号墳。
- 59 大提権現塚古墳。蕪木第5号墳(名城5号墳)。朝日ノ岡古墳。
- 60 経僧塚古墳。西ノ台古墳。不動塚古墳。

61 矢部の一円墳（1）。埴谷古墳群1号墳。埴谷古墳群2号墳。

〔堅穴式石室〕

12 弁天山古墳。九条塚古墳。

17 中原4号墳。

40 天王船塚8号墳。

〔石 棺〕

10 広場古墳群1号墳。

14 さかもり塚。鶴巻塚。金鈴塚古墳。大塚山古墳。

16 向原1号墳。

17 新山古墳群1号墳。

18 鷺沼A号墳。鷺沼B号墳。

19 峯台古墳。

20 明戸古墳。

21 竹ヶ花古墳。

26 中峠古墳群4号墳。中峠古墳群5号墳。中峠古墳群6号墳。高野山1号墳。高野山2号墳。高野山4号墳。

29 海老内台古墳。平塚船戸古墳。真木ノ内古墳群1号墳。真木ノ内古墳群2号墳。真木ノ内古墳群3号墳。

31 栗谷古墳。神野芝山2号墳。

32 石川1号墳。飯塚古墳群16号墳。姫宮古墳。大篠塚古墳。

37 山王古墳。

39 竜角寺111号墳。竜角寺112号墳。

40 八代台20号墳。瓢塚40号墳。天王船塚48号墳。天王船塚8号墳。天王船塚37号墳。長田古墳第1号墳。天王船塚27号墳（伝伊都許利命墳墓）。天王船塚49号墳。瓢塚44号墳。瓢塚41号墳。浅間台古墳。

42 小松古墳。

43 地藏原古墳群1号墳。

44 片野古墳群1号墳。片野古墳群4号墳。片野古墳群8号墳。片野古墳群9号墳。片野古墳群10号墳。白幡古墳。

45 城山古墳群7号墳。城山古墳群1号石棺。城山古墳群2号石棺。城山古墳群3号石棺。城山古墳群4号石棺。城山古墳群5号石棺。阿玉台北遺跡A地点003号墳。

47 羽計古墳群婆里古墳。寺台古墳。

- 48 柴崎台古墳。
- 52 長熊古墳。
- 53 内山古墳。神崎古墳。
- 55 坂並白貝古墳群18号墳。坂並白貝古墳群66号墳。
- 58 山田1号墳。山田2号墳。山田4号墳。木戸前1号墳（高田第1号墳）。高田古墳。宝馬にわとり塚古墳（宝馬6号墳）。
- 59 大堤権現塚古墳。
- 60 経僧塚古墳。
- 61 中津田古墳。

〔粘土施設〕

- 13 下道古墳。
- 14 道上谷2号墳。道上谷3号墳。大山台1号墳。大山台4号墳。清見台A—3号墳。手古塚古墳。
- 16 荻作1号墳。瓢箪塚古墳。山王山古墳。大厩2号墳。大厩4号墳。原1号墳。木戸窪古墳。東間部多古墳群1号墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。諏訪台古墳群7号墳。南向原古墳群1号墳。南向原古墳群3号墳。持塚古墳群4号墳。新皇塚古墳。
- 17 狐塚古墳。中原5号墳。中原1号墳。中原2号墳。聖人塚古墳。石神2号墳。兼坂遺跡第2号周溝。
- 27 北作1号墳。北作2号墳。
- 31 神野芝山4号墳。
- 53 塚原古墳群1号墳。

〔木炭施設〕

- 41 大日山古墳群1号墳。
- 68 能満寺古墳。

〔土壙・直葬〕

- 13 馬門古墳。南子安所在の古墳（2）。小安坂古墳。八重原6号墳。八重原7号墳。
- 14 庚申塚6号墳。清見台A—4号墳。清見台A—5号墳。清見台A—8号墳。清見台B—1号墳。清見台B—2号墳。清見台B—3号墳。大山台5号墳。大山台6号墳。大山台14号墳。大山台15号墳。大山台21号墳。大山台24号墳。山伏作4号墳。山伏作A—1号墳。鹿島塚20号墳。大山台27号墳。矢畑1号墳。請西遺跡。大山台方形墳群7号方形墳。大山台方形墳群8号方形墳。大山台方形周溝墓群第53遺構。大山台方形周溝墓群第55遺溝。大

- 山台方形周溝墓群第57遺構。庚申塚方形墳群1号方形墳。庚申塚方形墳群2号方形墳。請西遺跡B—2号周溝。
- 16 大庭5号墳。富士見塚古墳。南向原古墳群4号墳。南向原古墳群5号墳。二子塚古墳。大庭7号墳。大庭9号墳。諏訪台古墳群6号墳。瓢箪塚古墳。大庭4号墳。原1号墳。大庭2号墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。諏訪台古墳群7号墳。南向原古墳群1号墳。南向原古墳群3号墳。持塚古墳群4号墳。南総中遺跡方形周溝墓J—28号。
- 17 仁戸名2号墳。戸張作8号墳。戸張作13号墳。中原3号墳。戸張作9号墳。戸張作14号墳。石神5号墳。兼坂遺跡第1号周溝。県立コロニー内008号址。中原5号墳。中原1号墳。中原2号墳。聖人塚古墳。石神2号墳。兼坂遺跡第2号周溝。戸張作11号墳。仁戸名古墳群第1号墳。仁戸名3号墳。
- 20 太鼓塚古墳。
- 21 河原塚古墳。
- 22 東深井6号墳。東深井8号墳。東深井11号墳。新川村古墳群3号墳。
- 23 堤台遺跡。
- 25 戸張城山遺跡2号方形周溝墓。
- 26 金塚古墳。子の神10号墳。水神山古墳。
- 29 復山谷遺跡016方形周溝墓。
- 30 小林4号墳。小林1号墳。下総鶴塚古墳。
- 32 生谷遺跡A地点第3号周溝。星谷津1号墳。飯合作D09。飯合作D08。飯合作1号墳。石神第1地点2号墳。
- 33 千代田遺跡V区方形周溝遺構1号址。
- 36 烏山2号墳。大崎台遺跡方形周溝墓1号址。
- 40 瓢塚22号墳。瓢塚23号墳。瓢塚29号墳。瓢塚32号墳。瓢塚33号墳。瓢塚35A号墳。瓢塚35B号墳。天王船塚5号墳。天王船塚33号墳。天王船塚36号墳。瓢塚19号墳。瓢塚17号墳。天王船塚46号墳。瓢塚15号墳。赤坂・瓢塚古墳群第13号墳。天王船塚32号墳。瓢塚48号墳。瓢塚47号墳。瓢塚46号墳。瓢塚45号墳。瓢塚16号墳。瓢塚9号墳。
- 41 木挽崎古墳群。
- 44 片野古墳群23号墳。
- 45 阿玉台北遺跡。
- 47 羽計古墳群扶喰古墳。
- 53 塚原古墳群4号墳。
- 54 小川台古墳群1号墳。小川台古墳群5号墳。
- 55 坂並白貝古墳群21号墳。多古台遺跡群No.4地点。
- 60 板附2号墳。

71 高谷古墳群 3 号墳。打岡台古墳群 1 号墳。打岡台古墳群 3 号墳。

〔特殊施設〕

30 下総鶴塚古墳。

3 遺 物

〔円筒埴輪〕

- 12 九条塚古墳。弁天山古墳。内裏塚古墳。稲荷山古墳。
- 13 馬門古墳。
- 14 清見台A—4号墳。清見台A—8号墳。高柳銚子塚古墳。
- 16 山倉古墳群1号墳。天神山古墳。南向原古墳群4号墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。吉野1号墳。菊間天神山古墳。
- 18 鷺沼A号墳。
- 19 竹の越古墳。
- 20 法皇塚古墳。
- 21 小金1号墳（愛宕塚）。
- 22 新川村古墳群1号墳。新川村古墳群2号墳。東深井12号墳。初石古墳群1号墳。初石古墳群2号墳。初石古墳群4号墳。新川村古墳群。東深井11号墳。東深井9号墳。東深井3号墳。東深井1号墳。東深井遺跡第2号周溝。
- 25 天神台古墳群2号墳。
- 26 子の神古墳。高野山1号墳。高野山2号墳。高野山4号墳。金塚古墳。
- 30 小林1号墳。下総鶴塚古墳。
- 31 神野芝山4号墳。
- 32 姫宮古墳。
- 37 山王古墳。
- 40 瓢塚32号墳。荒海古墳群第15号墳。
- 41 木挽崎古墳群。
- 42 武田古墳群1号墳。武田古墳群3号墳。舟塚原古墳。
- 44 大戸古墳。片野古墳群11号墳。片野古墳群23号墳。
- 45 城山古墳群1号墳。城山古墳群5号墳。
- 47 羽計古墳群婆里古墳。
- 54 小川台古墳群5号墳。
- 57 姫塚古墳。殿塚古墳。取立古墳。
- 58 木戸前1号墳（高田第1号墳）。殿部田1号墳。
- 59 朝日ノ岡古墳。
- 60 経僧塚古墳。

61 埴谷古墳群1号墳。

66 待山古墳群1号墳。

〔形象埴輪〕

12 内裏塚古墳。

13 馬門古墳。

14 清見台A—8号墳。

16 山倉古墳群1号墳。南向原古墳群4号墳。

17 塚原古墳群。

18 鷺沼A号墳。

19 竹ノ越古墳。

20 法皇塚古墳。

21 栗山古墳。小金1号墳（愛宕塚）。

22 初石古墳群1号墳。初石古墳群2号墳。新川村古墳群2号墳。新川村古墳群1号墳。東深井3号墳。東深井5号墳。東深井7号墳。東深井9号墳。

26 子の神古墳。高野山1号墳。高野山2号墳。高野山4号墳。子の神8号墳。

30 小林1号墳。

32 姫宮古墳。

35 新堀横穴群1号横穴。

37 山王古墳。

40 天王船塚8号墳。瓢塚32号墳。荒海古墳群第15号墳。

41 木挽崎古墳群（第1次調査）。

42 舟塚原古墳。

44 片野古墳群11号墳。片野古墳群23号墳。

45 城山古墳群1号墳。城山古墳群5号墳。

47 羽計古墳群婆里古墳。

54 小川台古墳群5号墳。

57 取立古墳。殿塚古墳。姫塚古墳。

58 山田1号墳。宝馬にわとり塚古墳（宝馬6号墳）。木戸前1号墳（高田第1号墳）。殿部田1号墳。

60 経僧塚古墳。西ノ台古墳。

61 埴谷古墳群1号墳。

〔土 師 器〕

- 12 わらび塚。虫神古墳（きさき塚）。加藤横穴群18号横穴。岩瀬横穴群1号横穴。神宿横穴群。西山横穴群。大満横穴群第3群1号横穴。大満横穴群第3群4号横穴。大満横穴群第1群1号横穴。大満横穴群第1群2号横穴。大満横穴群第3群19号横穴。1
- 13 花里山横穴群、道祖神裏古墳。
- 14 中尾横穴群西本谷A1号横穴。丸山塚古墳。大山台15号墳。道上谷2号墳。道上谷3号墳。清見台A—8号墳。請西遺跡B—1号周溝。手古塚古墳。金鈴塚古墳。大山台方形墳群7号方形墳。大山台方形墳8号方形墳。大山台方形墳11号方形墳。大山台方形周溝墓群第51遺構。庚申塚方形墳群第1号方形墳。山伏作方形墳9号方形墳。
- 15 大竹12号墳。
- 16 東間部多4号墳。諏訪台古墳群33号墳。東間部多2号墳。東間部多1号墳。神門4号墳。大廐8号墳。大廐6号墳。大廐3号墳。西広モチ塚古墳。大廐7号墳。大廐9号墳。大廐4号墳。大廐2号墳。諏訪台古墳群7号墳。南向原古墳群1号墳。大廐5号墳。南向原古墳群6号墳。持塚古墳群2号墳。郡本C号墳。南向原古墳群2号墳。牛久3号墳。南向原古墳群7号墳。東間部多11号墳。西国吉横穴群4号横穴。西国吉横穴群7号横穴。岩横穴群1号横穴。岩横穴群3号横穴。岩横穴群4号横穴。岩横穴群6号横穴。岩横穴群8号横穴。浅間台横穴群3号横穴。浅間台横穴群6号横穴。天神台遺跡第8号周溝。武士遺跡Y—2号遺構。加茂遺跡C地点。南総中遺跡方形周溝墓H—17号。蛇谷遺跡方形周溝墓。新皇塚古墳。牛久1号墳。
- 17 すずき山遺跡4号方形周溝墓。すずき山遺跡3号方形周溝墓。戸張作12号墳。平山古墳。兼坂遺跡第3号周溝。舟塚古墳。県立コロニー内004号址。戸張作13号墳。戸張作9号墳。石神5号墳。聖人塚古墳。石神2号墳。戸張作11号墳。仁戸名3号墳。兼坂遺跡第4号周溝。石神3号墳。高品第2遺跡A地点第1号周溝。高品第2遺跡A地点第5号周溝。県立コロニー内010号址。県立コロニー内003号址。石神4号墳。兼坂遺跡第6号周溝。
- 19 夏見大塚遺跡。夏見大塚遺跡方形周溝墓。
- 21 稔台富山遺跡。
- 23 堤台遺跡。
- 25 戸張城山遺跡。
- 26 白山1号墳。水神山古墳。金塚古墳。
- 27 北作2号墳。北作1号墳。
- 29 真木ノ内古墳群1号墳。真木ノ内古墳群2号墳。真木ノ内古墳群3号墳。復山谷遺跡016方形周溝墓。
- 32 星谷津1号墳。飯合作D09。飯合作D08。飯合作1号墳。飯合作D18。飯合作D20。飯合

- 作D19。飯合作D21。飯合作D07。飯合作D10。飯合作D11。飯合作D13。飯合作D14。
飯合作D15。飯合作D16。飯合作2号墳。白井南遺跡渡戸B地点1号方形周溝墓。江原台
遺跡1号方形周溝墓。江原台遺跡2号方形周溝墓。飯合作4号墳。飯合作3号墳。飯合作
D02。飯合作D01。飯合作D03。飯合作D06。飯合作D04。大崎台遺跡方形周溝墓1号址。
飯合作D01。飯合作D05。
- 36 日吉倉遺跡1号方形周溝墓。日吉倉遺跡4区円形周溝墓。烏山2号墳。
- 39 竜角寺111号墳。
- 40 天王船塚34号墳。天王船塚4号墳。天王船塚36号墳。瓢塚45号墳。瓢塚16号墳。瓢塚9号
墳。天王船塚49号墳。瓢塚44号墳。天王船塚48号墳。天王船塚37号墳。浅間台古墳。瓢塚
32号墳。
- 42 舟塚原古墳。
- 44 野中横穴群第1号横穴。野中横穴群第9号横穴。
- 45 城山古墳群5号墳。城山古墳群1号墳。阿玉台北遺跡A—012号址。阿玉台遺跡A—004号
址。
- 47 羽計古墳群扶喰古墳。
- 53 塚原古墳群1号墳。
- 54 小川台古墳群5号墳。小川台古墳群1号墳。
- 61 埴谷古墳群1号墳。埴谷古墳群2号墳。
- 66 柚ノ木横穴群A1号横穴。
- 68 地引横穴群A2号横穴。地引横穴群B1号横穴。地引横穴群B2号横穴。油殿古墳群1号
墳。能満寺古墳。
- 71 台古墳。

〔須 恵 器〕

- 12 三条塚古墳。九条塚古墳。八丁塚古墳。姫塚。向原古墳。白姫塚。西原古墳。西谷古墳。
大満横穴群第3群7号横穴。わらび塚。虫神古墳(きさき塚)。岩瀬横穴群1号横穴。神
宿横穴群。大満横穴群第I群1号横穴。西山横穴群。大満横穴群第3群19号横穴。野々
間古墳。丸塚古墳。
- 13 花里山横穴群。
- 14 元新地(松面)古墳。清見台A—3号墳。瑠璃光塚古墳。塚の越古墳。清川村古墳。山伏
作5号墳。山伏作A—1号墳。山伏作4号墳。山伏作6号墳。新田谷地先古墳。道上谷1
号古墳。中尾横穴群西本谷A1号横穴。大山台15号墳。道上谷2号墳。金鈴塚古墳。大山
台方形墳群32号方形墳。請西遺跡A—1号周溝。
- 15 大竹12号墳。

- 16 諏訪台古墳群7号墳。南向原古墳群1号墳。南向原古墳群6号墳。持塚古墳群2号墳。郡本C号墳。南向原古墳群2号墳。牛久3号墳。東間部多11号墳。西国吉横穴群7号横穴。岩横穴群1号横穴。岩横穴群3号横穴。岩横穴群4号横穴。岩横穴群8号横穴。浅間台横穴群3号横穴。浅間台横穴群6号横穴。台遺跡B地点2号墳。六孫王原古墳。東間部多9号墳。岩横穴群2号横穴。西国吉横穴群1号横穴。西国吉横穴群5号横穴。岩横穴群9号横穴。東間部多2号墳。東間部多古墳群1号墳。大厩3号墳。西広モチ塚古墳。大厩4号墳。大厩2号墳。向原4号墳。菊間遺跡第5号周溝。菊間遺跡第3号周溝。
- 17 舟塚古墳。県立コロニー内004号址(方墳)。舟塚古墳。戸張作13号墳。高品第2遺跡A地点第1号周溝。戸張作11号墳。聖人塚古墳。戸張作9号墳。平山古墳。戸張作14号墳。県立コロニー内011号址。県立コロニー内007号址。戸張作10号墳。すすき山遺跡4号方形周溝墓。すすき山遺跡9号方形周溝墓。すすき山遺跡10号方形周溝墓。
- 21 河原塚古墳。
- 26 金塚古墳。日立精機2号墳。我孫子第4小学校古墳。中峠古墳群1号墳。中峠古墳群5号墳。日立精機1号墳。白山1号墳。
- 27 船戸古墳群2号墳。
- 29 真木ノ内古墳群1号墳。
- 30 上宿古墳。
- 31 村上古墳。
- 32 生谷遺跡A地点第3号周溝。萱橋遺跡方形周溝墓2号址。生谷境掘遺跡第1号方形周溝状遺構。
- 33 千代田遺跡V区方形周溝遺構3号址。千代田遺跡V区方形周溝遺構4号址。
- 36 烏山2号墳。
- 39 竜角寺111号墳。竜角寺92号墳(57号墳)。
- 40 天王船塚36号墳。天王船塚49号墳。瓢塚44号墳。天王船塚37号墳。天王船塚4号墳。天王船塚34号墳。瓢塚27号墳。瓢塚36号墳。瓢塚38号墳。瓢塚39号墳。瓢塚42号墳。天王船塚50号墳。瓢塚41号墳。瓢塚40号墳。天王船塚10号墳。瓢塚21号墳。
- 41 西大須賀横穴群。
- 42 舟塚原古墳。
- 44 片野古墳群1号墳。片野古墳群8号墳。
- 45 城山古墳群1号墳。城山古墳群5号墳。城山古墳群7号墳。阿玉台北遺跡A地点004号墳。A地点002号墳。阿玉台北遺跡B地点003号墳。阿玉台北遺跡A地点001号墳。阿玉台北遺跡B地点001号墳。阿玉台北遺跡A地点006号墳。
- 47 羽計古墳群扶喰古墳。
- 48 柴崎台古墳。西小川町横穴群1号横穴。

- 54 小川台古墳群4号墳。
- 55 高津原横穴群3号横穴。多古台遺跡群No.4地点。
- 57 姫塚古墳。
- 58 小池第1号墳。
- 59 燕木第5号墳(名城5号墳)。
- 61 埴谷古墳群1号墳。埴谷古墳群2号墳。
- 66 柚ノ木横穴群B1号横穴。柚ノ木横穴群A2号横穴。
- 68 地引横穴群A1号横穴。中ノ郷横穴群A1号横穴。中ノ郷横穴群A2号横穴。地引横穴群A2号横穴。地引横穴群B1号横穴。地引横穴群B2号横穴。
- 71 台古墳。

〔石 枕〕

- 16 二子塚古墳。
- 17 石神2号墳。
- 26 金塚古墳。
- 31 神野芝山4号墳。
- 32 光勝寺境内古墳。
- 40 瓢塚32号墳。
- 44 大戸川古墳。

〔立 花〕

- 16 二子塚古墳。
- 17 石神2号墳。
- 26 金塚古墳。
- 40 瓢塚32号墳。

〔石製模造品〕

- 14 道上谷2号墳。請西遺跡A-1号周溝。
- 16 大鹿3号墳。
- 17 石神2号墳。
- 21 河原塚古墳。
- 40 浅間台古墳。天王船塚36号墳。
- 44 鶴崎天神台古墳。
- 45 城山古墳群5号墳。

- 54 小川台古墳群1号墳。
- 55 多古台遺跡群 No. 4 地点。
- 67 浅間山1号墳。

〔朱・赤色料〕

- 13 八重原7号墳。
- 14 手古塚古墳。
- 16 東間部多1号墳。神門4号墳。持塚古墳群。山王山古墳。新皇塚古墳。
- 26 子の神10号墳。
- 32 飯塚古墳群16号墳。
- 57 殿塚古墳。
- 58 宝馬にわとり塚古墳（宝馬6号墳）。
- 59 大堤権現塚古墳。蕪木第5号墳（名城号墳）。
- 61 中津田古墳。

〔鏡〕

- 12 内裏塚古墳。
- 14 手古塚古墳。金鈴塚古墳。大塚山古墳。塚の越古墳。さかもり塚。鶴巻塚。
- 16 持塚古墳。富士見塚古墳。福増中学校裏古墳。山王山古墳。西広モチ塚古墳。新皇塚古墳。
- 26 金塚古墳。
- 31 神野芝山4号墳。
- 36 松の木台2号墳。
- 40 瓢塚17号墳。瓢塚16号墳。
- 44 大戸古墳。
- 45 城山古墳群1号墳。
- 67 浅間山1号墳。
- 68 能満寺古墳。
- 71 大宮氏旧宅裏山古墳（無名円墳）。

〔車輪石〕

- 14 手古塚古墳。

〔石 釧〕

- 14 手古塚古墳。
- 16 新皇塚古墳。

〔銅 釧〕

- 12 わらび塚
- 16 木戸窪古墳。郡本C号墳。
- 20 法皇塚古墳。
- 31 村上古墳。
- 40 瓢塚33号墳。
- 53 塚原古墳群4号墳。
- 60 板附所在の一円墳（板附4号墳）。

〔冠〕

- 12 わらび塚。
- 19 山王山古墳。
- 45 城山古墳群1号墳。

〔櫛〕

- 16 山王山古墳。

〔耳 環〕

- 12 九条塚古墳。八丁塚古墳。姫塚。向原古墳。白姫塚。西原古墳。虫神古墳（きさき塚）。
わらび塚。神宿横穴群。大満横穴群第3群19号横穴。丸塚古墳。野々間古墳。
- 13 南子安古墳。
- 14 清川村古墳。瑠璃光塚古墳。丸山塚古墳。新田谷地先古墳。大山台14号墳。金鈴塚古墳。
- 16 大厩2号墳。南向原古墳群6号墳。岩横穴群3号横穴。瓢箪塚古墳。福増2号墳。郡本C
号墳。山王山古墳。向原4号墳。
- 17 中原3号墳。聖人塚古墳。
- 20 法皇塚古墳。
- 26 我孫子第4小学校古墳。白山1号墳。
- 27 天神塚古墳。
- 29 真木ノ内古墳群2号墳。

- 32 大篠塚古墳。
- 37 山王古墳。
- 40 瓢塚38号墳。
- 43 地藏原古墳群1号墳。
- 44 片野古墳群8号墳。白幡古墳。
- 45 阿玉台北遺跡A地点003号墳。城山古墳群1号墳。
- 47 寺台古墳。
- 48 赤塚横穴群2号横穴。
- 52 長熊古墳。
- 53 関向古墳。塚原古墳群4号墳。
- 55 坂並白貝古墳群18号墳。
- 57 姫塚古墳。殿塚古墳。
- 58 宝馬にわとり塚古墳(宝馬6号墳)。高田古墳。山田2号墳。山田4号墳。山田1号墳。
木戸前1号墳(高田第1号墳)。
- 59 大堤権現塚古墳。蕪木第5号墳(名城5号墳)。
- 60 経僧塚古墳。
- 66 柚ノ木横穴群A1号横穴。
- 68 地引横穴群A2号横穴。

[垂耳飾]

- 14 大塚山古墳。
- 16 二子塚古墳。

[管玉]

- 12 西原古墳。八丁塚古墳。西山横穴群。
- 12 丸塚古墳。
- 13 八重原7号墳。
- 14 大山台方形墳群8号方形墳。庚申塚方形墳群第1号方形墳。手古塚古墳。瑠璃光塚古墳。
大山台21号墳。清見台B-2号墳。大山台5号墳。大山台27号墳。
- 16 瓢箪塚古墳。岩横穴群3号横穴。大厩7号墳。大厩8号墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳群
4号墳。神門4号墳。持塚古墳。新皇塚古墳。
- 17 戸張作13号墳。狐塚古墳。
- 20 法皇塚古墳。
- 26 水神山古墳。中峠古墳群4号墳。高野山1号墳。

- 27 北作 2 号墳。
- 30 小林 1 号墳。
- 31 神野芝山 2 号墳。
- 32 星谷津 1 号墳。飯合作 D08。
- 04 天王船塚 50 号墳。
- 41 木挽崎古墳群。大日山古墳群 1 号墳。
- 44 片野古墳群 4 号墳。片野古墳群 8 号墳。
- 53 塚原古墳群 4 号墳。関向古墳。神崎古墳。
- 54 小川台古墳群 5 号墳。
- 55 駒木台古墳群。
- 58 高田古墳。
- 59 大堤権現塚古墳。朝日ノ岡古墳。
- 66 柚ノ木横穴群 A 1 号横穴。

〔勾 玉〕

- 12 西山横穴群。神宿横穴群。丸塚古墳。
- 13 馬門古墳。
- 14 瑠璃光塚古墳。大山台 5 号墳。大山台 24 号墳。清川村古墳。金鈴塚古墳。庚申塚方形墳群 2 号方形墳。大山台方形墳群 8 号方形墳。
- 16 持塚古墳群 4 号墳。新皇塚古墳。
- 17 石神 2 号墳。
- 26 白山 1 号墳。
- 27 天神塚古墳。
- 31 神野芝山 2 号墳。栗谷古墳。村上古墳。
- 32 飯合作 D09。
- 35 新堀横穴群 1 号横穴。
- 40 天王船塚 50 号墳。天王船塚 8 号墳。
- 41 西大須賀横穴群。
- 44 片野古墳群 8 号墳。白幡古墳。
- 45 阿玉台北遺跡 A 地点 001 号墳。阿玉台北遺跡 A 地点 005 号墳。
- 53 塚原古墳群 1 号墳。関向古墳。神崎古墳。
- 54 小川台古墳群 5 号墳。
- 55 駒木台古墳群。
- 57 殿塚第 7 号墳。姫塚古墳。殿塚古墳。

- 58 高田古墳。
- 59 大堤権現塚古墳。
- 60 板附所在の一円墳（板附4号墳）。

〔切子玉〕

- 12 九条塚古墳。神宿横穴群。丸塚古墳。
- 13 南子安古墳。
- 14 大山台24号墳。瑠璃光塚古墳。清川村古墳。金鈴塚古墳。
- 16 福増2号墳。瓢箪塚古墳。諏訪台古墳群6号墳。
- 26 白山1号墳。
- 27 天神塚古墳。
- 31 村上古墳。
- 40 天王船塚40号墳。
- 41 木挽崎古墳群（第1次調査）。
- 44 片野古墳群8号墳。
- 45 阿玉台北遺跡A地点005号墳。
- 53 神崎古墳。
- 57 姫塚古墳。
- 59 大堤権現塚古墳。

〔棗玉〕

- 12 八丁塚古墳。丸塚古墳。
- 13 下道古墳。
- 14 鶴巻塚。瑠璃光塚古墳。金鈴塚古墳。
- 16 福増2号墳。岩横穴群3号横穴。西広モチ塚古墳。持塚古墳。西国吉横穴群4号横穴。
- 20 法皇塚古墳。
- 26 中峠古墳群4号墳。
- 30 小林1号墳。
- 31 神野芝山2号墳。栗谷古墳。
- 40 天王船塚8号墳。
- 44 白幡古墳。片野古墳群9号墳。片野古墳群8号墳。阿玉台北遺跡A地点005号墳。
- 53 神崎古墳。
- 54 小川台古墳群5号墳。
- 57 殿塚古墳。姫塚古墳。

- 58 高田古墳。
60 経僧塚古墳。

〔丸 玉〕

- 12 神宿横穴群。丸塚古墳。
14 金鈴塚古墳。庚申塚方形墳群第1号方形墳。
16 岩横穴群3号横穴。
17 仁戸名3号墳。
20 法皇塚古墳。
26 白山1号墳。中峠古墳群4号墳。
29 真木ノ内古墳群1号墳。
44 白幡古墳。片野古墳群8号墳。
54 小川台古墳群5号墳。
57 殿塚古墳。
58 小池第1号墳。
59 大堤権現塚古墳。
68 能満寺古墳。

〔小 玉〕

- 12 西谷古墳。西原古墳。九条塚古墳。丸塚古墳。
13 南子安古墳。下道古墳。
14 金鈴塚古墳。大山台方形墳群8号方形墳。手古塚古墳。庚申塚古墳群2号方形墳。大山台5号墳。塚の越古墳。大山台27号墳。大山台21号墳。清川村古墳。
16 岩横穴群3号横穴。神門A号墳。郡本C号墳。持塚古墳群4号墳。木戸窪古墳。神門4号墳。
西広モチ塚古墳。持塚古墳。西国吉横穴群4号横穴。瓢箪塚古墳。諏訪台古墳群6号墳。大鹿9号墳。大鹿5号墳。新皇塚古墳。
17 戸張作13号墳。中原3号墳。戸張作9号墳。仁戸名3号墳。
21 河原塚古墳。
22 新川村古墳群3号墳。東深井2号墳。
26 水神山古墳。高野山1号墳。
27 天神塚古墳。
30 小林1号墳。小林2号墳。下総鶴塚古墳。
31 村上古墳。栗谷古墳。

- 32 飯合作D09。飯合作1号墳。飯合作D08。
- 40 瓢塚19号墳。
- 41 木挽崎古墳群。大日山古墳群1号墳。
- 42 小松古墳。
- 44 片野古墳群9号墳。片野古墳群4号墳。片野古墳群10号墳。片野古墳群8号墳。白幡古墳。
- 45 阿玉台北遺跡A地点005号墳。阿玉台北遺跡A地点001号墳。城山古墳群1号墳。阿玉台北遺跡B地点001号墳。
- 47 羽計古墳群婆里古墳。
- 53 関向古墳。塚原古墳群4号墳。
- 54 小川台古墳群5号墳。
- 55 坂並白貝古墳群18号墳。駒木台古墳群。
- 57 殿塚古墳。姫塚古墳。
- 58 宝馬にわとり塚古墳(宝馬6号墳)。山田2号墳。山田1号墳。木戸前1号墳(高田第1号墳)。小池第1号墳。
- 59 大堤権現塚古墳。蕪木第5号墳(名城5号墳)。
- 60 不動塚古墳。経僧塚古墳。
- 68 能満寺古墳。地引横穴群B1号横穴。

〔白 玉〕

- 12 向原古墳。
- 13 馬門古墳。南子安所在の古墳(2)。小安坂古墳。
- 14 清見台B-2号墳。清見台A-4号墳。
- 16 岩横穴群3号横穴。
- 17 戸張作13号墳。石神2号墳。
- 18 鷺沼B号墳。
- 26 白山1号墳。
- 40 天王船塚36号墳。瓢塚46号墳。天王船塚32号墳。瓢塚47号墳。天王船塚33号墳。
- 41 木挽崎古墳群(第1次調査)。
- 42 舟塚原古墳。
- 44 鷓崎天神台古墳。
- 45 城山古墳群5号墳。
- 54 小川台古墳群1号墳。
- 55 多古台遺跡群 No. 4 地点。

〔空 玉〕

20 法皇塚古墳。

〔銅 玉〕

14 大山台27号墳。大山台24号墳。

〔腰 佩〕

14 元新地（松面）古墳。金鈴塚古墳。

〔鈴〕

14 鶴巻塚。稻荷森古墳。清川村古墳。丸山塚古墳。金鈴塚古墳。

40 天王船塚8号墳。瓢塚40号墳。

57 殿塚古墳。

59 諏訪塚古墳。

60 経僧塚古墳。

〔帶 金 具〕

12 西原古墳。九条塚古墳。

14 金鈴塚古墳。

20 法皇塚古墳。

27 天神塚古墳。

40 天王船塚48号墳。瓢塚40号墳。天王船塚4号墳。

45 阿玉台北遺跡A地点001号墳。

57 殿塚古墳。姫塚古墳。

〔銅 鏡〕

14 丸山塚古墳。金鈴塚古墳。

26 白山1号墳。

35 新堀横穴群1号横穴。

53 関向古墳。

〔環 頭 大 刀〕

14 元新地（松面）古墳。金鈴塚古墳。

- 16 山王山古墳。
- 40 浅間台古墳。
- 45 城山古墳群1号墳。
- 53 関向古墳。

〔頭椎大刀〕

- 14 金鈴塚古墳。
- 45 城山古墳群1号墳。
- 53 関向古墳。
- 59 大堤権現塚古墳。

〔圭頭大刀〕

- 14 鶴巻塚。金鈴塚古墳。
- 59 大堤権現塚古墳。

〔方頭大刀〕

- 14 元新地（松面）古墳。金鈴塚古墳。
- 40 瓢塚40号墳。
- 57 姫塚古墳。

〔円頭大刀〕

- 12 野々間古墳。
- 14 鶴巻塚。金鈴塚古墳。
- 45 城山古墳群1号墳。
- 58 山田4号墳。

〔劍〕

- 12 白姫塚。弁天山古墳。三条塚古墳。九条塚古墳。内裏塚古墳。
- 13 馬門古墳。
- 14 清見台A—4号墳。鹿島塚20号墳。矢畑1号墳。さかもり塚。手古塚古墳。
- 15 大竹12号墳。
- 16 東間部多1号墳。神門4号墳。大麿5号墳。神門A号墳。持塚4号墳。東間部多2号墳。
新皇塚古墳。
- 17 石神2号墳。仁戸名3号墳。

- 21 河原塚古墳。
- 27 北作1号墳。
- 30 下総鶴塚古墳。
- 36 烏山2号墳。
- 40 天王船塚48号墳。瓢塚22号墳。瓢塚47号墳。瓢塚32号墳。瓢塚29号墳。天王船塚5号墳。
- 41 大日山古墳群1号墳。木挽崎古墳群。
- 44 鶺鴒天神台古墳。
- 54 小川台古墳群1号墳。
- 55 多古台遺跡群 No. 4 地点。坂並白貝古墳群18号墳。
- 60 板附2号墳。
- 67 浅間山1号墳。
- 68 能満寺古墳。
- 71 高谷古墳群3号墳。

〔直 刀〕

- 2 相の沢古墳群。
- 10 広場古墳群1号墳。
- 12 八丁塚古墳。虫神古墳（きさき塚）。向原古墳。白姫塚。西山横穴群。岩瀬横穴群1号横穴。大満横穴群第1群1号横穴。一本松古墳。西原古墳。割見塚古墳。内裏塚古墳。九条塚古墳。三条塚古墳。弁天山古墳。丸塚古墳。野々間古墳。
- 13 小安坂古墳。南子安所在の古墳。花里山横穴群。堀込古墳。南子安古墳。下道古墳。空師古墳。馬門古墳。八重原6号墳。
- 14 瑠璃光塚古墳。清見台A—5号墳。下郡古墳。丸山塚古墳。庚申塚6号墳。大山台14号墳。道上谷2号墳。大山台1号墳。稲荷森古墳。清川村古墳。大山台27号墳。大山台5号墳。大山台21号墳。大山台15号墳。清見台B—1号墳。さかもり塚。清見台A—4号墳。矢畑1号墳。手古塚古墳。
- 16 原1号墳。南向原古墳群3号墳。諏訪台古墳群6号墳。浅間台横穴群6号横穴。山王山古墳。岩横穴群3号横穴。木戸窪古墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。大厩2号墳。大厩4号墳。六孫王原古墳。富士見塚古墳。郡本C号墳。荻作1号墳。南向原2号墳。東間部多1号墳。新皇塚古墳。
- 17 仁戸名2号墳。戸張作8号墳。戸張作14号墳。戸張作11号墳。中原3号墳。戸張作9号墳。聖人塚古墳。中原4号墳。中原5号墳。中原1号墳。仁戸名3号墳。
- 18 鷺沼B号墳。
- 20 法皇塚古墳。

- 21 竹ヶ花古墳。河原塚古墳。
- 22 東深井 6 号墳。初石古墳群 4 号墳。新川村古墳群 3 号墳。東深井 2 号墳。東深井 3 号墳。
- 25 天神台古墳群 2 号墳。
- 26 高野山 4 号墳。高野山 2 号墳。子の神10号墳。高野山 1 号墳。白山 2 号墳。白山 1 号墳。
- 27 船戸古墳群 2 号墳。船戸古墳群 1 号墳。天神塚古墳。北作 1 号墳。
- 29 真木ノ内古墳群 1 号墳。平塚船戸古墳。海老内台古墳。
- 30 小林 1 号墳。下総鶴塚古墳。
- 31 栗谷古墳。神野芝山 4 号墳。村上古墳。
- 32 石神第 1 地点 2 号墳。石川 1 号塚。大篠塚古墳。飯塚古墳群16号墳。
- 35 新堀横穴群 1 号横穴。
- 39 竜角寺92号墳 (57号墳)。竜角寺111号墳。
- 40 浅間台古墳。天王船塚37号墳。天王船塚36号墳。天王船塚 4 号墳。天王船塚10号墳。瓢塚 41号墳。天王船塚34号墳。瓢塚19号墳。長田古墳群第 1 号墳。天王船塚 5 号墳。
- 41 木挽崎古墳群。西大須賀横穴群。
- 42 小松古墳。
- 43 地藏原古墳群 1 号墳。
- 44 白幡古墳。片野古墳群 8 号墳。片野古墳群23号墳。鶴崎天神台古墳。大戸古墳。片野古墳 群11号墳。
- 45 阿玉台北遺跡B地点001号墳。阿玉台北遺跡A地点005号墳。阿玉台北遺跡A地点006号墳。 城山古墳群 1 号墳。城山古墳群 4 号石棺。
- 48 小舟木横穴群 1 号横穴。赤塚横穴群 1 号横穴。野尻古墳群。柴崎台古墳。
- 53 関向古墳。神崎古墳。塚原古墳群 4 号墳。
- 54 小川台古墳群 5 号墳。小川台古墳群 4 号墳。
- 55 坂並白貝古墳群20号墳。坂並白貝古墳群66号墳。駒木台古墳群。坂並白貝古墳群21号墳。 坂並白見古墳群18号墳。多古台遺跡群 No. 4 地点。
- 57 殿塚第 7 号墳。取立古墳。殿塚古墳。姫塚古墳。
- 58 小池第 1 号墳。木戸前 1 号墳 (高田第 1 号墳)。山田 4 号墳。山田 2 号墳。宝馬にわとり 塚古墳 (宝馬 6 号墳)。高田古墳。山田 4 号墳。
- 59 蕪木第 5 号墳 (名城 5 号墳)。
- 60 板附所在の一円墳 (板附 4 号墳)。経僧塚古墳。
- 61 埴谷古墳群 1 号墳。埴谷古墳群 2 号墳。中津田古墳。
- 67 浅間山 1 号墳。
- 68 地引横穴群A 1 号横穴。
- 71 高谷古墳群 3 号墳。台古墳。打岡台古墳群 1 号墳。

三 輪 玉

67 浅間山1号墳。

〔銅 鏃〕

14 手古塚古墳。

16 牛久1号墳

17 石神4号墳。

27 北作1号墳。

32 飯合作1号墳。

68 能満寺古墳。

〔鉄 鏃〕

10 広場古墳群1号墳。

12 岩瀬横穴群3号横穴。大満横穴群第I群2号横穴。わらび塚。神宿横穴群。弁天山古墳。八丁塚古墳。虫神古墳(きさき塚)。向原古墳。姫塚。西山横穴群。岩瀬横穴群1号横穴。大満横穴群第I群1号横穴。西原古墳。割見塚古墳。内裏塚古墳。九条塚古墳。野々間古墳。丸塚古墳。

13 南子安所在の古墳。馬門古墳。南子安古墳。下道古墳。八重原7号墳。八重原6号墳。

14 大山台6号墳。塚の越古墳。元新地(松面)古墳。中尾横穴群西本谷5号横穴。鶴巻塚。清見台B-2号墳。山伏作6号墳。下郡古墳。丸山塚古墳。庚申塚6号墳。大山台14号墳。清川村古墳。大山台1号墳。道上谷2号墳。清見台B-1号墳。大山台15号墳。大山台21号墳。大山台5号墳。大山台27号墳。金鈴塚古墳。大塚山古墳。手古塚古墳。

16 牛久3号墳。荻作1号墳。郡本C号墳。富士見塚古墳。六孫王原古墳。大廐4号墳。大廐2号墳。南向原古墳群2号墳。持塚古墳。東間部多1号墳。福増1号墳。南向原古墳群1号墳。神門A。神門4号墳。西国吉横穴群6号横穴。南向原古墳群4号墳。郡本A墳。西国吉横穴群7号横穴。二子塚古墳。西国吉横穴群4号横穴。瓢箪塚古墳。岩横穴群4号横穴。南向原古墳群3号墳。西広モチ塚古墳。岩横穴群3号横穴。山王山古墳。菊間遺跡第3号周溝。向原3号墳。向原4号墳。新皇塚古墳。

17 中原2号墳。戸張作8号墳。仁戸名2号墳。聖人塚古墳。中原1号墳。中原5号墳。戸張作9号墳。中原4号墳。戸張作11号墳。戸張作14号墳。

18 鷺沼B号墳。

20 法皇塚古墳。

21 竹ヶ花古墳。河原塚古墳。

- 22 東深井3号墳。東深井11号墳。
- 26 高野山3号墳。高野山4号墳。高野山2号墳。子の神10号墳。高野山1号墳。白山1号墳。
- 27 北作1号墳。天神塚古墳。船戸古墳群1号墳。船戸古墳群2号墳。
- 29 海老内台古墳。平塚船戸古墳。
- 30 下総鶴塚古墳。小林1号墳。小林4号墳。小林2号墳。
- 31 村上古墳。栗谷古墳。神野芝山2号墳。
- 32 大篠塚古墳。石川1号塚。石神第1地点2号墳。
- 35 新堀横穴群1号横穴。
- 36 烏山2号墳。
- 40 長田古墳群第1号墳。天王船塚34号墳。瓢塚41号墳。天王船塚4号墳。天王船塚37号墳。浅間台古墳。瓢塚23号墳。天王船塚5号墳。瓢塚35A号墳。瓢塚35B号墳。天王船塚40号墳。瓢塚32号墳。瓢塚29号墳。天王船塚46号墳。瓢塚48号墳。天王船塚8号墳。瓢塚27号墳。瓢塚40号墳。瓢塚33号墳。木挽崎古墳群(第1次調査)。
- 43 地藏原古墳群1号墳。
- 44 白幡古墳。片野古墳群23号墳。木戸古墳。片野古墳群11号墳。片野古墳群10号墳。
- 45 阿玉台北遺跡A地点001号墳。城山古墳群1号墳。城山古墳群6号墳。
- 47 羽計古墳群扶喰古墳。
- 48 小舟木横穴群1号横穴。赤塚横穴群1号横穴。野尻古墳群(第1次調査)。
- 53 関向古墳神。崎古墳。
- 54 小川台古墳群5号墳。小川台古墳群4号墳。小川台古墳群1号墳。
- 55 坂並白貝古墳群20号墳。駒木台古墳群。坂並白貝古墳群18号墳。多古台遺跡群 No.4地点。
- 58 小池第1号墳。
- 59 大堤権現塚古墳。
- 61 埴谷古墳群1号墳。埴谷古墳群2号墳。中津田古墳。
- 67 浅間山1号墳。
- 68 地引横穴群A1号横穴。地引横穴群A2号横穴。地引横穴群B1号横穴。
- 71 大宮氏旧宅裏山古墳(無名円墳)。

[矛 ・ 鎗]

- 12 九条塚古墳。内裏塚古墳。
- 13 八重原6号墳。
- 14 金鈴塚古墳。

- 16 神門4号墳。
- 30 下総鶴塚古墳。
- 40 天王船塚4号墳。天王船塚5号墳。
- 44 大戸川古墳。

〔 冑 〕

- 14 鶴巻塚。さかもり塚。大塚山古墳。金鈴塚古墳。
- 25 法皇塚古墳。
- 45 城山古墳群1号墳。

〔 短 甲 〕

- 13 八重原6号墳。
- 16 二子塚古墳。東間部多1号墳。
- 26 金塚古墳。
- 36 烏山2号墳。

〔 挂 甲 〕

- 14 金鈴塚古墳。大塚山古墳。
- 16 二子塚古墳。
- 20 法皇塚古墳。
- 45 城山古墳群1号墳。

〔 胡 籙・鞞 〕

- 16 山王山古墳。富士見塚古墳。
- 60 経僧塚古墳。
- 67 浅間山1号墳。

〔 斧 〕

- 12 神宿横穴群。内裏塚古墳。
- 13 馬門古墳。八重原6号墳。
- 14 手古塚古墳。
- 16 持塚古墳群4号墳。新皇塚古墳。
- 27 北作1号墳。
- 40 天王船塚36号墳。瓢塚17号墳。

- 41 大日山古墳群 1 号墳。
- 44 鷗崎天神台古墳。
- 54 小川台古墳群 1 号墳。
- 55 多古台遺跡群 No. 4 地点。
- 60 板附 2 号墳。
- 68 能満寺古墳。

〔 鎌 〕

- 12 内裏塚古墳。
- 13 八重原 6 号墳。
- 16 新皇塚古墳。
- 17 中原 4 号墳。石神 2 号墳。
- 40 瓢塚 32 号墳。

〔 鍬 ・ 鋤 〕

- 16 新皇塚古墳。
- 21 河原塚古墳。

〔 鋸 〕

- 12 神宿横穴群。西山横穴群。

〔 鑿 〕

- 16 新皇塚古墳。

〔 針 〕

- 12 大満横穴群第 1 群 1 号横穴。
- 26 水神山古墳。
- 45 城山古墳群 1 号墳。
- 55 多古台遺跡群 No. 4 地点。

〔 鍤 〕

- 16 持塚 4 号墳。神門 4 号墳。南向原古墳群 3 号墳。新皇塚古墳。
- 27 北作 1 号墳。
- 68 能満寺古墳。

〔刀 子〕

- 12 西谷古墳。岩瀬横穴群3号横穴。弁天山古墳。神宿横穴群。向原古墳。虫神古墳（きさき塚）。八丁塚古墳。岩瀬横穴群1号横穴。丸塚古墳。
- 13 馬門古墳。花里山横穴群。南子安古墳。下道古墳。八重原7号墳。八重原6号墳。
- 14 大山台24号墳。道上谷1号墳。清見台A—8号墳。鹿島塚20号墳。大山台5号墳。大山台21号墳。大山台15号墳。下郡古墳。大山台14号墳。金鈴塚古墳。手古塚古墳。大山台方形周溝墓群第57遺構。
- 15 大竹12号墳。
- 16 岩横穴群1号横穴。持塚古墳群4号墳。南向原古墳群3号墳。山王山古墳。富士見塚古墳。福増中学校裏古墳。岩横穴群3号横穴。瓢箪塚古墳。西国吉横穴群4号横穴。南向原古墳群2号墳。持塚古墳。六孫王原古墳。郡本C号墳。福増2号墳。南向原古墳群4号墳。東間部多1号墳。木戸窪古墳。原1号墳。諏訪台古墳群7号墳。浅間台横穴群3号横穴。向原3号墳。菊間遺跡第3号周溝。新皇塚古墳。
- 17 中原4号墳。石神2号墳。戸張作14号墳。戸張作11号墳。戸張作9号墳。中原5号墳。仁戸名2号墳。戸張作8号墳。中原2号墳。戸張作13号墳。仁戸名3号墳。
- 18 鷺沼B号墳。
- 20 太鼓塚古墳。法皇塚古墳。
- 21 河原塚古墳。
- 22 東深井2号墳。東深井11号墳。東深井8号墳。
- 26 高野山4号墳。白山1号墳。高野山1号墳。高野山2号墳。水神山古墳。
- 27 船戸古墳群1号墳。天神塚古墳。
- 29 海老内台古墳。
- 30 下総鶴塚古墳。
- 31 栗谷古墳。神野芝山2号墳。
- 32 大篠塚古墳。石神第1地点2号墳。
- 36 松ノ木台2号墳。
- 37 山王古墳。
- 40 瓢塚39号墳。瓢塚33号墳。瓢塚15号墳。天王船塚4号墳。瓢塚23号墳。浅間台古墳。天王船塚32号墳。瓢塚22号墳。瓢塚47号墳。長田古墳群第1号墳。天王船塚34号墳。天王船塚37号墳。瓢塚32号墳。天王船塚8号墳。天王船塚46号墳。瓢塚29号墳。瓢塚9号墳。
- 41 大日山古墳群1号墳。西大須賀横穴群。
- 43 地藏原古墳群1号墳。
- 44 片野古墳群9号墳。鵜崎天神台古墳。片野古墳群10号墳。片野古墳群11号墳。白幡古墳。

- 45 阿玉台北遺跡B地点001号墳。城山古墳群6号墳。
- 48 小舟木横穴群1号横穴。赤塚横穴群1号横穴。
- 53 塚原古墳群4号墳。塚原古墳群1号墳。関向古墳。
- 54 小川台古墳群5号墳。小川台古墳群1号墳。
- 55 多古台遺跡群 No.4 地点。坂並白貝古墳群18号墳。駒木台古墳群。坂並白貝古墳群20号墳。
- 57 姫塚古墳。殿塚古墳。
- 58 宝馬にわとり塚古墳(宝馬6号墳)。山田2号墳。木戸前1号墳(高田第1号墳)。
- 59 大堤権現塚古墳。諏訪塚古墳。蕪木第5号墳(名城5号墳)。
- 60 板附2号墳。経僧塚古墳。
- 61 埴谷古墳群1号墳。埴谷古墳群2号墳。
- 67 浅間山1号墳。
- 68 地引横穴群A1号横穴。

〔 釘 〕

- 12 西山横穴群。わらび塚。割見塚古墳。野々間古墳。
- 13 花里山横穴群。
- 14 金鈴塚古墳。大山台方形周溝墓群第57遺構。
- 16 浅間台横穴群3号横穴。塚の台2号墳。牛久3号墳。
- 21 河原塚古墳。
- 29 平塚船戸古墳。
- 45 城山古墳群6号墳。城山古墳群7号墳。
- 57 姫塚古墳。
- 59 蕪木第5号墳(名城5号墳)。
- 60 不動塚古墳。

〔 砥 石 〕

- 14 大山台6号墳。
- 16 西広モチ塚古墳。六孫王原古墳。
- 30 下総鶴塚古墳。
- 39 竜角寺92号墳(57号墳)。

〔 紡 錘 車 〕

- 14 手古塚古墳。

16 西広モチ塚古墳。

17 戸張作9号墳。

42 舟塚原古墳。

〔 轡 〕

12 西原古墳。九条塚古墳。八丁塚古墳。丸塚古墳。

14 鶴巻塚。金鈴塚古墳。

16 瓢箪塚古墳。二子塚古墳。

20 法皇塚古墳。

40 瓢塚41号墳。瓢塚39号墳。天王船塚4号墳。天王船塚50号墳。

44 大戸川古墳。

45 城山古墳群1号墳。

47 羽計古墳群扶喰古墳。

53 関向古墳。

57 姫塚古墳。

58 宝馬にわとり塚古墳（宝馬6号墳）。

60 経僧塚古墳。

71 横山古墳群2号墳。

〔 鞍 〕

12 わらび塚。岩瀬横穴群1号横穴。

14 塚の越古墳。金鈴塚古墳。

20 法皇塚古墳。

45 城山古墳群1号墳。

〔 鐙 〕

12 三条塚古墳。丸塚古墳。

20 法皇塚古墳。

40 瓢塚39号墳。天王船塚4号墳。

45 城山古墳群1号墳。

54 小川台古墳群5号墳。

〔 辻金具・雲珠 〕

12 西原古墳。九条塚古墳。岩瀬横穴群1号横穴。

- 14 鶴巻塚。金鈴塚古墳。
- 16 瓢箪塚古墳。六孫王原古墳。
- 20 法皇塚古墳。
- 44 大戸川古墳。
- 45 城山古墳群 1 号墳。
- 53 関向古墳。
- 57 姫塚古墳。
- 58 宝馬にわとり塚古墳 (宝馬 6 号墳)。
- 59 燕木第 5 号墳 (名城 5 号墳)。
- 71 横山古墳群 2 号墳。

千葉県文化財センター研究紀要 4

昭和54年3月31日 発行

著作権所有者 財団法人 千葉県文化財センター
発行者 千葉市亥鼻1丁目3番13号
電話 千葉 (0472)25-6478

印刷所 株式会社 弘報社 印刷
